

SOCIAL ACTION REPORTS 2019-2020

-ソーシャルアクション報告書2019-2020-



WE FREE THE CHILDREN

WE DAY community JPN

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
2020年3月22日 初版発行

TABLE OF CONTENTS

-目次-

はじめに	003
アクションインパクト～数字で見るアクション～	004
アクションレポート2019-2020	
小学生の部（6件）	005
特別付録：クレイグ・キールバーガーからのメッセージ	010
中学生の部（25件）	011
高校生の部（105件）	031
大学生／社会人の部（15件）	105
団体の部（9件）	119
その他	128
アクションキャンペーンのご案内	
WE Create Change	130
WE Share Cards	131
WE Book Better World	132
WE Scare Hunger	133
WE Original Action	134

本年は266組からアクションの報告を頂き、数値成果を作成しております。
本報告書は、その中でも詳しいご報告を頂いている160組のアクションをご紹介します。

MESSAGE FROM FTCJ

-はじめに-

まず最初に、より良い社会や世界のために、何らかの行動を起こし、その内容をご報告下さった全ての皆さんに、心からの感謝を申し上げます。

「ソーシャルアクション報告書」は2020年3月20日に日本で初開催予定だった、「WE Day Japan」への参加に向けて、2019年1月～2020年2月の間に、社会を良くしたい、世界を平和にしたい、誰かを助けたい、などと考えるだけではなく、実際に行動を起こした25歳以下の子どもや若者約600人から報告いただいたアクションをSDGs(持続可能な開発目標)と紐づけてまとめたものです。

「WE Day」は2007年にフリー・ザ・チルドレンのカナダ本部(現WE)が社会貢献活動に取り組んだ子どもたち約7000人を集めてトロントで開催したのを皮切りに、カナダの他、アメリカやイギリスの15以上の主要都市で開催されるようになった世界的ライブイベントです。

私たちフリー・ザ・チルドレン・ジャパン(FTCJ)は、20年前から子どもには世界を変える力があることを伝え、子どもが社会問題の解決に取り組めるよう応援する活動を続けてきました。活動を通じ、多くの子どもや若者がチェンジメーカーとして変化を起こす姿を見て、彼らのアクションや想いを称え、祝いたい、そして自分が動いても社会は変わらないと感じている日本の子どもを少しでも減らしたいという気持ちから、「WE Day」を開催しようと様々な方にご協力いただきながら準備を重ねてきました。しかし、新型肺炎ウィルスの感染拡大に伴い、非常に残念ながら今年の開催は見送ることになりました。WE Dayの初開催を楽しみに、ソーシャルアクションのご報告を送って下さった皆さんと会場でお会いできず皆さんの素晴らしいアクションを称えることができず、大変悔しいです。

皆さんから報告いただいたアクションは、どれも大切な尊い活動ばかりで、メッセージも示唆に富んだ深いものが多く、感銘を受けました。例えば、国際問題に取り組むために、海外を訪問して現場をみたり、国内の問題であれば、専門家や当事者に話を聞くなどし、ネットで得られる情報だけに頼らないようにしている皆さんの姿勢は非常に重要です。また、ディスカッションなどを通じて多様な考えに触れて、理解しあうことに重きを置く取り組みも意義深く、共有や共感が積み重なって、大きな変化を起こすものだと思うので、貴重な活動だと思いました。「自分一人ではできないことも、賛同してもらったり、協力してもらうことで、大きな力になる。全部ひとりでやろうとしないでいいと思った。」や、「個々の能力は全く違うものだが繋がれば大きな力になる」「一人で解決しようとせず、第三者にも相談してよい」というメッセージも重要な気づきだと思いました。全部ひとりでやろうとすると、しんどくなってしまうこともあると思います。周りに相談したり、仲間を探したり、私たちFTCJに気軽に相談しながら楽しみながらアクションに取り組んでください。その他にも、たくさんの勇気づけられるメッセージが紹介されていますので、多くの方にご覧いただけたら幸いです。

最後に、報告書作成にあたり、ご協力下さった皆様にお礼申し上げます。特に、FTCJユースアンバサダーの皆さん、事務局のフロンティア・インターナショナルの皆さん、内容をまとめるなど作業をして下さったFTCJインターンの紫藤聖也さん、宇山諒さん、高柳薫香さん、FTCJ兼Wake Up Japanの鈴木洋一さん、編集リードしてくれた伊藤菜々美さん、鈴木悠仁子さん、本当にご苦勞様でした、そしてありがとう!

NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン代表 中島早苗

ACTION IMPACTS

—数字で見るアクション—



▼寄付やボランティア、活動への参加などアクションのインパクトを受けた団体（順不同・自治体は省略）

日本ユニセフ協会、図書館復興財団、WWF、Robotex International、シリア・オスマニア小学校、富士聖ヨハネ学園、長野県上田市NPO、国境なき医師団、ようがこども食堂、日韓アジア基金、わかちあいプロジェクト、東京グレートサンタラン、JICA、DNA、地産地消を進める会、子ども食堂甲府、フードバンク山梨、日本赤十字社、ボーイスカウト、ごみゼロナビゲーション、ヒューマンライツ・ナウ、広げよう！子どもの権利条約キャンペーン、かものはしプロジェクト、ハンガー・フリー・ワールド、iPledge、ACE、GLOBAL Social Leaders、みんなの表彰台プロジェクト、ベジプロジェクトジャパン、トーゴ共和国大使館、メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン、アジアキリスト教教育基金、FTSN関東、世界の子どもにワクチンを日本委員会、犬猫みなしご救援隊、難民支援協会、TOTTORI BLUE BIRDS、宇都宮西ロータリークラブ、みらいキッズ、日本財団、Fridays For Future (東京・名古屋)、グリーンバード渋谷、UNHCR (ユニクロ)、地域活動センターきたのぼ、セーブ・ザ・チルドレン、レモネードスタンド普及協会、ワールド・ビジョン、風に立つライオン基金 (高校生ボランティアアワード)、目黒区心身障害者福祉センター、タイ・ワットサケーオスクール、障害者施設はなもも、Toshiba Youth Club Asia、フードバンクインドネシア、国連WFP、日本ファンドレイジング協会、D×P、ガールスカウト、プラン・インターナショナル、家庭犬使役犬訓練協会、世界一大きな授業 (JNNE)、WE、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

その他メンバー：家族

報告者

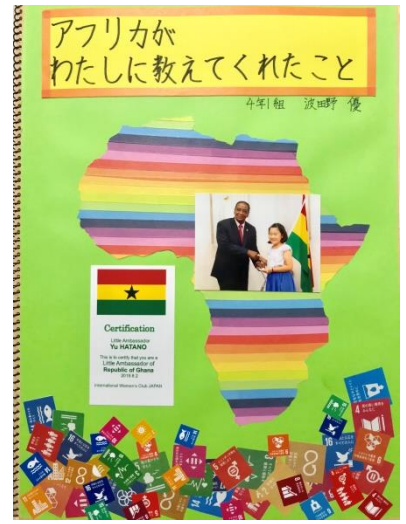
波田野優

社会問題
&
アクション

汚れた水を飲料水として飲んでいる人々のこと。教育環境が整っていない地域に暮らす子供たちのこと。

第23回全国調べる学習コンクールの「アフリカがわたしに教えてくれたこと」で奨励賞を受賞した。その中でSDGsの貧困、水と教育について扱い深い学びに取り組めたこと、作品を読んでくれた人にメッセージを伝えることができた。また、取り組みの一つに自分の活動を交えた募金活動を行い、ユニセフ支援ギフトを送ることができた。

期間：2019年7月24日～2019年8月31日



アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

寄付12,755円(約30人が協力してくれた)
ケニアの兄妹の通学路体験のために歩いた距離19.9km(27,298歩)

なぜこの問題&アクションなのか

汚れた水を飲むことで衛生的な環境が保たれない。多くの人が病気になる。貧困環境により子供たちが十分な教育を受けられず、貧困から抜け出せない地域社会ができる。理解を深めれば行動につながる。

工夫したこと/達成したこと

多くの人に自分の調べたことや気持ちを伝えることができた。

困難だったこと/次回に向けて


今年は貧困、水と教育以外のSDGsのことについて調べて、また沢山のの人にメッセージを伝えるためにがんばりたい！！

学びメッセージ

自分が日本で何の問題もなく普通に学校に行き、勉強していることが世界的に見るととても恵まれていて、自分は幸せなんだと気づいた。自分1人ではできないことも、自分の考えや取り組んだことを伝えて、賛同してもらえれば大きな力に繋がるのが分かった。

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 質の高い人権と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 安全なエネルギーをみんなに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	白井咲羽	その他メンバー：家族
社会問題 & アクション	<p>貧困で困っている地域の子供たちを助けるため、募金用の貯金箱にお金を貯めてユニセフに寄付した。</p> <p>期間：2020年2月5日</p>	
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	寄付1,250円	
なぜこの問題 & アクションなのか	栄養が足りなくて亡くなってしまったり病気でもしっかりと治療が受けられない子供をすこしでも助けたい。少しでも安全に暮らせる子供を増やしたい。	
工夫したこと / 達成したこと	貯金する為に家族にも協力をお願いした。	
困難だったこと / 次回に向けて	世界の困っている子供たちの事について、まだまだ勉強が足りないと感じる。もっと世界の事について勉強したい。	
学びメッセージ	継続して支援することが大切だということ。	

関連SDGs

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を實現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナリシップで目標を達成しよう



関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	澤田京之介			その他メンバー：家族	
				在住：東京都	
社会問題 & アクション	①食品ロス問題：こども食堂や学校の仲間への啓発、自由研究で食品ロスを扱い啓発、食べ残しNOゲームのマスターとしてゲームを通じ同世代の小学生から意識を高めるリーダー活動 ②発達障害、凸凹だからこそ未来創出：自身の経験も踏まえ発達特性を社会貢献へと親子でSNS発信、発達障害児のマイクラ会（週一）/ミニ四駆会/粘土陶芸会企画開催 ③環境問題：WWFジュニア会員として主に野生生物の保護活動について勉強、多摩川生態保護活動：絶滅危惧種、外来種生物を調べ保全 その他イベント多数参加・定期的にフリーマーケット活動を実施 期間：2019年11月28日～12月7日		アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
			数値成果	約50人へ啓発、12か所で活動	
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ		
地球環境破壊につながる一つのことを常にリンクして考えていかないとSDGSさえ矛盾してしまうと考え、各分野の問題意識が高い子供たちがしっかりタッグを組んで話し合い行動を共にしていかなばと思います。	まず自らの生活に問題を持ち、学校や地域で発表するように心掛けました。また、大人の活動家と出会うためイベントに積極的に参加するため学校に許可を頂いて休みをもらったりしました。そのお陰で知識だけではなく、実際自分ができることが増え、大人に認められ求められるようになっていけばと思う。	時間が圧倒的に足りません。学校に行く時間さえ問題です。活動と学業の両立が難しい。また、仲間を募ることが困難です。	常に前向きに取り組むことが必要で失敗はこどものうちと割り切って発言できる。		

報告者	常田祐大			その他メンバー：家族	
				在住：東京都	
社会問題 & アクション	予防接種をみんなができるようになればいいなと思い、本棚お助け隊へ本を送り、寄付にしました。 期間：2020年2月11～12日		アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
			数値成果	本10kg	
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ		
僕の弟は、生まれた時にNICUに行きました。死んでしまうかもと僕はとても怖かったです。今はとても元気です。そうやって、助かる子がいると聞いたので、みんなに予防接種してほしいと思っています。	おうちの本を一生懸命みんなで探しました。	どうい本がいいのか、迷いました。他になにができるかなあと思いました。	もっと僕ができることを頑張っていきたいです。		

報告者	片岡嗣葉			その他メンバー：家族 在住：東京都
社会問題 & アクション	学習レベルの格差問題 小学校一年生のときからやっているロボティクスとプログラミングの知識を使って、世界に仲間をつくり、将来問題を解決していこうと思ったので、友達作りの第一歩に2019年の冬、エストニアとオランダに行って作品のプレゼンをしてきました。 期間：2019年11月28日～12月7日	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	エストニアで100人と交流 オランダで30人に対しプレゼン	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
こどもの学習レベルの格差が世界であると思うから、それをなくせるように、これからいろんな国でロボティクスやプログラミングのワークショップを開きたいです。	英語は難しいけど、世界の人と作ったロボットを使い交流できたこと	言葉、もっと英語が上手になったら改善する。仲間、世界の人とたくさん出会って仲間をつかって大きな問題を解決したい。 2020年の秋にアフリカにいてみようと思っています。	とにかくやってみて、仲間に出会えば難しいことも解決したり問題が簡単になるとわかった。	

報告者	宮島京子			その他メンバー：家族 在住：東京都
社会問題 & アクション	発展途上国の貧困問題解決のため、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンのボランティアをした。(フェアトレードのドライマンゴーの、賞味期限スタンプを押し、ラベル貼りなど) 期間：2019年12月25日	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	100袋完成	

関連SDGs

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を促進しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



MESSAGE FROM CRAIG

-創設者クレイグ・キールバーガーからのメッセージ-



**フリー・ザ・チルドレン創設者のクレイグからの
WE Day Japan参加者へ向けたメッセージ動画を
ソーシャルアクションレポートをご覧の皆様限定公開！**

上記サムネイルか、下記URLからご覧ください。

<https://youtu.be/WGmbqNuGoEY>

■クレイグのソーシャルアクションストーリー

1995年、カナダに住む12歳のクレイグはある朝、偶然ひとつの新聞記事を目にしました。パキスタンのカーペット工場で過酷な労働を行っていた自分と同年の少年が、NGOの助けで工場を脱出し、その後「児童労働反対」を訴えていましたが、ある時何者かに射殺されてしまったという内容でした。クレイグは、これを読んで強いショックを受けました。

クレイグは、同じ子どもの問題なら、自分たち子どもたちで取り組もうと、Free The Childrenを設立。その後、児童労働の現状を学ぶため、南アジア5か国をまわる旅をし、その体験を本にまとめ、活動を徐々に広げていったのです。

やがて国際的なネットワークとして広がり、世界中の370万人以上の子ども・若者が活動する世界一大きな社会貢献組織となりました。このような活動が認められ、クレイグは「世界情勢フォーラム賞」「世界の子ども賞」など多数の賞を受賞するとともに、過去3回「ノーベル平和賞」の候補にもなっています。また、団体の創設者として、今も精力的に世界をとびまわっています。

ACTION REPORTS

-中学生の部-

**GET
DOING!**

実施メンバー：計4人

報告者

読売新聞 ジュニア記者

塚原瑠奈、斉田歩、伊藤志穂菜、青木咲良

社会問題
&
アクション

いじめ問題

読売新聞のジュニア記者として山崎聡一郎さんの「こども六法」取材・夕刊にて紹介した。

期間 2019年10月22日



アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・**啓発活動**・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

読売新聞夕刊1記事

なぜこの問題&アクションなのか

いじめによって失われる命を減らす
自分には生きる権利・愛される権利があるということを伝える

工夫したこと/達成したこと

困難だったこと/次回に向けて

学びメッセージ

- ・いじめの多くはいじめだという自覚がなく、自分の言動を振り返ることが大切
- ・いじめを目撃したら/被害に遭ったら一人で解決しようとせず第三者にも相談をすべき

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 質の高い教育をみんなに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>坂口くり果</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：個人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>日本の家庭内暴力やいじめなどの子どもの権利条約侵害問題 ⇒母子手帳に子どもの権利条約を載せるために、区に対してアドボカシーを実施し、2019年4月から世田谷区の母子手帳に掲載されるようになりました。</p> <p>期間：2017年11月～現在</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>世田谷区の1区で掲載が開始</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>やはり最近よくニュースで耳にするような家庭内暴力で子どもが亡くなってしまうケースは、お母さんが子どもの権利条約を知らないということが問題なのだと思います。だから、このアクションによってたくさんの人が子どもの権利条約を知り、少しでも辛い思いをする子どもが減ることを願っています。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>FTCJの方々のご協力を経て、区長に直接お願いしにいくことができ、実現できた。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>この活動はまだこれからも続けようと思っています。私がこのアクションを実現できたのはまだ私の住む世田谷区のみです。だから今度は東京都、関東、そして日本中へこの活動を広め、実現させたいです。そして規模を大きくしていくと同時に同世代の仲間も増やしていきたいです。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>何かアクションを起こすことはとても時間がかかるし、難しいかもしれないけれど、どんなに小さくてもその力は絶対に社会の役に立っているのだということを学びました。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者

Sustainable Game
山口由人

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

社会問題
&
アクション

日本においてSDGsの本質である「人が変わる
こと(教育)」を阻む壁、学歴に囚われた信用を
得るシステム、地方の教育格差、日本の社会起
業家不足を解決しています。また、SDGsアク
ションを起こしている中高生同士、企業や行政
とのネットワークが薄いという課題を解決して
います。同時にSDGs全てに関わる各プロジェ
クトの支援を行うことを通して数多くの社会問
題や課題の解決に勤めています。



(例：
イベントで出す弁当を竹製の容器でウィーガン食にする。企業と連携しまちづくりにおいてSDGs達成に対するプロジェクトを動かす。フードロス食材を使って交流会の軽食を提供。小売店と子ども食堂を繋ぎ、フードロスと貧困を解決。福島の方評被害の食材を使いエシカルな弁当を開発。言語支援AIの開発。交通支援アプリの開発。エシカルな服の利用や啓蒙。気候変動に対する啓蒙活動。)

2019年5月に中高生による任意団体Sustainable Gameを設立し、SDGsを実践的に
学べる教育イベント「課題発見DAY」やアクションを起こしたZ世代が社会に思いを発
信するイベント「Z世代のためのプレゼンコンテスト」など計7回(1/9地点)日本の大手
企業のオフィスや地方で開催し、240人以上の中高生が参加している。同時に中高生の
SDGsアクション支援事業を行い、18歳以下限定SDGsクラウドファンディングサービ
スやSustainable Odyssey(メディア)、SDGs Network UI8(中高生300人が集う
SDGs達成のためのオンラインコミュニティ)、テクノロジーサポート、環境コンサル
タント等の事業を展開。Be a Social Tackler(愛を持って社会に突っ込め)を理念に日
本の社会起業家を増やす活動を行なっています。 <https://www.sustainablegame.com>

期間 2019年5月15日～現在

アクション
の種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

48万円(活動によって得た利益)・300人(イベント参加者)・20人(SDGsプロジェクト支援者)・22社(提携企業数)・9記事 メディア掲載数(1/9地点)・2テレビ取材・4イベント・カンファレンスにてスピーチ

なぜこの
問題&
アクション
なのか

主軸事業の教育の対する課題のみ書かせていただきます。SDGsの理解を深めるイベントやワークショップは多くあります。しかしながら一つの成果物を作るだけでは会場から出た参加者がアクションの一步を踏み出せない。SDGsの本質である地球市民としての意識を高め行動する教育を実現するにはそうではなく、アクションを起こせる学びを提供するべきだと思い、起業とSDGsを実践的に学べる教育イベントを展開しています。参加した中高生の多くは自らSDGS達成に向けての行動を始めています。

工夫した
こと
/達成した
こと

組織運営の面では社会貢献をしながら利益を得るという社会起業の考え方が浸透していない中で、当初はなかなか企業との連携を取ることが難しかったです。プログラムの設計に一番時間を費やしました。脳科学やゲーム論理、ビジネスフレーム、50以上の既存のワークショップや7回のイベント実践を得て、参加者の行動への意識が確実に変わるSDGsイベントを実現できています。

困難
だったこと
/次回に
向けて

社会は信用で動いています。しかしながら中高生ないしは中学生は、ほぼ学歴が信用を得る方法となっています。そんな社会の中で全ての人は社会を意識した地点で社会人であり、地球を意識した地点で地球人であると訴え、質の高い行動を積み重ねていくことでこの壁を乗り越えました。

学び
メッセージ

意志があれば、アクションは年齢関係なく起こすことができる。自分が多くの言い訳を作り、挑戦を阻んでいたのだと感じた。

報告者	S	実施メンバー：計2人
社会問題 & アクション	<p>貧困や教育格差問題 シリアの貧しい地域にある学校に自ら足を運んでその生徒や先生へ文房具や服を寄付しました。物資は、家にあったものを持ち寄り、学校で集めました。</p> <p>期間：2018年6月1日～2019年3月27日</p>	
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	生徒350人、先生15人の学校・生徒1人に2本の鉛筆、先生1人に5本のペン、計775本の鉛筆とペンを寄付・計150着の服を小学生1-3年生の生徒に寄付	
なぜこの問題 & アクションなのか	未だにシリアでは内戦が続いており、それに伴い勉強することが困難な地域が増えました。私はシリアの首都、ダマスカスからバスで約3時間のところにあるとても小さなまち、オスマニアにある唯一の小学校に行き、サプライズでその生徒や先生達に文房具や服を寄付しました。このアクションは子供達や現地の先生達にとって思いがけない事であったと小学校の校長先生に言われ、子供達に勇気と希望を少しでも与えられたと思いました。	
工夫したこと / 達成したこと	私は学校で文房具を集めるのを2019年の6月に開始しました。始めた当初から、多くの生徒やクラスメートがペンや鉛筆などの文房具を寄付してくださり、スムーズに行えました。自分は文房具だけではなく服なども寄付し、それを貧しい子供たちに寄付した瞬間は物凄い達成感を感じました。	
困難だったこと / 次回に向けて	困難と感じ事は実際に現地に行くこととこれを計画する事でした。実際に学校で文房具を集め始めたのは6月でしたが、中学入学した当初からこのプロジェクトをどう実行するか考えていました。結局2ヶ月かかりでプランニングして詳細が決まりました。私はこのプロジェクトをまた学校で実施しようと考えています。その際は文房具だけでなく他のものも集めてまたシリアに行き寄付しようと考えています。	
学びメッセージ	このプロジェクトのおかげで私は8年ぶりにシリアに行けることが出来ました。実際に自分で頑張って集めた文房具や服を幼い子供たちに寄付するのがとても感動的でした。実際に現地に行くことで現在のシリアの状態がどんな感じなのか、都市から離れたところに住んでいる子供たちはどのように暮らしているのかがシリアにいた2週間でよく分かりました。このプロジェクトを今年もやるのが楽しみです。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう 
- 2 飢餓をゼロに 
- 3 すべての人に健康と福祉を 
- 4 質の高い教育をみんなに 
- 5 ジェンダー平等を實現しよう 
- 6 安全な水とトイレを世界中に 
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 
- 8 働きがいも経済成長も 
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 
- 10 人や国の不平等をなくそう 
- 11 住み続けられるまちづくりを 
- 12 つくる責任 つかう責任 
- 13 気候変動に具体的な対策を 
- 14 海の豊かさを守ろう 
- 15 陸の豊かさを守ろう 
- 16 平和と公正をすべての人に 
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう 

報告者

熊谷穂乃香、相賀東子

社会問題
&
アクション

人や国の不平等をなくし人々が暮らしやすい世の中を作るため、学校で応募した夏休みのボランティアで山梨県にある知的障害者の方達が生活する施設に行き、そこで障害者の方々と一緒に歌を歌ったり工作をしたりしました。



期間：2019年8月23日・24日

アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

52人の障害者の方々と交流。5枚の感想文を書いた。6曲の歌を披露。1組につき4個の紙コップ風鈴を作った。42人にスピーチ。

なぜこの
問題&
アクション
なのか

障害者の方々は今の社会では邪魔だと言われたり、迷惑と思われて差別されがちです。その問題で殺人事件が起きたこともあります。私はその事についてとても心が痛みました。なぜ同じ人間で一生懸命に生きているにもかかわらず差別されなければいけないのかと思いました。そして、学校で夏休みに障害者の方々と触れ合う機会があったのでそれに応募しました。そこで実際に障害者の方々と行動してみて同じ人間であるということと、とても親切だということ、改めて実感しました。このことを発信していけば障害者の方々が社会に出た際に危険な目に合わなくなると思いますし、また積極的に手を差し伸べられると思います。

工夫した
こと
/達成した
こと

工夫したことはコミュニケーションを上手に取ることで、障害者に対しての偏見を無くそうということです。達成できたことはコミュニケーションを上手に撮ることで、障害者に対しての偏見をなくすためにはこれからもっと世界に障害者の方達の実態を発信していくことが大切だと思います。

困難
だったこと
/次回に
向けて

私に対応した障害者の方とコミュニケーションを取るのが大変だった事です。とても大人しい方で無口でした。ですがジェスチャーをしたりして理解してもらいました。今年は私が話した事について答えてもらえるようにもう少しわかりやすい話し方をしたいです。

学び
メッセージ

障害者の方々も我々と同じ人間で私達と同じく一生懸命に生きています。なので、街中などでそのような方々を見かけたら積極的に声をかけたいと思いました。

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>東京学芸大学附属国際中等教育学校 ソーシャルアクションチーム jimotoプロジェクト 岡凜奈、植竹ターナーズミ、福島友菜、工藤颯莉</p> <p>実施メンバー：計8人</p>
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>地域の人口減少・過疎化の問題に取り組んでいます。私たちは実際に離れた地域に足を運び、東京では滅多に感じることができない地域の問題などを地域の方々に教えてもらい、中高生からこそできるまちおこしの方法を模索しています。これまでたくさん地域と繋がってきて、部員は地域と関わることの楽しさや地域の人の暖かさを知ることができたので、自分たちの活動をより多くの中高生に知ってもらい、中高生が地域問題を解決するための原動力になるような社会を実現したいと思っています。</p> <p>ソーシャルアクション部（部活動）の中のjimotoチームでは、地域貢献活動をテーマとしたプロジェクト行なってきました。スタディーツアーとして人口減少などの問題に直面している地域に足を運び、地域のNPO団体や高校生と、地域の魅力や課題を発信するプロジェクトを立ち上げています。現在はスタディーツアーで3年連続訪れている長野県上田市のNPO法人に協力していただき、上田市の食材と私たちの学校が所在する東京都練馬区の食材をコラボレーションさせたお菓子の開発「コラボ商品開発」に取り組んでいます。お菓子という中高生にとって身近なものから地域の魅力を感じてもらい、地域と関わることの面白さや楽しさを私たちの活動から感じてもらえればと思います。活動としては、2018年11月から商品開発において企画書などを制作し、どのような商品を作りたいかの案だしなどを始めました。共同で開発していて、製造を担当しているNPO法人と連携し、翌年の2019年5月に2種類の商品を販売しました。初販売では合計で100個ほど売ることができ、次は9月に開催される本校の学園祭での販売に向けて新商品の開発を進めると同時に、私たちのプロジェクトについて掲載している小冊子の制作に取り組まれました。また、夏休み中は商品開発に必要な資金を調達するためにクラウドファンディングに挑戦し、13万円の支援金を集めることができた。学園祭では、新たに2種類の商品を販売するとともに、作成した小冊子を配布し、商品は300個売上げました。その後も秋頃には近くで開催されているお祭りや、SEIBU GREEN MARCHÉなどに出店し、商品の販売を行なった。コラボ商品の販売をすることによって、購入してくださったお客様には上田市に興味を持って頂けたと思います。多くの人が美味いと言ってくれたり、使った食材がどのようなものなのかなどの質問を多く受けました。また、作成した小冊子への関心も高く、喜んで受け取ってくださる人が多かったです。</p> <p>期間：2018年11月～2020年2月15日</p>
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>
<p>数値成果</p>	<p>累計660個の商品販売、13万円の支援金（クラウドファンディング）</p>
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>近年地方の地域の人口減少・少子高齢化が深刻な問題となっていて、メディアなどでも多く取り上げられています。この問題の原因の一つは地域と関わる機会の減少だと感じています。最近では都会の中で何でも行うことができる時代となっていて、特に若者は地域と関わること自体が眼中にないことが多々あります。しかし、これからの未来を創造していく若者が何かしらのアクションを起こさなければ、地域での問題は深刻になる一方です。私たちは、若者を対象に地域と関わることの魅力や、地域が抱えている問題を発信することによって、より多くの若者に地域に対して関心を持ってもらうことができると考えています。このように若者の意識改革は地域問題解決への道に繋がると考えています。</p>
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>コラボ商品を通して、練馬と上田の魅力を多くの人に知ってもらうのはもちろん、地域が直面している課題も同時に知ってもらいたいと思っています。また、商品開発と聞くと中高生にとってはハードルが高く、難しいと思われがちですが、私たちはその概念を覆し、都内の学生が離れた地域の情報発信や、課題解決の一環として「商品開発」を確立したいと思っています。しかし私たちは初めて商品販売した際、お菓子のみでは練馬や上田の具体的な魅力がお客様に伝わりにくいと気づきました。そこで、もう少し率直に情報や想いをお客様に伝えるためにも私たちは、商品開発のプロセスや、地域の魅力を掲載した小冊子、「jimoto人」を作成し、販売時に配布しました。小冊子にして、具体的に上田市と練馬区のどのようなところが魅力的なのかを記載することによって、より私たちの思いを伝えることができ、目的を果たすことができたと思います。</p>
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>この企画は3年前程に立案された企画で、長い間やりたいと思っていたのですが、地域が離れているということもあり、なかなか話が進まないまま2、3年経過していました。2018の11月から本格始動することができたのは、小まめな連絡を取ったからだと思っています。また、企画書などを作成し、具体的な案を提示したこと、やりたいという意志があることを相手側に伝えることによって、企画を実行に移せたのだと思います。相手との距離が離れていることは変わらないものの、小まめに連絡を入れたり、自分たちの案を送ったりすることによって相手との距離が縮まったと感じています。改善すべき点は、商品の発注をする時期が遅くなってしまったという点です。これまで、期間近に発注をお願いしてしまったことが何度あったため、今後はもう少し余裕を持って発注できるようにしたいと思います。</p>
<p>学びメッセージ</p>	<p>この活動を通じて学んだことは、中高生だからといってできないことはないということです。私たちは今、離れた地域に住む方と共同で商品開発を行っています。活動をする前は、中学生の自分が大人のひとと共同で商品開発に取り組むなど夢にも思いませんでした。中高生だからといってできないことはないと思います。逆に、中高生だからこそ、周りの人が興味を持ってサポートしてくれる、応援したいと思ってくれる方が資金を提供して、利益のことをさほど考えず純粋に自分たちのやりたいようにできる部分があると思います。「できないことなどない」というと、少し大げさに聞こえますが、私たち中高生のボランティア活動に興味を持ってくれる方は想像より遥かに多くいます。今後も、「きつとできない」ではなく、「とりあえずやってみよう。」「まずは先生に相談してみよう。」という気持ちで様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。</p>



関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>東京学芸大学附属国際中等教育学校 ソーシャルアクションチーム GAKUIKU Challenge 高倉仁美、毛千晴、笠神幸花</p>		<p>実施メンバー：計10人</p>
<p>社会問題 & アクション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国における教育を受けられない子どもがいる現状（ケニアに焦点を当てました） ・紛争時の緊急支援や保健支援 <p>国際課題の解決に焦点を当て、海外における人道支援、ケニアを中心とする教育支援の活動を行いました。</p>		
	<p>期間：2019年5月1日～2020年1月31日</p>		
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>		
<p>数値成果</p>	<p>ケニアにて学校建設を目的とした募金活動154,725円 / 物販活動1,900円 人道支援を目的とした募金活動95,736円</p>		
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>貧困の連鎖を断ち切れない最大の原因は、教育を受けられないことです。教育を受けることは正しい知識を身に付けることであり、将来就職できたりする可能性が上がることにつながるため、貧困から抜け出す希望になります。政府同士や組織同士の争いに何の罪もない一般市民が巻き込まれ心身ともに大きなダメージを受ける、という理不尽なことが起きていて、それは決してあってはいけないです。その人々を助けるとともに、あなたたちのことを見捨ててないということを伝え、希望を持つように励ますことにも意味があります。私たちが活動することはこれらの課題の解決の後押しになります。そしてさらに、我々中高生がこれらの活動に取り組んでいることを周知すれば、課題の重要性について認識してもらおうとともに、自分もアクションを起こそう！と多くの人に思わせることができると信じています。</p>		
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>活動するにあたって大事になってくるのは、より多くの人に「応援したい」と思ってもらうことでした。そのために「見せ方」をたくさん工夫しました。例えば、街頭募金をするにあたって、ただの街頭募金ではなく、「世界こどもの日」のような国際デーなどに合わせてキャンペーンを行いながら活動を行いました。活動に沿って視覚的アピールとなるような看板を作ったり、掛け声を変えたりしました。また、「中高生がやってる！」ということをアピールするために、必ず制服で活動するようにしました。途中錯誤しつつ、最後は募金の目標額を越せたり、達成感のある活動ができました！</p>		
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>中高生ということがあり、学業や他の活動との両立、チーム内での仕事の公平な分担を保つのが難しかったです。この活動を経て、しっかり活動メンバー内で共有すること、明確な計画立てをすることの大事さを実感し、学びました。これからは、広報といったちょっとしたことでも、何か動きをすればそれをチーム内に共有し、皆が同じ意識を保てるようにします。また、アクションの共有はお互いへの刺激にもなるのでどんどんお互いを刺激できるチームを作りたいです。そして活動をする前に、学校におけるスケジュールと合わせながら、TO-DOを明確にして細かく計画立てをしたいと思います。</p>		
<p>学びメッセージ</p>	<p>「活動してみないとわからない！」「中高生だからこそ力がある！」という二つのことを大きく実感しました。中高生だから信頼を得られるのか、本当に自分たちに活動を成し遂げる力はあるのか、不安になることがありました。しかし、募金活動をするに当たって「実は私の息子がケニアに住んでいるの！」と声をかけてくださる方もいて、「頑張ってるね！」と、多くの方が応援してくださっていることを知りました。やってみなきゃわかんない！と深く実感しました。また、中高生だから注目して下さってる方がいたり、若い脳を使っての斬新なアイデアが思い浮かんだり、「中高生だからこそ」できること、「中高生」という肩書きが活用できることも実感しました！</p>		

<p>報告者</p>	<p>相模原市立相原中学校 フリー・ザ・チルドレン 実施メンバー：計5人 高谷みのり、若月晶穂、山田瑞葉</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>衛生問題、教育問題</p> <p>学校でアメニティグッズや文房具を回収し、届けました。</p> <p>期間：2019年8月26日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>寄付物資：アメニティグッズ 148個 (歯ブラシ62本、タオル18枚、ブラシ14本) 文房具 80個 (鉛筆50本、色ペン18本)</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>今回の訪問で、衛生的ではないことが、どれだけ怖いことなのか分かりました。下痢やちょっとした風邪で亡くなってしまう子供がいることは、とても悲しいことですが、それを変えていかないといけないと思いました。回収したものには歯ブラシやタオルもたくさんあるので、清潔にして、1人でもそういったことで亡くなる子供が減ると良いなと思いました。また、鉛筆もたくさん回収することが出来たので、現地の学校などで使われて、勉強しやすい環境に少しでも貢献できたら良いなと思います。女の子にも配られたら、もっと良いと思いました。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>夏休み前にプリントを作り全校生徒に配りました。回収日当日にはたくさんの生徒達がアメニティグッズや文房具を持ってきてくれました。また、部活で当日持ってこれなかった子も、プリントを見て後日渡してくれたり、みんながとても協力的で嬉しかったです。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>夏休み前は2年生と3年生で上手く連携が取れていなくて、バタバタしていましたが、当日は余裕を持ってメンバーで集まったのでしっかり段取りなど確認しながら出来たと思います。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>訪問の際に教えていただいた、世界の子供達のことは、とても勉強になりました。女の子がたくさん働いて学校に行けないことが、平等でないと感じました。女の子だって学校に行きたいと思っている子もいると思うし、それによって将来の可能性が広がるんだなと思いました。衛生問題と教育問題は、すごく近いところにあると思うし、それ以外の社会問題も、連鎖していくと思うので、たくさんの人が協力して、役割分担して支え合うことがどれだけ重要か学びました。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
 
- 2 飢餓をゼロに
 
- 3 すべての人に健康と福祉を
 
- 4 質の高い教育をみんなに
 
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
 
- 6 安全な水とトイレを世界中に
 
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
 
- 8 働きがいも経済成長も
 
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
 
- 10 人や国の不平等をなくそう
 
- 11 住み続けられるまちづくりを
 
- 12 つくる責任 つかう責任
 
- 13 気候変動に具体的な対策を
 
- 14 海の豊かさを守ろう
 
- 15 陸の豊かさを守ろう
 
- 16 平和と公正をすべての人に
 
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう
 

実施メンバー：計4人

報告者

佐竹郁美

社会問題
&
アクション

家庭の食品ロスを減らし、必要な人へ届ける事で、皆が平等にご飯を食べられる社会にする。貧困率を減らす。

市内にある特定非営利法人の施設に余った食料をボランティアさんを通して寄付しました。

期間：2019年11月～現在



アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

18歳以下の子どもが10人程度生活している施設への寄付月に1度、缶詰やカップスープなど10品程度

なぜこの問題&アクションなのか

食べものが無駄にされている。当たり前食べる事が困難な人がいる。無駄を無くして、必要な所へ届ける事ができる。

工夫したこと/達成したこと

フードシェアの重要性を友達に伝える事ができました。

困難だったこと/次回に向けて

必要としている施設をピックアップして、更に活動の幅を広げたいです。生徒会などを通して、生徒全員でこの活動を共有したいです。

学びメッセージ

小さな力でも集まれば大きな力になる事を学びました。更に大きな力を生む為に活動を続けて行きたいと思いました。

関連SDGs

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を實現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナリシップで目標を達成しよう



<p>報告者</p>	<p>井沢百寧、藤澤慶々</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計2人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>子供食堂への支援を目的としたアクションとして子供食堂への直接お金の支援はもちろん、子供食堂を本当に必要としている人に知ってもらい、幸せな子供を増やそうという目的としてチラシ作成をして、小学校に配布をしに行く予定です。お金を作成するためにクラウドファンディングの動画を作ったり校内で募金活動をしました。また、子供食堂に見学に行き実際の子供たちとお話をしたり開催者様にインタビューなどの活動を行ってきました。</p> <p>期間：2020年1月～3月</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>5000円を募金活動で集めた。(100人が協力) 600枚のチラシを配布</p>	
<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>子供食堂を必要としているのに情報が回らず知らない子供が多い中でいかにして知ってもらうかを考えた時にホームページを作成したりするよりも小学校で配るチラシが良いと考えこの活動を始めました。このアクションはそんな必要としているのにいけない子供たちへの貢献に繋がっていると思います。</p>	
<p>工夫したこと /達成したこと</p>	<p>現場の状況をよりリアルに把握するために何軒もの子供食堂に訪問させていただきました。学校がインターナショナルスクールということもあり、チラシや動画は英語バージョンも作りました。子供食堂に行き、現場の声を聞くことができたことが1番より考えるきっかけになったと思います。</p>	
<p>困難だったこと /次回に向けて</p>	<p>困難だったことはアポ取りとコロナウイルスによる調整です。大きな団体や人の集まる場所での活動が多かった為、断られたり延期したりすることがとても多くあり、何度もアポを取り直したりしたことが大変でした。次回行うなら、予定をしっかりと確認してからアポを取りたいです。</p>	
<p>学び メッセージ</p>	<p>学んだことは、社会で大人の人たちがアポをとったりする仕事を体験できたことです。あと、子供食堂で実際に働いているひとにインタビューさせていただいたことで、ネットには書いてない色々なことを知ることができました。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を推進しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	近藤凜、野田えみり、荒木美帆、能重芽実			実施メンバー：計4人 在住：栃木県
社会問題 & アクション	生産と消費の問題	現地の人々が心を込めて一生懸命つくったもの（フェアトレードのアクセサリー）を、きれいにラッピングして、販売できるようにするボランティアをしました。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年12月4日・5日		数値成果	70袋 フェアトレード商品ラッピング数
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ	
貧困が問題なのは、それによって多くの人が亡くなる人が多いから。生産と消費が問題であるのはそれを販売している場所によって生産者が得られる利益や買ってもらえる量が異なる場合があり、不平等だから。私達のアクションによって少しでも貧困の人たちが減らすことに繋がる。	私達の目標はすべてのフェアトレード商品を包装することでした。それを達成するために、私達はグループに別れて役割を分担し、効率的にできるよう工夫しました。	フェアトレードの袋詰のとき、少しのずれでも商品の印象が悪くなるので、一つひとつ間違えないように、丁寧にラッピングするのが困難でした。次回行うとしたら時間をかけてラッピングしようと思います。	このアクションを通じて、些細なことでも他国や相手の支援に繋がることを学びました。また、ただ支援を行うだけではなく、自らアクションを起こし、取り組んでいく大切さを学びました。これからは、身近なことからも積極的に取り組もうと思います。	

報告者	聖学院中学校系魚川運営委員会			実施メンバー：計17人 在住：埼玉県
社会問題 & アクション	日本の東京一極化集中問題 地方の人口減少問題	学校の修学旅行で行った「新潟県系魚川市」とはどのような所かを知らせてもらうべく、様々な広報Projectおよび交流、そのProjectを行うためのクラウドファンディングを実施した。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年4月6日～2020年11月1日		数値成果	237,000円を集めた。 (達成率235%)
なぜこの問題 & アクションなのか	最初は学校行事で系魚川市という所に行ったからと言う安易な理由だったが、系魚川市というものを知らずにつれて、系魚川市から若者が減っているという事実だったり、とても快適で楽しかった場所なのにあまり知らせてもらえてなかったり、系魚川市の人口自体も減っていつの間にか減っている。系魚川市の魅力を発信するアクションによって、系魚川市に興味を持ってもらえる人が現れて、少しでも観光率が上昇し、住んでくれる人も現れれば、人口増加が起こせるし、日本全体で問題となっている東京一極化集中の問題も解決できる。			

<p>工夫したこと /達成したこと</p>	<p>SDGs17のパートナーシップの目標は確実に達成できたと思う。 Projectチームがそれぞれの役割を理解して行動できた。 工夫した点としては、文化祭でやろうとしていた系魚川田植え体験のコーナーが取り決めに違反する可能性があり、それをどう修正していくかを生徒会本部と掛け合うのが大変だった。</p>
<p>困難 だったこと /次回に 向けて</p>	<p>諦めない力・誰一人取り残さないというケツイを持っていれば乗り越えられた。 次回以降僕らが行うことはないが、下の学年が全Projectを引き継いでくれるから、その人達にしっかりと引き継いでいきたい。また「もう少し早く映像制作を始めていればよりよくなったはず」「業者と協力すれば時間短縮になったかも」のような改善書を作って下の学年に引き継ぎたい。</p>
<p>学び メッセージ</p>	<p>系魚川市は住民全員が笑顔で優しくとても快適です。 東京一極化集中は将来、地方合併とか、東京人口急増加により仕事の差が生まれ、貧富の差の拡大の懸念など様々な問題がある。系魚川市の子供達はとてもかわいい。</p>

<p>報告者</p>	<p>塩塚優有</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：個人 在住：東京都</p>		
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>日本の食料廃棄率問題</p> <p>学校でクラス全員の前でSDGsの12番目の目標である“作る”責任“責任”に対する自分の考えをスピーチしました。クラス全員の食料廃棄率などに対する考えを深めることができましたと思います。</p> <p>期間：2020年1月29日～2020年2月5日</p>	<p>アクションの種類</p> <p>資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス</p>	<p>数値成果</p> <p>41人へのスピーチ</p>
<p>なぜこの問題 &アクションなのか</p> <p>このスピーチによって、クラスのみなが日頃から料理をする時に、果物や野菜の皮を薄く剥いて、少しでも廃棄される部分が少なくなるようにしたり、大根の葉などをアレンジして美味しい料理にしてみたり、自分たちなりの食料廃棄率軽減へのアクションを起こすことができます。一人の少しだけのところがけて、世界は大きく変化すると思います。</p>	<p>工夫したこと/達成したこと</p> <p>スピーチを行いクラス全員の深刻な問題への理解を深めた。</p>	<p>困難だったこと /次回に向けて</p>	<p>学び・メッセージ</p> <p>SDGsの環境問題に対して自分たちができることは些細なことだと思うけど、コツコツと心がけて生活していくことで、未来への責任意識が持てたり、ほんの少しでも環境問題が軽くなればいいなと思った。</p>

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	松本由理、齋藤美月		実施メンバー：個人 在住：東京都	
社会問題 & アクション	児童労働・環境問題 エシカルファッションイベントで、古着リメイクの実施。 グローバルフェスタ2020で、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンのブース運営をボランティア。 期間：2019年9月29日・2020年2月8日	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	5,000円の募金を集めた	
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ	
児童労働 →安く雇い人権侵害	ファストファッションではないものの消費		ファストファッションで使われている材料は、児童労働や人権侵害を含んで、作られたものなので環境にも人権にも良くないことがわかった	
環境問題 →有害な物質を使っている				

報告者	福森まあい		実施メンバー：個人 在住：東京都	
社会問題 & アクション	社会の授業で児童労働や少年兵などの人権について学び、わたしが便利な社会で不自由なく生きているのに対し、自分と変わらない歳、年下の子供達のひどい状況に驚きました。平等な世界を築きたい。だれも置き去りにしたくありません。全ての子供たちに教育や安全な生活を過ごす権利があります。いまの世の中を変えたいと本気で思い、いまのわたしに出来ることとして、ユニセフに募金しました。子供でも革命できる、思ったことを行動に移す。そのために、学びを大切にしています。 期間：2020年2月14日	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	1,000円の寄付	
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ	
沢山の人が募金をしたら、そのお金・想いで、食料・医療・生活の安全など、多くの子供達が、貧困の状態から平等な生活に前進できると思います。目指すのは、寄付することだけでなく、自立支援です。	沢山の情報をしらべたり、自分の考えだけでなく他の人の考えも聞き、一番いい答えに辿り着けるよう努力しました。	今回は時間がなく、募金という形でしたが、これからはレモネード活動を文化祭で提案してみたり、児童労働のものは買わなかったりと、たくさんの方の力を、沢山の人の力で実現して広めていきたいです。	最初はこれだけでいいのかも思いましたが、これが大事なんだとわかりました。一つ一つのささいなことでも、心がけを忘れずにこれからはもっと学びたいです。	

報告者	実施メンバー：個人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	LGBTへの差別 ・差別や偏見をなくすために、クラスでのスピーチや、SNSで情報を共有している。 ・身近なLGBTの困っている人を助けるためにAlly（味方）だと言うことを発信している。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	環境問題 ・海を守るために、プラスチックバッグについてのポスターを作った。 ・イベントに参加や、自分の友人に情報を発信している。 期間：2019年9月13日～現在	数値成果	123人に向けてスピーチ
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと/次回に向けて	学び・メッセージ
日本では、LGBT問題を改善していくのはとても難しいと思います。日本の文化的に、みんなが同じでならないといけないという意識が強くあるからです。そんな中でLGBTを含め、マイノリティが自分らしく生きられる社会を作るために、たくさんの人がみんなが同じでならないといけないという価値観ではない価値観もあることを考えることで、偏見や差別がなくなっていくと考えます。	自分がやりたいことをする様に工夫しました。私はSDGsとSDGsのために活動している若者を知り自分もこの社会を変えられると思い、とてもSDGsの活動にやりがいを感じています。なので、自分の全力を尽くせるよう、やりたいことをしています。近頃、私が環境問題の情報を共有している友人がアクションをおこしてくれるようになりました。	スピーチをした際に、40人に話しても、聞いている人はたった10人ほどに感じたことです。次回からは、相手の年齢や趣味などに合わせて聞きやすく、面白く話せたらと考えています。	学んだ沢山のこの中で、一番自分を変えてくれたのは、自分の得意なことを見つけれられたことです。私は自分のことを否定的に見てしまうことがよくありました。しかし、このアクションを通じ、私は話すことがとても好きで得意なのだと感じました。この特技を使い、社会問題に貢献することも可能だということに気づきました。

報告者	実施メンバー：計2人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	飢餓問題： プレゼンを行った 貧困問題： フィリピンの子供達の為に文化祭で募金、国境なき医師団のイベントに参加 教育問題： バングラディッシュの子供達の為に絵本を作るボランティアをした 公衆衛生問題： ゴミ拾いを定期的に行っている 期間：2018年7月20日～現在	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	240人にプレゼンを行った
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと/次回に向けて	学び・メッセージ
まず、学生は世界を一人で大きく変えることはできません。例えば、学生一人が飢餓の問題について頑張っても、周りの人が知らなければ意味がないです。そこで私たち学生にできるのは、同じ学生の皆さんに世界の問題について「知って」もらうことが大切だと思い、プレゼンを行いました。	資料などを見やすくすること。数字など具体的な点をよく調べて、わかりやすくインパクトも大きくなるようにすること。	話すのがどうしても早くなってしまったり、怖くなってしまったり	はじめは、自分一人が意識して日々細々としたことをしていてもあまり意味がないと感じていましたが、みんなに問題を知ってもらうことももちろんですが、細々とした日々の意識が家族に伝わり、家族から各友達に広がり、どんどん意識が高まっていくのだということを学びました。

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	葛山はるか、ネーソン萌桃子		
	実施メンバー：計2人 在住：東京都		
社会問題 & アクション	<p>SDGs5番「ジェンダー平等」 インスタグラムのアカウントを作り、性差別などに対して考え方を全国に広めるために投稿</p> <p>SDGs16番「平和と公正をすべての人に」 広島原爆ドームや平和資料館を訪れ、実際のことを学び、外国人に広島に来た理由や、世界が平和になるためにはどういう取り組みが必要かをインタビュー</p> <p>⇒両方の問題について、ポスターメイキングを行い、外国人留学生40人と同級生180人、先生方20人ほどに私たちが考える意見と、それらを実現するためにはどうすればいいか、事実について様々な人に知ってもらうためにプレゼンテーションを行いました。</p> <p>期間：2019年4月下旬～現在</p>	アクションの種類	<p>資金支援・物資支援・ボランティア</p> <p>自己行動変革・啓発活動・アドボカシー</p> <p>ソーシャルビジネス</p>
		数値成果	240人にプレゼンテーション
なぜこの問題 & アクションなのか	<p>SDGs5：多様な性に対する理解がなく、ストレートでない人たちを傷つけてしまったりしていることが現状であり、人々の考え方を考えるために偏見をなくし、そのような人たちも同じ人間として尊敬できるようにすることに繋がるためにアクションをした。</p> <p>SDGs16：世界では今でも紛争など争い事が続いており、そのせいでたくさん亡くなったり、怪我をしたり、家族と離れたりするということたくさんの問題点があり、日本でも広島や長崎に原爆を投下されて沢山の方が亡くなったり、たくさんのことがあったなかで、もうこれ以上、広島や長崎のようにたくさんの犠牲者を出さず、みんなが幸せに日々を過ごせるように行いました。これを行うことにより、平和について学べ、みんなが協調できる人の話をきちんと聞くように戦争も無くなり、小さい争い事もなくなるように願ってやりました。</p>		
工夫したこと / 達成したこと	<p>SDGs5：偏見を持った人々を否定せず、その人々の考えも受け入れながら投稿やスピーチをした。</p> <p>SDGs16：たくさんの国の外国人に話を聞いて、それぞれの国の現状を知り、その現実をみんなにも伝えたり、実際に原爆ドームや平和資料館を訪れたりすることにより、さらに理解も深まり、平和について考えられたこと。</p>		
困難だったこと / 次回に向けて	<p>SDGs5：自分たちはLGBTQの中に入る人でないのに何が言えるんだ、など私たちが何も理解していないかのように言われたこと。そう言われるのはキツかったけれど、自分たちは違っても考えを発信するためにめげずに話した。</p> <p>SDGs16：みんなが世界の現状が知れていない現実であるためにみんなにきちんと現状を説明したり、平和資料館などで現実をきちんと説明したり、みんなが同じ目標に進むにあたり、それぞれの考える平和が異なり、最初は、私たちの目指す平和についてまとまらなかった。なので、次回行おうとしたら、考える前にも一度原爆ドームや平和資料館を見て、現実を学んでから、平和について話し合いたい。</p>		
学びメッセージ	<p>本当に考え方が違う人が多く存在し、そのような人の考え方を考えるのは至って簡単ではないけれど、やると決めたからこそ、その人達の意見も受け入れながら発信をしていくと自然と自分たちの考え方も柔軟になり、解決策も見つけやすくなったこと。</p> <p>全世界の人々が幸せに日々を過ごせるようにするためには、たくさんの困難があり、すべての国と地域が平和になるのはみんなの意見がそれぞれあるわけだから、難しいことだと思う。でも、そこでいかにお互いに話して互いの意見を伝え合い、否定せずにみんなの声に耳を傾けることが重要になってくると思うし、私たちも現実を理解して、友達同士、親同士、みんなでお互いに意見を話してみんなの意見を否定せずに、話し合いをして行きたいと思う。</p>		

報告者	佐野裕馬 実施メンバー：計2人 在住：神奈川県		
社会問題 & アクション	貧困家庭の負の連鎖を無くす為に高学歴を手に入れる。格差社会を無くす。 誰でも無料で参加出来るオープン塾、勉強カフェを開催 期間：2019年7月20日～8月30日	アクションの種類 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	数値成果 2人の生徒に学びの機会を届けた
	なぜこの問題 & アクションなのか 貧困家庭というのは、高校・大学受験の塾に行くための費用を出すことが出来ず、進学を諦めてしまうことが多いので、無料で誰でも参加出来るようにすることで高い費用を払わなくとも大学生や元教員に教えてもらうことが出来る。	工夫したこと/達成したこと 地元の自治会長に開催場所や協力者についてアドバイスを頂きました。	困難だったこと/次回に向けて 開催場所の確保、協力者の手配。次回は、知り合いの大学生に頼んでもっと多くの人と繋げて協力を呼びかけたい。

報告者	自修館中等教育学校インターアクトクラブ 加藤陽菜、恒松紗英、村越悠、森裕貴、入野麻央、酒井慎之介、金丸泰山、瓜生壘、斎藤幸英、皆川佳澄 実施メンバー：計23人 在住：神奈川県		
社会問題 & アクション	貧困問題/強制労働/児童労働/環境問題 SDGs普及・海洋汚染・プラスチック問題 ・2019年1月から定期的に日韓アジア基金ニュースレター発送ボランティア ・自修館中等教育学校保護者にてフェアトレードイベント開催 ・メンバー代表2人が市長、県知事にSDGsについてプレゼン ・メンバー全員でグローバルフェスタにてカンボジアのための募金活動+プレゼン ・メンバー代表がCMAにてフェアトレードについてプレゼン(銅賞受賞) ・メンバー代表がSDGs普及のためにサンリオピューロランドにて30社企業の前でプレゼン ・茅ヶ崎のハロウィンフェスタで海洋プラスチックについてブースにてプレゼン ・文化祭においてフェアトレード×プラスチックフリーイベント実施 ・ボランティアスピリットアワード受賞 ・東京神谷町にてSDGs普及のための中高生プレゼン大会 ・IDEA collectionを企画、実施 期間：2019年1月～12月	アクションの種類 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	数値成果 ニュースレター発送 200部 フェアトレード商品売上 13万円 プレゼン(7回分の総合計) 250人・30企業・13校 21人に対しワークショップ実施

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

なぜこの問題 & アクションなのか	日本ではSDGsの認知度は欧米などの先進国に比べると認知度が圧倒的に低く対策も練られておらず、火力発電までもを作ろうとしている。SDGsの認知度が上がらないと地球温暖化や差別に終止符を打つことができない。私たちが多くのイベントを開くことでより多くの人に楽しくSDGsを知ってもらうことができ、小さなアクションやアイデアを創出するきっかけになると考えている。1番多く開催しているフェアトレードイベントは生産者が持続可能な生産ができるようにするためのものである。日本の商品は生産者に不利なものも多く、3000万人ほどの子供が貧困下で暮らしていて強制労働により死んでしまう人も多い。海洋プラスチック問題によって魚たちが死んでしまい、2050年には魚よりプラスチックの方が多くなるとも言われている。プラスチックは海、大地、自然、人までもを傷つけら力を持っているため私たちがプラスチックフリーの商品を提供することで多くの人に楽しくプラスチックレスの生活を促すことができる。
工夫したこと / 達成したこと	とにかくお客様の目線に立つことが大事だと考えているため、お客さんが見やすい配置、来やすい雰囲気を考え工夫をミーティングで話し合い、よりメンバーの意見を取り入れたイベントを開催しようとしている。商品は委託販売ではないため完売しないと大きな損になってしまうため、完売を目標にしている。毎回多くのお客様とメンバーの協力あって完売を達成することができている。学校内では全校生徒の前でSDGsの発表をするため認知度100%は過言ではないだろう。また、外部でも企業とつながりSDGsを伝えることで協力しながら日々SDGs普及への努力と活動を続けている。
困難だったこと / 次回に向けて	納品チェックや会計監査：先輩と協力しながらミスの内容にお金を動かした。今後は自分たちでできるようにする。クレーム対応：先生の協力で商品に対するクレームなどは解決することができたが今後は自分たちで解決する。
学びメッセージ	チーム一丸となって目標達成すること・SDGsの普及にはさまざまな手段があること・企業と協力することで大きなアクションが出来ること・個々の能力は全く違うものだが一つになれば大きな力が働くこと

報告者	松田 紬		実施メンバー：個人 在住：山梨県
社会問題 & アクション	<p>新年の集まりでWe Dayの活動を紹介し、募金を募りました。</p> <p>2020年の東京オリンピックの為に、インドネシアとマレーシアの熱帯雨林がたくさん切れ、大きな環境破壊が起きました。今回のオリンピックではSDGsの掲げる目標を達成することが前提だったのに、それが守られていませんでした。壊してしまった環境を少しでも取り戻すために、選手たちと一緒に何か活動したく、計画しています。</p> <p>期間：2020年1月2日～</p>	アクションの種類	<p>資金支援・物資支援・ボランティア</p> <p>自己行動変革・啓発活動・アドボカシー</p> <p>ソーシャルビジネス</p>
		数値成果	7,897円の募金

報告者	徳山 瑛大		その他メンバー：個人 在住：埼玉県
社会問題 & アクション	<p>東京グレートサンタランにボランティアスタッフとして参加。</p> <p>また、日本にいる病氣と闘う子供たちと海外の貧困の中にいる子供たちのために募金した。</p> <p>期間：2019年12月22日</p>	アクションの種類	<p>資金支援・物資支援・ボランティア</p> <p>自己行動変革・啓発活動・アドボカシー</p> <p>ソーシャルビジネス</p>
		数値成果	500円の募金

報告者	足立旬也、松田和馬	実施メンバー：計2人 在住：千葉県
社会問題 & アクション	ロマの人種差別が起きているルーマニア政府に、ロマの差別を無くすことをお願いする手紙を送った。	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年9月28日～10月1日	数値成果 1通

報告者	高橋和子	実施メンバー：計11人 在住：静岡県
社会問題 & アクション	放課後や休日に勉強する場所がなくファストフード店にたまってしまい、お店にとても迷惑をかけていたこと。 & 掛川市内の中学生と高校生のための自習室の運営	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年3月26日～現在	数値成果 100人が自習室に参加

報告者	Chiyoda International School Tokyo Grade 7	実施メンバー：計17人 在住：東京
社会問題 & アクション	The target social issue was hunger. Our students worked on a food fair within the CHISPARTY event we held on February 1, 2020, at our school. The students prepared food (tako yaki, crepes, bubble tea etc..) and sold the food in vendor stalls at the school. There were other fun activities in the party such as bingo and dancing. At the conclusion of the party, the entire middle and high school got on stage and gave a presentation to the audience about the social issue of hunger.	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：February 1, 2020. (1 Day)	数値成果 ・ 30,000 Yen



関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>We surveyed some people and realized that even some children go to school hungry because no food in their house. We also know many other people are lucky to get one meal a day in Tokyo and other big cities in the world, even if they are considered developed places.</p>
<p>工夫したこと / 達成したこと</p>	<p>The coolest thing we did was get community members outside our school to come to our party. Once they were in, we treated them with hospitality and made them food. Our food was not wasted and we did our best to sell everything.</p>
<p>困難だったこと / 次回に向けて</p>	<p>It was hard to decide on a "Gift". We had many opinions and it took a long time to decide what all of us could do together as one unit. Maybe next time we will work in a couple of groups when our school is bigger next year.</p>
<p>学びメッセージ</p>	<p>Despite our own fortunate lives, we learned develop empathy for others. Hunger is an issue that is closer to us than we thought.</p>

実施メンバー：計21人

報告者

井戸 静星

社会問題
&
アクション

高校生20人で、防災啓発活動や災害支援プロジェクトを行う"blossom"という高校生団体を立ち上げました。台風19号の被災地に「アシスト瓦」を届けるプロジェクト、避難所の状況を体験する防災合宿、学校の避難訓練を改革するイベント、バレンタインデーにちなんでチョコレートを被災地に届けるプロジェクト、そして雪かきボランティアを行いました。



期間 2019年8月10日～2020年2月29日

アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

15,000円、60人、瓦80枚

なぜこの
問題&
アクション
なのか

日本は災害大国にも関わらず、若者の防災意識は低く、日本のどこかで災害が起きても災害支援などに参加しないのが現状です。私も、北海道胆振東部地震を経験して痛感しました。私達の災害支援プロジェクトや防災啓発イベントを通して、若者に防災を身近に感じてもらうことが目的です。

工夫した
こと
/達成した
こと

私達の活動は規模も一人でできるものではなく、知識や最新情報も必要です。そのため、一人ですべてを抱え込むのではなく、仲間と活動を分散し、広く専門家や社会の人々に知識や支援を呼びかけました。

困難
だったこと
/次回に
向けて

高校生の組織を社会に根付かせることに苦労しました。大人と同じように組織を立てて、お金を集めて活動するのは困難ではありますが、大人と同じように活動する必要はないのだと気づきました。高校生である私達にしか出来ない方法は必ずあって、背伸びしなくてもユニークな方法で活動を広めることができる、そのことに気づいたことが、BLOSSOMの大きな転機となりました。

学び
メッセージ

一番は、そして仲間と新しいものを創り上げることの楽しさです。私はもともと自分から主張することが苦手でした。でも自分の理念に共感してくれる仲間ができて、どんどん広まって行って、皆で1つのものを創り上げることの楽しさや頼もしさは私を変えてくれました。仲間がいること、私達を支えてくれている人々との繋がりに感謝です。

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう


<p>報告者</p>	<p>篠原彩音</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計6人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>40人以上の生徒や保護者、他の高校の教員に向け、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICAやSDGsに関する説明 ・ 日本の現状 ・ 19年12月に参加した、JICAの「高校生実体験プログラム」の活動報告 ・ それに基づく、私達のアクションプランについて発表した。 <p>期間：2020年2月1日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>スピーチ(発表、30分)をご覧になった方：40人以上 ポスター(展示物)をご覧になった方：100人以上</p>	
<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>JICAの青年海外協力隊など、発展途上国を支援する機関やSDGsに対する、高校生の認知度の低さが問題だと考えている。どのような行動も、まず知ることから始まると考える。そのため、学校という場で、高校生を中心として保護者や不特定多数の方にJICAやSDGsについて知らない人への理解や、活動に対する共感を得ることが効果的である。</p>	
<p>工夫したこと / 達成したこと</p>	<p>多くの方から質問をいただいたことで、自分たちの発表が聴いていた方々にきちんと伝わっていたことが確認できた。発表の際はただ発表するのではなく、クイズなど様々な要素を織り交ぜることで、多くの人に楽しんで、学びながら、聴いていただけよう工夫した。</p>	
<p>困難だったこと / 次回に向けて</p>	<p>アクションプランを考えたり、より多くの高校生や地域の方が身近にSDGsを感じてもらうためにどうすべきか考えたりすることが難しかった。次回、このような発表を行う時は、より多くの人が抵抗なく、生活に取り入れられるようなアクションプランを考え、それを行うための準備のようなものをワークショップ形式で行いたい。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>現状を知ることと、そこから行動に移すのには大きなギャップがあることを痛感した。SDGsに興味のある人だけでなく、興味のない人々が行動に移すのにはどのようなことが必要なのかを考えるべきだと思った。</p>	


関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	高務真里杏		実施メンバー：計5人
社会問題 & アクション	<p>インスタグラムのアカウントで、SDGsのゴールや、それらを達成するために私達ができることを提示したり、フォロワーの行動を促進したりした。</p>	 <p>tsunamayo はじめまして！私達はSDGsについて関心を持ち活動しているJK4人組のツナマヨです！🌍世界をよりよくするために、私たちに出来ることを1つでも多く見つけたい、そしてそれをSNSの力を使って発信したい！という思いをキッカケに... 続きを読む</p>	
	期間 2019年8月11日～現在		
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・ 啓発活動 ・アドボカシー・ソーシャルビジネス		
数値成果	2月1日現在：フォロワー305人 いいね数最大503		
なぜこの問題&アクションなのか	SDGsのゴールを達成するには多くの人に認知をしてもらい、さらに行動につなげてもらう必要があると考えたから。		
工夫したこと/達成したこと	チームのみんなに定期的に個人的な声かけをして全体が楽しく活動できるようにする。		
困難だったこと/次回に向けて	企画段階がなかなか進まず困難だったが、みんなが助けてくれたので実行に移せた。		
学びメッセージ	リーダースキル、コミュニケーションスキル、SDGsについて、発信力など		

<p>報告者</p>	<p>長壁楓華</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：個人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>2019年8月の夏休み中、フィリピンでボランティア活動を行いました。12/28に報告会を自分で主催・開催しました。3/23に、きらめき作文コンクールの最終審査で貧困に関する作文をスピーチします。現在、報告会で得たお金をフィリピンに還元するための方法を考えています。</p> <p>期間：2019年8月20日～現在</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>報告会参加費：8,500円（社会人のみ） 参加人数：30人(満員)</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>私は主に子どもの貧困問題について取り組んでいます。そこで、私は身近な大人や同級生に貧困状況とはどういうものなのか知ってもらい、今後の活動に協力してほしいと思い、報告会を開きました。今後の目標としては、群馬で学生団体を開き、貧困状況から抜け出すため、学校に行けない子どもたちに本を送る活動をしたと思っています。また、スモーカーマウンテンでゴミ拾いをして生活をしていた人を見たので、その人達のためにできる活動を考えていこうと思っています。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>まず、上毛新聞社に営業をかけて、フィリピンの報告書を掲載していただきました。その後、チラシを300枚刷り、県内の高校・大学・飲食店・病院などに貼っていただきました。そして、報告会には、会場の最大人数である30人の方々にお越しいただきました。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>改善点は、ディスカッションの内容を私自身があまり詰められていなかったことです。また、大人の方々の議論になってしまったので、学生限定の報告会も開きたいと思っています。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>この報告会は、ボランティアアクションinフィリピンを、ボランティアのみで満足しないために行いました。このおかげで、毎日のようにフィリピンの貧困問題について考えることができています。そして、貧困問題を解決するには継続が大切だと思うので、今後も続けていきたいと思いました。また、多くの人が貧困問題に関心がないわけではなく、行動の起こし方がわからないというだけだと分かりました。そういった人々を導いていけるようにしたいと思っています。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
 
- 2 飢餓をゼロに
 
- 3 すべての人に健康と福祉を
 
- 4 質の高い教育をみんなに
 
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
 
- 6 安全な水とトイレを世界中に
 
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
 
- 8 働きがいも経済成長も
 
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
 
- 10 人や国の不平等をなくそう
 
- 11 住み続けられるまちづくりを
 
- 12 つくる責任 つかう責任
 
- 13 気候変動に具体的な対策を
 
- 14 海の豊かさを守ろう
 
- 15 陸の豊かさを守ろう
 
- 16 平和と公正をすべての人に
 
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう
 

実施メンバー：計4人

報告者

澤田のどか、島田明日美、高橋瑞貴、加藤飛鳥

社会問題
&
アクション

- ・地産地消の普及活動と促進活動
- ・中学校2校に地産地消の効果や内容に関する資料を配布
- ・直売所でミニワークショップを開催、地域産のナスを使った料理の試食、レシピの提供、地産地消の効果に関する資料の配布
- ・地産地消に関する動画作成

期間：2019年7月30日～現在



アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・**啓発活動**・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

直売所では26人にワークショップを実施+ナス購入率前週比5%UP
中学校2校、271人に資料を配布

なぜこの
問題&
アクション
なのか

地産地消をすることでフードマイレージを削減することができ、二酸化炭素の排出量を削減することができるため、気候変動の阻止にもつながる。気候変動は、自然災害と密接で、自然災害による被害は人々を苦しめている。地域の農産物が活発に流通することで地域活性化につながる。地域活性化が不足すれば、地域の設備が整わず、健康被害につながったり、住みやすい街にならず、人口が減少したりしてしまう。日本の食糧自給率は低く、今後を見据えた自給率の向上が必要である。

工夫したこと
/達成したこと

直売所のワークショップは、対象である主婦が多く、忙しい方が多いことから、時間を長く取れないので、できるだけ短く地産地消の内容を伝えるため、動画や試食で興味を持ってもらうよう工夫した。地産地消の再認識を目的に、中学校で資料配布を行った際は、具体的な効果や取り組みを提示した。その後のアンケート調査では、「小学校で習ったけれど忘れていたことを思い出すことができた」「地産地消に取り組みたいと思うようになった」というコメントをいただいた。

困難
だったこと
/次回に
向けて

ワークショップに人を集めることが大変だった。忙しい主婦の方が多かったことから、2回実施のうち1回目はお昼時に実施したのに対し、2回目は夕方4時から開始した。短期的な活動になってしまったので、長期で回数を重ねて活動しようと思う。地産地消を行うのは1回ではなく繰り返しの継続性が必要なため、スーパーでのポスター掲示などを考えている。直売所での活動は主婦向けに、中学校での活動は学生向けだったため、若い大人向けの活動もしていきたい。

学び
メッセージ

このような課題を見つけてアクションを初めて起こし、自分にも出来ることがたくさんあるのだなと実感できた。自分の自信にもなった一方で、活動する中で上手くいかなかったことや、結果をうまく出せなかったこともあり、現実には甘くないのだなと感じた。色々な大人と関わる機会にもなって人の輪もひろがり、新しい考え方なども受け取ることができ、嬉しかった。自然環境に興味があり、具体的なアクションを起こすことができ嬉しかった。これを機にもっといろんな活動をしてみたいと思った。

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つるまき責任消費
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう


<p>報告者</p>	<p>大野中菜</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：個人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>子ども達が選択肢を多く持ち、笑顔のある未来を築くために、高校生ができることをする！を目標に、NPOの子ども食堂で高校生による学習会、経験作りを企画実施しました！子ども食堂とは貧困家庭、ひとり親家庭の子どもと親が集ってご飯を食べたり、遊んだりするところです。学習会は4回実施し、毎回高校生5人くらいに中学生4人くらい・小学生15人くらいで、勉強を教えたり、中学生に高校生活や受験の話をしたり、スポーツをしたり、それぞれ得意なことを披露したりしました。また、大人に向けて私の活動の重要性を講演しました。</p> <p>期間：2018年3月1日～2020年2月23日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>講演会と学校のサミットで計100人くらいにスピーチ子ども50人くらいと活動</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>自分が中高の生活や受験を経る中で、お金がないとできなかったことや、情報が遅くてできなかったことがあり、多くの子どもたちがそのような事態に合うことなく、やりたいことを追求できる学生生活を送ってほしいと思い、活動を始めました。貧困、教育格差、情報格差は子どもたちの未来や選択肢の数に大きく関わります。これからの時代を担う子どもたちが自由に活動できることが大切だと思います。目の前の子ども達を相手にした事より、子ども達が高校生の姿から学んで可能性を増やして欲しいと願っています。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>内容を充実させること、子どもたちの反応を見ながら改善していくこと、協力してくれる高校生への活動目的や注意することを徹底しました。子ども達本人やお母さん方から、楽しかった！すぐに活用できる情報を得られた！といった感想をいただきました。高校生の姿から良い影響を与えられたと思います。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>高校生の連携です。次回から、事前に参加メンバーの打ち合わせで、目的や注意事項などの確認をよりしっかりとします。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>子どもたちは状況を変える力が弱いので、差し伸べる手が必要であること、家庭内にはまだ多くの問題があることを体感しました。もっと良い影響を与えられるようにしていきたいです。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な開発目標を達成しよう
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	吉川美輝、吉村紫織、吉村美香、神津日露乃、吉澤純、山田莉緒、田中羽美、堀内愛海		実施メンバー：計8人
社会問題 & アクション	台風19号による大雨、暴風、洪水により多くの方が避難生活を強いられ、今まで通りの生活が困難になっている中、少しでも被災地の力になることができればと思い、今回の街頭募金を企画した。		
	期間：2019年11月27日		
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス		
数値成果	募金で集まった金額：15,134円		
なぜこの問題 & アクションなのか	近年、日本では異常気象になることが多く、毎年のように災害が起こっている。この募金で集めたお金が少しでも支援につながると考えている。また、私たち自身がこのような問題に目を向けるきっかけとなった。		
工夫したこと / 達成したこと	何のための募金なのかをできるだけわかりやすく表示し、大きな声で呼びかけるようにした。目標金額を達成できよかったと思う。		
困難だったこと / 次回に向けて	初めて道路使用許可の申請をしたので、書類の作成などが難しかった。また、寒い中での活動だったので、募金がなかなか集まらず辛いときもあったが、優しく声をかけてくれる人々に救われた。次行うときには活動時間帯と場所を工夫したい。		
学びメッセージ	このアクションを通じてたくさんの人の優しさに触れることができた。また、小さなことではあるが、私たちにもできることがあると知れたので活動を続けていきたい。		

報告者	湯本飛鶴		実施メンバー：個人
社会問題 & アクション	タイの孤児院での日本語と日本文化を教える授業をおこなった。		
	期間：2019年8月20日～27日		
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス		
数値成果	20人		
なぜこの問題 & アクションなのか	タイには日本企業が多く存在するが、タイ人で日本語を話せる人が少ないため雇用が生まれず、また日本語教育も満足ではなかった。		
工夫したこと / 達成したこと	日本語を楽しく学べるように、日本の文化のクイズを出しながら授業をすすめた。		
困難だったこと / 次回に向けて	日本語を教えるという経験がなかったことと、現地に教材が少なかったこと。次回行くときには絵本を持っていきたい。		
学びメッセージ	教育をすることはとても大変だということを学んだ。また、タイの人々はとてもあたたかく、親切な人ばかりだった。		

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう 
- 2 飢餓をゼロに 
- 3 すべての人に健康と福祉を 
- 4 質の高い教育をみんなに 
- 5 ジェンダー平等を實現しよう 
- 6 安全な水とトイレを世界中に 
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 
- 8 働きがいも経済成長も 
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 
- 10 人や国の不平等をなくそう 
- 11 住み続けられるまちづくりを 
- 12 つくる責任 つかう責任 
- 13 気候変動に具体的な対策を 
- 14 海の豊かさを守ろう 
- 15 陸の豊かさを守ろう 
- 16 平和と公正をすべての人に 
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう 

実施メンバー：計12人

報告者 田中萌子

社会問題
&
アクション

ボーイスカウト活動を通しての
募金活動(緑の募金)
地球上の森林の面積は減少の一途にある。
また、森林が成長していたとしても、
整備が追いつかず、災害の原因となっ
てしまう可能性も高い。最近の若者は、
森をはじめとした自然との関係が徐々に
薄れつつある。森が、自然がどのように
私たちを助けてくれるのか、どのように
関わっているのか学ぶべきである。



期間：2019年4月14日

アクション
の種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

70,780円

なぜこの
問題&
アクション
なのか

自然災害を防ぐために森林を間伐している林業の方々の高齢化が進むと共に、
担い手も減ってきている。このままでは私たちを守ってくれる森自体も減っていつ
てしまう。この募金は、植林のための費用となったり、小学生をはじめとする、未来を
創る子どもたちに自然と私たちの生活のつながりについて学べる『森の教室』を開催
する手助け(資金)となったりしている。

工夫した
こと
/達成した
こと

より多くの人に募金していただくため、人通りの多い道路やスーパー、駅前中心で活動
した。また、一人でも多くの人にこの募金を知ってもらうため、大声を出して、注目
してもらうきっかけを作った。
達成できたことは、例年よりも多くの募金が集まったことである。例年は6万円代後半
だが、今年は7万円代に突入することができた。

困難
だったこと
/次回に
向けて

寒い中、大きな声を出し続けることである。募金をしてくださる方がいることで、
私たちの活動も後押ししてくださる気がして元気が出た。応援してくださる人の想いに
応えたいと思い自然と頑張れた。次回行うとしたら、もっと多くの人に目を向けて
もらうため、何が目的かも含め呼びかけをしていきたい。

学び
メッセージ

私が思っていた以上に、周りにはボランティアやこのような募金に参加してくださる人
が多いということである。そして募金をしてくださる方々は森林を守りたいという想い
だけではなく、私たちのような若者の活動を支援したいという想いもこめられていると
いう、人々の優しさも体感できた。

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つるむ責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>毛千晴</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計4人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>世界では紛争や自然災害、貧困、感染症の流行など、医療が不足する地域が多くある。医者は不足し、衛生環境は劣悪である。5秒に1人が亡くなっている世の中で、まだ助けを求めている人がたくさんいる。国境なき医師団は、その人たちのために世界各地での医療・人道援助活動をしている。私は仲間とともに募金活動を行い、国境なき医師団へ寄付した。</p> <p>期間：2019年8月26日～2019年9月25日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>95,886円</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>より多くの人を助けたいという思いと、国境なき医師団という素晴らしい活動をしている団体を知ってもらいたいという思いから募金活動を始めた。このアクションは、私たち中高生がやっている。そのため、世の中の多くの中高生のモデルになれるのではないかと考えている。私たちが集めた寄付で救える人はごくわずかかもしれないが、私たちが宣伝した分、少しでも多くの人が貧困、紛争、飢餓などの問題に興味を持ち、国境なき医師団や他の団体に寄付をしてくれると考えている。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>子どもの写真が写っているパネルや、ボランティア部独自で活動内容をまとめたボードを持って募金を行なったことで、多くの人目に留まった。忙しい通勤・通学・帰宅ラッシュを避け、比較的落ち着いた時間帯に活動した。人数もちょうどよく、掛け声も簡潔でわかりやすかった。中高生なりにファンドレイジング活動を頑張れたので、中高生の見本になれた。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に話しかけられた時に答えを返さなくてはいけないこと。しっかり自分たちの寄付先を調べ、相手に信頼してもらいたい。 ・短い言葉で募金の要項を説明すること。 ・中高生に募金してもらうこと <p>次回行うとしたら、少ない金額でも是非募金してもらうよう伝えたい。また、「何円集まれば何ができる」や、「昨日集まった金額」など示し、興味を持ってもらいたい。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>正直募金は大変だった。怒られたり、無視されたり、挫けそうになったこともあった。しかし、これらを全て乗り越えて成果を出せた瞬間この活動の楽しみが体に伝わった。常に全力で、積極的に物事を進めていけば必ず認められる。これからも社会貢献に全力で参加していきたい。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

実施メンバー：計12人

報告者

椎野はな

社会問題
&
アクション

海岸に落ちていたゴミが海に入らないように、ゴミを拾うなどのビーチクリーンアップを逗子海岸で行った。



期間：2019年7月21日

アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

ゴミ袋3袋

なぜこの
問題&
アクション
なのか

海洋生物が海水に紛れ込んだゴミを食べて窒息してしまったり、マイクロプラスチックを知らぬ間にたくさん飲み込んで病気になってしまったりする例があるので、自分たちが少しでも海に流れ込んでしまうゴミやプラスチックを減らすことができれば、海洋生物が被害に遭う確率を少しでも減らすことができる。

工夫した
こと
/達成した
こと

12人の参加者の方と、協力して一度にたくさんところでゴミを拾って効率よく拾った。そして、合計で3袋ぶんのゴミを集めることができた。ゴミ捨てを促す声掛けをすることができた。

困難
だったこと
/次回に
向けて


見ていないところで、ゴミをポイ捨てしたり、ゴミの分別をしないで捨てようとする人が多くいたので、その一つの行動が私たちの健康にも、そして潰瘍生物の命に大きく関わっているということを伝えるようなアクションを起こしたいと思う。

学び
メッセージ

一人一人が海洋生物の命に自分の行動が関わっているという意識が薄いということを知った。そして価値観の違いというのは大きなギャップになるということを知った。

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>三好里奈</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：個人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>流暢な言語を用いてのコミュニケーションを遠い存在だと感じている人が多い。そこで、タイへの短期留学について、パワーポイントを用いてプレゼンを行った。</p> <p>期間：2019年3月24日、6月8日ほか</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>10人、30人、150人にそれぞれスピーチ</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>日本がグローバル化の波に乗り遅れるかもしれないから。グローバル化を、少しでも近い存在だと感じる人が増える。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>聴衆に呼びかけたり、グループワークを行なって対話の場を作ったりする。留学体験のイメージが湧きやすい写真を用いる。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>グループワークを行わなかったプレゼンテーションでは、聴衆の反応を聞き取りにくかった。次回は聴衆に感想を聞く機会を設けたい。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>プレゼンテーションの楽しさと難しさ。この活動に意味があるということ。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

実施メンバー：計11人

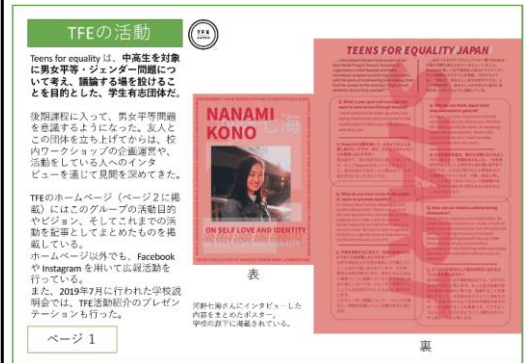
報告者

高橋優月

社会問題
&
アクション

高校2年生の頃、同年代の人に男女平等について知ってほしい、意見交換をしたいという思いで、友人とTFEという団体を結成。男女平等の活動をしている人たちへインタビューをしたり、校内で高校生に男女平等の実現について考察やディスカッションをするワークショップを開催したりしている。そしてその活動を、SNSを利用して情報発信している。

期間：2017年10月1日～現在



アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・**啓発活動**・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

150人

なぜこの
問題&
アクション
なのか

ジェンダーによって自分のしたいことが無意識に制限されている環境であるから。進路・職業選択でも同じことが言える。私は、今取り組んでいる活動を通じて、参加者に固定化されたジェンダー観念に基づく表現や慣行を疑問視する視点を提供し、今ある環境が改善すべきものであると啓発している。この啓発活動が男女平等における個人の価値観の変化につながると考えている。

工夫した
こと
/達成した
こと

フェミニズムはセンシティブなトピックであるため、学校内でその活動を行うことは、生徒や先生の理解と支援を得ることが難しかったが、同時に欠かせなかった。多くの活動家の方へのインタビューを通じて男女平等を多角的に知ることができた。それを校内ポスターやSNSを通じて仲間に共有できた。

困難
だったこと
/次回に
向けて

私たちのグループの目的を理解してもらうことが一番難しかった。ワークショップで男女平等について自由に思考、発言のできる機会を提供する団体として活動していることを先生方に理解してもらうために、パンフレットなどを作成し、結果的にサポートを得られた。次回、別のコミュニティでこの活動を行うとしたら（開始しようとするなら）、スローガンなど用いてグループの趣旨をわかりやすくしたい。

学び
メッセージ

未だにフェミニズムに対する抵抗が大きいということ。しかし、同時に関心を持つ人も多く、知る機会を提供することで、男女平等に関する理解を深め、先入観をなくすことにつながると知った。一方で理解するだけでは行動につながらず、男女平等は先鋭的な関心のある人のみに向けたワークショップだけでは解決できない問題であると感じた。

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大して持続的に
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>駒沢学園女子中学高等学校 社会福祉部 梅澤真穂、荻谷美月、笠原清加、秋山風香、工藤愛梨、本間香織（教員）</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計9人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>不要になった、新品に近い文房具、新品の歯ブラシセット、石けんなどを回収し、途上国の子どもたちへ寄付した。</p> <p>期間：2019年10月7日～11月9日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>文房具類 312点、歯ブラシ 7点、石けん 31個などを回収</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>勉強をしたいという気持ちがあっても、必要な道具が十分でないため勉強の成果に影響がある。正しい歯磨きの仕方を知らない子が多いため、歯や体の健康を保ちにくい。寄付した道具を使ってもらい、少しでもそのような子どもたちの数を減らすことが目標である。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>チラシを作成し、校内やクラス内に掲示をしてもらった。校内放送で活動への参加を呼びかけた。生徒だけでなく、教員や事務の職員にも参加を呼びかけた。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>集めているもの以外の物を持ってくる人がいた。次回からは校内放送やチラシに、回収できないものをより詳しく説明する。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>世界にはまだまだ助けを必要としている人が沢山いると改めて実感した。</p>	

関連SDGs

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を實現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を達成しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>山本千聖</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：個人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>法政大学で行われた、「世界こどもの日ユースフェスティバル」において、子どもの教育を受ける権利についてスピーチを行った。</p> <p>期間：2019年11月16日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>50人</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>教育は子どもの将来にとって多大な影響を及ぼすものであり、教育を受ける権利は当たり前には守られるべき大切な権利である。私自身、病気の治療のために学校に通えなくなると知った時、将来への希望を失った。しかし、院内学級に通えたことで、希望や夢を取り戻すことができた。だからこそ、私の経験を伝え、教育が希望を与える存在であることをより多くの人に理解してもらうことで、少しでも多くの人が教育を重要なものとして捉え、多くの子ども達が教育を受けられるようになることに繋がる。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>どのように言ったら、多くの人に教育の大切さや、それは子どもの希望や夢に繋がるということを理解してもらえるのかを考え、スピーチの原稿を練った。私のスピーチは優秀賞に選んでいただき、様々な人が「感動した」と言ってくださった。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>自分の病気の経験を話すことは正直ためらいがあり、かなり勇気が必要だったが、私の経験が多くの人に希望を与えることに繋がることを願い、公の場で話した。今回は、自分の経験をためらうことなく多くの人へ伝えていきたい。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>自分しか分からない、自分の経験を伝えることの大切さを学んだ。また、私のしたことは小さいことだったが、その規模ではなく、行動したことに意味があり、それによって少しでも他の人に影響を与えることができるということ。</p>	


<p>報告者</p>	<p>山内郁輝</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：個人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>子どもの権利条約フォーラムで、国内で子どもの権利がどのように守られていないのか、どうしたら守られるようになるのか発信した。</p> <p>期間：2019年11月16日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>300人</p>	
<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>国外だけでなく、先進国である日本でも子どもの権利が守られていないことが問題。虐待や理不尽な校則、体罰など。今回の取り組みでは、子ども視点で何が守られていないのか、どうしたら守れるのか大人に発信することで教育の変化や、子どもを守る新しい施設などのアイデアにつながると思う。</p>	
<p>工夫したこと /達成したこと</p>	<p>参加者で、どうすればより大人に現場の意見を伝えられるのかミーティングを重ね議論した。結果、なるべく多くの視点からの意見を伝える方向に決まった。私立や公立、フリースクールなど、様々な環境に置かれている子ども達の権利が守られていないことを発信できた。</p>	
<p>困難だったこと /次回に向けて</p>	<p>決められた時間内で自分の訴えたいことをまとめ、子どもの権利に関心を持ってもらうために、聴く人の心にどう印象付けるか考えることが大変だった。次回行くとすれば、司会進行のタイムテーブルをより細かく決め、もっとテンポよく聴くひとを飽きさせない話をしたい。</p>	
<p>学び メッセージ</p>	<p>子どもはそれぞれ、校則も家庭環境も全て違う環境に置かれていて、子どもの権利が守られないために、ある人は毎日笑っていられるけど、ある人は毎日家に帰れないような格差が生まれている。理不尽な不幸を子どもから取り除き、みんなが笑って安心して生活できるようにしなければならない。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	野口駿		実施メンバー：計7人
社会問題 & アクション	<p>痴漢を防止する活動の情報の拡散をした。</p> <p>期間：2020年1月10～19日</p>		
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・ 啓発活動 ・アドボカシー・ソーシャルビジネス		
数値成果	244人		
なぜこの問題 & アクションなのか	現在、社会では痴漢が横行しているが、紛れもない性差別であるから。痴漢が悪いことであるということの再認識、痴漢の減少を目的としている。		
工夫したこと / 達成したこと	まだできたばかりの団体だったので、いかに宣伝するか工夫した。多くの人に宣伝し、イベントの参加者を集めることができた。		
困難だったこと / 次回に向けて	いかに痴漢に馴染みのない人を巻き込むか詳しく説明した。		
学びメッセージ	行動すれば何かが変わるということ		

<p>報告者</p>	<p>沖美智子</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：個人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>インドネシアの孤児院に行き、日本文化を伝えると共に、子どもたちと深く関わった。</p> <p>期間：2019年5月2日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>80人</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>貧困により、親が子どもを捨てているせいで、多くの子どもが孤児院にいるが、学校へ行くことができていないことが問題。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>日本の折り紙などを用いて子どもたちと接することができた。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>現地の人とのコミュニケーション。英語がうまく伝わらなかったり、逆にこちらも勉強不足で上手く話が聞き取れなかったりしたこと。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>孤児院にいる子どもがピアノ(拾ってきた電子ピアノ)でいろんな曲を私に聞かせてくれた。この子たちには素晴らしい才能があるのに、学校に行きたくても行けない。そんな発展途上国の現実を感じた。しかも、私が行ったところは首都だったので、農村の方はもっとひどい状態なのかもしれない。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

実施メンバー：個人

報告者

北園愛果

社会問題
&
アクション

障がい者に対するの偏見を解決するための団体「smile」にボランティアとして参加、雑誌へ感想文も掲載した。また、障がいのある子ども達と一緒にウォーキングのレッスンに取り組み、お互いの理解にも努めた。

期間：2019年4月28日



アクションの種類

資金支援・物資支援・**ボランティア**・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

500冊以上を配布

なぜこの問題&アクションなのか

学校の近く（練馬台）に事業所や養護学校などがいくつかあり、通学時に多くの障がい者の方をお見かけし興味を持ったため。また、以前ボランティア部に所属していた際に事業所の方と交流もあり、その時に楽しさを覚えたため。

工夫したこと/達成したこと

先入観を持たずに、ただその場にいる全員と楽しい空間を作りながらも、講師の方の姿勢を見習いながら、障がい者の方と接することを目標とし、達成する事が出来た。

困難だったこと/次回に向けて

私や友達に対し、初めて会う人という事で不信感を抱かれている方や、沢山話しかけてくださる方など三者三様で、それぞれどのように対応すべきか悩んだが、笑顔で対応する事が一番だと分かった。次回からは最初から困った顔をせずに笑顔で自分から話しかけていきたい。

学びメッセージ

人間は何かで分け隔てされるべきではない。しかし、全ての人を同じように扱えば良いという訳でもなく、何かで括りをつけるよりも、一人一人に先入観無く向き合うことが、新たな出会いや発見に繋がることを実感した。

関連SDGs



<p>報告者</p>	<p>山田寧々</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計9人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>カンボジアに行って、フリースクールの子どもたちに英語の単語や言葉、日本語などを教えた。また、勉強方法についても、ジェスチャーなどを交えて教えた。途上国と言われる国で、学校に行けない子達に、勉強やその楽しさを知ってもらい、自ら勉強する姿勢を身につけてもらう。</p> <p>期間：2019年12月26日～12月31日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>20人に英語を教えた</p>	
<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>カンボジアなどの途上国では、教育の質が良くなく、貧困の家では学校に行けず、フリースクールに行っている子どもも多い。しかし、その子どもたちが将来子どもを育てる時、学校へ行く事の大切さや勉強の大切さを学べない。カンボジアでは、それが原因で学校に行かせてもらえない子どもも多く、国の繁栄や成長の後れに繋がるという悪循環が生じていると考える。そのため、子どもたちが学校に行く楽しさを学び、勉強の大切さを知れば、親になった時に自分の子どもたちにも学ぶ大切さを伝えられ、悪循環を断ち切り、国もより成長していくと思う。</p>	
<p>工夫したこと /達成したこと</p>	<p>なるべく楽しみながら勉強を教えるようにした。その方が勉強の楽しさを感じる事が出来、長く続けられると思う。最後に勉強した英語を使って、私たちにメッセージをくれた子もいた。</p>	
<p>困難だったこと /次回に向けて</p>	<p>人数が少なく、一人一人と向き合えなかったのが、次回はもっと大人数でやりたい。また、もっといっぱいプリントとか英語が書いてある本があれば、もっと分かりやすく教えられたかなと思う。</p>	
<p>学び メッセージ</p>	<p>勉強を教えることはとても難しい。勉強できているこの環境に感謝しなければならないと思った。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなに
もって持続可能に
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させる
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>実施メンバー：計2人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>「寄付ナビ」のLINEアカウントを友だち追加し、かものはしプロジェクトに30円寄付</p> <p>期間：2020年2月4日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>30円</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>人間が2万円で売られている国が存在していることが単純におかしいと思いました。人間は物ではありません。人身売買が現実に行われていることに衝撃もありました。30円だけではまだ足りないと思いますが、その金額が増えれば、人身売買を行っている人の取締り強化であったり、サバイバー（被害者）の女の子の心のケアなど、少しずつ貢献できると思います。</p>	
<p>工夫したこと / 達成したこと</p>	<p>まずは、自分でも出来る寄付について調べました。アルバイトをしたら、今度はお金を寄付したいです。</p>	
<p>困難だったこと / 次回に向けて</p>	<p>大学入学後にアルバイトで稼いだお金を継続して寄付したいです。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>自分は今日、大学受験を終えてきました。受験料や大学の授業料は全て親に払ってもらいます。当たり前に進学出来る状況が、世界で考えたら当たり前でなく、また学ぶことすらできていない同世代の子どもがいることに驚きました。直接現地に行くことは、まだ不可能ですが、今日本に住んでいても出来る支援を見つけられて良かったです。まずは調べ、その上で今の自分にできることを考える。今後も出来ることを一つずつ探し、行動に移していきたいと感じました。そして、親にありがとうと伝えたいです。</p>	

<p>報告者</p>	<p>木暮柚花、西陽香</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計2人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>ひとり親家庭など、経済的困難にある人へ食事を提供する施設で商品管理を行った。 (西島陽香) ハンガー・フリー・ワールドのワークショップで飢餓を学び、飢餓ゼロに繋がる寄付をするために用いる切手貼りを手伝った。 「earth garden 秋」にて、iPledgeの環境ボランティアで再利用できるお皿やカップを洗い、ゴミをゼロにする活動を手伝った。また、外国人も多かったこともあり、英語力をいかして外国語ボランティアをした。 (木暮柚花) 期間：2019年3月22日～2019年12月21日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>100人</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>私たちができる身近なことからやることで、貧困や飢餓など慢性的な問題の解決の一步になり、その一步を増やしていくことで世界が目指すべき持続可能な社会を築いていける。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>周りや自分の知らない人とも繋がりを持って絆を深めるために、色々な人に話しかけた。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>一回のアクションで終わりではなく、これからも継続してアクションを取り続けていく。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>どれだけ小さなアクションでも、積極的に起こしていくことがとても大切で、世界中がそれをしたらもっと問題解決につながると思いました。その1人として、私たちがやれるべきことをやっていきたいと思う。</p>	

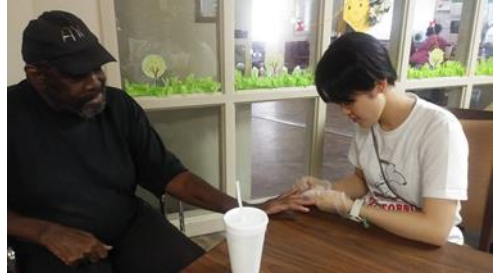
関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 質の高い教育をみんなに
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させる
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>H.A.R. 実施メンバー：計4人 野田さや香、野田愛莉、桧佐みゆき、野田りや子</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>障害のある人たちへの偏見や差別意識の軽減を目指し、ダウン症の妹と二人でとても小さな会社『H・A・R』ハルを作りました。12/4のあるマーケットで、お菓子と、私が撮った、妹の雑誌を売りました。ダウン症の妹はダンスをしています。そのダンスのクラブにはダウン症の人しかいません。誰も他の人を憎んだり、ひどいことを言ったりしません。私は彼らの素晴らしさを伝えたくて妹の写真集を作りました。優しく、かっこよくて、私は妹が大好きです。売上はそこそこでしたが、作ってよかった、と思います。 期間：2019年11月1日～2019年12月4日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>2,100円（7人が私の作った雑誌を購入してくださった）</p>	
<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>私は、健常者の人たちの障害者に対する差別や偏見のせいで、障害者の活動の幅がうんと狭まっていると思っています。マインドチェンジを少しでも多くの人たちがしてくれたら、ダウン症の妹の魅力を知ってもらえたら、きっと未来を生きる障害者の人たちはもっと楽になると考えます。妹たちが輝く未来をつくりたいです。</p>	
<p>工夫したこと / 達成したこと</p>	<p>私の作った雑誌を7人の方々が買ってくださいました。一人でも多くの人に妹の魅力を知らせてもらう、という目標を達成しました。その雑誌の中に私から見た妹を書きつづりました。</p>	
<p>困難だったこと / 次回に向けて</p>	<p>妹はダンスでNHKの「パブリカ」のフリースタイルバージョンに出演しました。雑誌を作ったときは載せられなかったのが、次作るときは掲載したいです。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>高校の友達に障害者の話をすると、「別の話しよう」と言われてきました。そのため、世の中の人は無関心で、踏み込みたく無い世界なのだと思っていましたが、協力してくれた人たちや学校の先生が「こんなに素晴らしいこと無いよ」「この雑誌買っやね」とおっしゃってくださり、自分のしている事は間違っていないと実感しました。</p>	

報告者	山口万由子		実施メンバー：個人
社会問題 & アクション	<p>老老介護問題に関する国際ボランティア</p> <p>期間：2019年8月4日～20日</p>		
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス		
数値成果	50人		
なぜこの問題 & アクションなのか	老老介護は限界がある。わたしの行った国際ボランティアによって、外国人労働者の方の受け入れ促進に繋がる。		
工夫したこと / 達成したこと	なし		
困難だったこと / 次回に向けて	なし		
学びメッセージ	外国人労働者の方の気持ちになれた。外国人労働者の方の受け入れ環境をどう整えれば良いのか学べた。		

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう 
- 2 飢餓をゼロに 
- 3 すべての人に健康と福祉を 
- 4 質の高い教育をみんなに 
- 5 ジェンダー平等を實現しよう 
- 6 安全な水とトイレを世界中に 
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 
- 8 働きがいも経済成長も 
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 
- 10 人や国の不平等をなくそう 
- 11 住み続けられるまちづくりを 
- 12 つくる責任 つかう責任 
- 13 気候変動に具体的な対策を 
- 14 海の豊かさを守ろう 
- 15 陸の豊かさを守ろう 
- 16 平和と公正をすべての人に 
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう 

実施メンバー：計14人

報告者

神作拳呉

社会問題
&
アクション

児童労働、平和、教育、貧困問題を同世代に知ってもらうため、都内での映画「バレンタイン一揆」上映会、ワークショップ実施、グローバルフェスタ出店、カンボジアフェスティバル出店を行った。



期間：2018年4月1日～2020年2月16日

アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

65人

なぜこの
問題&
アクション
なのか

何かについて考えさせるアクションを起こすことによって、新しい発見や価値観が生み出される。その影響の輪を大きくしていくことで、よりよい社会になる。若者が社会問題に真剣に考えることは少なく、学校外で触れる機会も多くないのが現状であるため、そこからの変化が必要である。

工夫したこと
/達成したこと

同じ高校生に対してイベントを行うことで親近感が湧くため、参加者はその後の行動にすぐにつながると考えた。また、体験型ワークショップや映画上映会では、ガーナの子ども達が毎日運んでいるカカオ豆と同じ重さを米袋とダンベルで用意し、実際に同じ距離を歩いて運ばせた。毎回のイベントで自分たちの活動に興味を持ってくれた子が、自分たちの活動に参加したいと言ってくれたことや、様々な人との交流があり、コラボレーションもできたことは大きな成果であった。

困難
だったこと
/次回に
向けて

様々な興味関心を持つ仲間たちの意見をまとめ、どのようなイベントにするか決めることが困難なことであった。多くの時間を使い、参加者目線からも来て良かったと思えるようなイベントにしなければいけないため、アンケートなどを用いてイベントをより良くしようとした。これらの経験をいかし、今後は基本的なスケジュール設計をしっかりと進め、PDCAを何度も回せるほどの時間と気持ちの余裕をもって臨みたい。

学び
メッセージ

社会問題や国際問題に興味関心がある同世代の少なさにとても驚いた。自分は様々な人との出会いによって、貧困や児童労働、福祉や教育、哲学に興味を持った。それにより中高生になった時に、学校を越えて活動するようになった。自分たちがアクションを起こし、知ろうとしたからこそ、多くの社会問題や学ぶことがあった。また、自分たちの伝えたい、広めたい、知って欲しい、という気持ちの大切さも学ぶことができた。

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な開発目標を達成しよう
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>実施メンバー：計4人 箭内美緒、佐藤凜、新出彩夏、大出ザマン紗良</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>私達は「GLOBAL Social Leaders」という大会に出場しています。 プラスチック汚染問題の解決、日本のレジ袋削減を目指し、少しでも多くの人にエコバックを持ち歩いてもらえるよう、学校で使用済レジ袋からオリジナルのエコバックを作るワークショップを行っています。地球温暖化が進む中で、若者である自分たちに何ができるかを考えて活動しています。</p> <p>期間：2019年11月29日～2020年5月</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>約1,000人の前でスピーチ 使用済レジ袋からエコバックを作るワークショップを2回実施</p>	
<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>プラスチックゴミによる動物や環境への影響が大きいにもかかわらず、あまり知られていないので、改善の必要があるからです。</p>	
<p>工夫したこと /達成したこと</p>	<p>カナダ人の先生と英語でたくさんのミーティングを重ね、ワークショップもどうしたらみんなが楽しく参加できるか考えたり、学校のある杉並区の区役所やカナダのヴィクトリア市に連絡をとって自分たちの活動を広めたり、環境問題に取り組む組織に報告をして、アドバイスを貰ったりしました。</p>	
<p>困難だったこと /次回に向けて</p>	<p>日本では環境問題に対する取り組みがまだ大々的に行われていません。また、学校で、全校生徒の前で自分たちが何の活動をしているか、ワークショップに来てもらうためにプレゼンテーションをしましたが、自分たちのクラスメイトと先生しか来てくれなかったので、全員にこの問題を自分たちの問題だと真剣に捉えてもらうまで時間がかかると実感しました。私たちの活動を他人事だと考えている人たちの興味をどのように引くか試行錯誤しています。</p>	
<p>学び メッセージ</p>	<p>日本ではまだ意識が低く、環境に対する対策が進んでいないと実感した。一人一人が環境に対して真面目に捉えないと、いくら国が活動してもなにも変わらないと思いました。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

実施メンバー：計20人

報告者

坂本亮

社会問題
&
アクション

東京オリンピック・パラリンピック
組織委員会主催の「みんなの表彰台
プロジェクト」の校内、地域での実施



期間：2019年11月20日～2020年2月29日

アクション
の種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

プラスチック空容器 2kg

なぜこの
問題&
アクション
なのか

海洋ゴミは海洋生物を物理的に傷つけるだけでなく、化学物質を吸着させ、生体に悪影響を及ぼす可能性が指摘されている。生物濃縮によって人間の体内に入る可能性もある。綺麗なビーチが汚染されることで観光にも影響がでてくる。

工夫した
こと
/達成した
こと

公式ポスターでは補いきれない情報について、独自のポスターを各校で制作・配布した。また、回収対象が頻繁に排出されるものではないので、一定の周知期間を設けた。

困難
だったこと
/次回に
向けて

家庭のゴミ事情に詳しいのは主に保護者のため、保護者に伝えるのが最も困難であった。生徒に向けて、集会で「保護者の方にお伝えください」と繰り返し呼びかけたが、効果は分からなかった。保護者へのメール配信システムがあったため、教員にお願いして流してもらえばよかった。

学び
メッセージ

回収プロジェクトは、家からわざわざ持ってきてもらわなければならない、ハードルが高い。みんなの表彰台プロジェクトは通常、イオン系列店舗など限られた場所での回収していないため、利用客以外はなかなか集めづらいと思った。それを今回、学校に広げたが、さらにフレキシブルに広められると成果が期待できると思った。

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>宮地杏奈、西脇礼奈、神谷果歩、岩月はな乃、 時田穂佳、横田理沙子、藤川和輝、根上侑己</p> <p>実施メンバー：計10人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>SDGs文化祭での発表 SDGs講演会でのプレゼン 学生団体の立ち上げ ベジプロジェクトジャパンでのお手伝い</p> <p>期間：2019年9月3日～2020年1月20日</p>	
<p>アクション の種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>20人にスピーチ、20人にワークショップを行った</p>	
<p>なぜこの 問題& アクション なのか</p>	<p>ベジタリアンの人が来日時に困ることが多い。また、日本人の中にも自分を押し殺す「隠れベジタリアン」が存在する。このアクションによって、ベジタリアンの選択肢がある社会を目指している。また、この思いの原点には「誰もが自分に合ったライフスタイルを選べる社会を創りたい」という思いがある。</p>	
<p>工夫した こと /達成した こと</p>	<p>「ベジタリアン」という言葉に対して、拒否反応を示す人や全く興味を持たない人もいる。その中で少しでも自分ごとにしてもらうために、「東京2020」や「だし文化」などの人々が身近に感じやすい言葉を使うことを心がけた。また、ワークショップではヴィーガン菓子を参加者の人達に試食してもらった。</p>	
<p>困難 だったこと /次回に 向けて</p>	<p>学生団体の立ち上げにあたり、集まってくれたメンバーをまとめることがまだ上手くできていません。また、自分の活動によって逆に取り残されてしまう人もいないかという悩みもあります。</p>	
<p>学び メッセージ</p>	<p>とにかく一歩踏み出してみる。特別な人じゃなくていい、とにかく自分ができる小さなことから始めることが大切。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な開発目標を達成しよう
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させる
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	法政大学第二高等学校 国際交流委員会 宮地杏奈	実施メンバー：計16人
社会問題 & アクション	教育は、子どもたちが自分たちの道を切り拓いていくために重要な要素です。しかしトーゴ共和国では、日本等の国と比べると、子どもたちが学ぶ機会が十分ではない現状があります。文化祭で国際交流委員会として、トーゴ共和国に向けて募金活動を行いました。内容は、トーゴ布と日本の酒屋さんの前掛けを使ったポーチとコースターの販売と募金の呼びかけです。集まったお金はトーゴ大使館に送り、大使館の方が現地のNGOに送り、本に変えて子ども達に届けられます。 期間：2019年10月26日～2019年10月27日	
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	募金：62,001円、45セットのポーチとコースター販売。 合計80,001円の寄付金額。	
なぜこの問題 & アクションなのか	トーゴでは、特に田舎の地域には図書館があまりありません。図書館があっても、十分な書数がなく、子どもが読める本もあまり置かれていません。私たちは、子ども達の教育のために、本という半永久的に使えるものを送ることで、単発的な支援ではなく、長く子ども達を支えることができると考えました。	
工夫したこと / 達成したこと	コースターの裏地には酒屋さんの前掛けの生地を使い、日本とトーゴがコラボしたコースターにしました。私（宮地）がアフリカ開発会議に伴って開催されたExpoで、トーゴ大使館広報の方と酒バックを販売する方にお会いしたことが始まりです。前掛けの生地は、ご好意で酒バックを作るときに出た端切れを無償で頂きました。コースター二枚セットで400円と少し強めの金額設定にしたので、売れるか心配でしたが、コースターもポーチも完売で嬉しかったです。	
困難だったこと / 次回に向けて	文化祭前がテスト前だったので、限られた時間の中でどれだけ良い企画にできるか悩みました。準備はテスト前からやっていたのですが、テスト後一週間の文化祭準備期間で皆で分担し本気で頑張りました。改善することは、今度は皆で企画を考えて始めることです。今回の企画は思いついてから文化祭までの期間が短く、委員会全体で話し合うことなく実施が決まりました。そのため当日は沢山の委員が参加してくれましたが、準備の段階での参加者が少なくなっていました。	
学びメッセージ	この企画は色々な人が関わってアドバイスを下さり、とても素敵なものになりました。私一人では絶対に成し遂げられませんでした。ありきたりかもしれませんが一つ、協力することの大切さを学びました。そして、とにかく尋ねることの大切さも学びました。端切れの件も、酒バックを見た私が、端切れについて尋ねたことで実現しました。自分がやってみたい・面白そうだなと思うことを話すと、年齢や性別、職種関係なく人が集まってくるので、無謀ととってもとにかく誰かに伝えることが大切だと思います。	




<p>報告者</p>	<p>陸杜緒子</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計20人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県いわき市幼稚園へのハンドベル演奏奉仕 ・St.Mary's International Schoolで福島県へ復興資金のためにキャンドルを作成し販売、情報発信 ・Make A Wish Japan のメンバーとなり、情報発信 ・バングラディッシュに寺子屋を作る活動への募金（中1〜） <p>期間（上から） 2018年7月30日～ 2017年5月～現在 2020年1月～現在 2015年～現在</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>90,000円程度・80人程度</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>東日本大震災から9年が経ち、復興への関心は薄れてきています。しかし、福島県へ演奏奉仕へ行った際、お話を聞いて震災前と同じ生活ができている人は少ないことがわかり、復興はまだ必要だと感じています。また、難病の子供の夢を叶えるお手伝いをするMake A Wish は、日本ではまだ知名度が低く関心も高くありません。情報発信をすることは、少しでも多くの人がある存在や支援の必要性を知り、支援が活性化することにつながると思います。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>福島の演奏奉仕では、まだ外で遊べない子もいる中で、ハンドベルの体験など室内でも楽しめるような工夫をした。室内でもたのしい遊びもあると伝え、その一つが音楽だと伝えるため、子どもたちが楽しめる曲を選んだ。 St. Mary's の支援金集めについては、福島のチャリティの先生に、自分も協力したいとお願いして参加させてもらった。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>ハンドベル体験の際、子どもたちにとってハンドベルは難しいとわかったので、より簡単に鳴らせるようなものを取り入れたいと思います。 キャンドルによる支援金集めについては価格設定に苦労しました。容器に必要なジェルキャンドルは量を少なくし、原価を抑えることで沢山の方に買っていただきました。次回行うときは、キャンドルを販売する際、福島県の現状をもっと知ってもらえるようなビデオを作成し、横で流したいです。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>自分にできることは小さいけれど、自分のアクションが力になると実感しました。また、福島の復興の現状やMake A Wishなど知名度が低いことも実感し、情報発信の必要性を痛感しました。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう 
- 2 飢餓をゼロに 
- 3 すべての人に健康と福祉を 
- 4 質の高い教育をみんなに 
- 5 ジェンダー平等を實現しよう 
- 6 安全な水とトイレを世界中に 
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 
- 8 働きがいも経済成長も 
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 
- 10 人や国の不平等をなくそう 
- 11 住み続けられるまちづくりを 
- 12 つくる責任 つかう責任 
- 13 気候変動に具体的な対策を 
- 14 海の豊かさを守ろう 
- 15 陸の豊かさを守ろう 
- 16 平和と公正をすべての人に 
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう 

- 関連SDGs
- 1 貧困をなくそう
 - 2 飢餓をゼロに
 - 3 持続可能な開発目標を達成しよう
 - 4 質の高い教育をみんなに
 - 5 ジェンダー平等を実現しよう
 - 6 安全な水とトイレを世界中に
 - 7 再生可能エネルギーを普及させよう
 - 8 働きがいも経済成長も
 - 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
 - 10 人や国の不平等をなくそう
 - 11 住み続けられるまちづくりを
 - 12 つくる責任 つかう責任
 - 13 気候変動に具体的な対策を
 - 14 海の豊かさを守ろう
 - 15 陸の豊かさを守ろう
 - 16 平和と公正をすべての人に
 - 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	アレセイア湘南高等学校 文化祭実行委員 実施メンバー：学校のみんな 柳生水樹、渡部駿吾、松田暁、吉澤駿、ガス希安ダグラス、小松美詠、小西愛由美、山村実、山下新司	
社会問題 & アクション	アレセイア湘南高等学校では、毎年平和をテーマにした文化祭ですが、近年のテーマが「青春」など、楽しむこと重視なテーマになっていました。そこで、友人と共に文化祭実行委員会に参加、私は委員長をさせて頂き、その上で「Smile World」～世界一周の旅～というテーマを掲げ、全クラスの出し物にテーマとなる国を各クラス一つ選んでもらうという形をとりました。少しでも外国に興味を持ち、偏見や差別を無くす切っ掛けにしてほしいと思ったためです。約7カ月かけて文化祭を準備しました。 期間：2019年2月～9月	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">《平和祭実行委員長より》</p> <p>平和祭へようこそ!!今年度の平和祭のテーマは「smile world」～世界一周の旅～になりました。今回は統一感を出し、企画を行いやすくするためという理由で一クラスに一つ国を決めてもらいその国の文化や特徴に沿った企画にしてみました。自分たちで決めた国について調べることにより、多民族への偏見などを少しでも無くす事や本校の理念の一つでもあるグローバル人材の育成にも繋がります。そのうえで「SmileWorld」を実現出来たら良いと思っています。 本日はお越しくださりありがとうございます。 世界一周の旅をお楽しみください。高校二年 柳生水樹</p> </div>
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス	
数値成果	来場者：約5,000人	
なぜこの問題 & アクションなのか	戦争や紛争の中には国や宗教間で、自分たちの文化や教え・他者との違いを肯定するために行われるものがあると思います。また、個人間の争いにも同様のことが言えると思います。争いは人種差別や偏見は他者との違いを認めないことから生まれます。参加者が日本以外の国を調べることによって、海外に興味を持ったたり、たとえ国が違っても、同じ人間であることを知る機会になったと思います。少しでも人種差別や偏見を無くそうという意識改革になったと思います。	
工夫したこと / 達成したこと	各クラス一つ国を選んでもらう上で、アメリカなどの有名な国に偏りがちだったので、偏らないよう、高校3年生から順に決めていきました。	
困難だったこと / 次回に向けて	全員を巻き込んで文化祭を準備することです。これからは、先ず全員のモチベーションをあげてからやるべき事に向かおうと思いました。	
学びメッセージ	参加者側として、様々な国の文化に触れることが出来てすごく楽しかったです。同時に、来場者の皆さんにこのアクションを広め、少しでも異文化に対する印象が良くなっていただければいいと思いました。運営側としては、私は今回初めてこのような大きなイベントを運営したので、人を動かすことの難しさを知りました。特に何かを頼む際は相手の考えやモチベーションを大事にしなければならないことを痛感しました。	

<p>報告者</p>	<p>根本真里</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：個人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>FTSN関東高校生支部に所属し、フェアトレードをもっと身近に感じてもらうためにワークショップを開催したり、フェアトレードフェスタのボランティアに参加したりした。</p> <p>個人では、NPO法人の方とコンタクトをとって、お仕事について伺ったり、NPO主催の活動にサポート役として参加した。また、学校内でSDGsをもっと知ってもらうきっかけを作れるように『tacklers』というグループを設立し、始動に向けて準備している。</p> <p>期間：2019年7月26日～</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>65人</p>	
<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>私たちが普段何気なく購入したり使用したりしているモノによって、世界のどこかの人が悲しんだり苦しんだりしていることが不平等なことだと思った。フェアトレード商品が普及すれば、少しでも搾取されている人を減らし、公平な世界に変えられると感じたためアクションを起こしてきた。</p>	
<p>工夫したこと / 達成したこと</p>	<p>受け身でいるのではなく、自分から意見を述べたり、活動に参加したりすることで、新しいつながりができて、自分の活動の幅が広がった。</p>	
<p>困難だったこと / 次回に向けて</p>	<p>snsやポスターで活動をアピールしたが、まだまだ足りていなかった。次回からは、フェアトレードをあまり知らない人でも興味をもってもらえるように伝え方を変えたり、学校で使っているアプリを使ってPRしたりしたい。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>フェアトレードを普及させるには、まだまだ時間も努力も必要である。また、個人で活動もしていたが、SDGsに興味を持っている人が実は学校内にも居ることが分かったため、規模を広げてグループで活動してみたい。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

- 関連SDGs
- 1 貧困をなくそう
 - 2 飢餓をゼロに
 - 3 すべての人に健康と福祉を
 - 4 質の高い教育をみんなに
 - 5 ジェンダー平等を実現しよう
 - 6 安全な水とトイレを世界中に
 - 7 再生可能エネルギーを普及させる
 - 8 働きがいも経済成長も
 - 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
 - 10 人や国の不平等をなくそう
 - 11 住み続けられるまちづくりを
 - 12 つくる責任つかう責任
 - 13 気候変動に具体的な対策を
 - 14 海の豊かさを守ろう
 - 15 陸の豊かさを守ろう
 - 16 平和と公正をすべての人に
 - 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>紀平真珠、狩野楓乃</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計2人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>学校で使わなくなった文房具を集め、カンボジアの子どもたちに寄付した。</p> <p style="text-align: center;">期間：2019年9月10～2020年1月20日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>500個</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>文房具が足りず教育を受けられなければ、将来なかなか職につけず、お金を得られないため貧困は続いてしまう。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>友達に啓発活動をした。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>友達に現状を伝えることで、多くの寄付品を集められることが出来た。次は、文房具以外の物も集めたい。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>途上国の現状を知らない人が多い。</p>	

<p>報告者</p>	<p>由良水沙、和氣友理恵</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計2人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・草木染のトートバック作り ・エコラップ作り ・フェアトレード商品の購入 <p>期間：2019年11月18日～2019年11月25日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>3,500円</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エコラップを使うことで、プラスチックを原料とするラップの使用量を減らせる。 ・機械の進歩により、伝統技術が衰退している。トートバック作りでは、新万葉染にすることで伝統技術を支援し、さらにオーガニックの草木を染物に使うことにより、生産者や環境に優しい、エシカルな形で行った。 ・フェアトレード商品の購入により、その人たちに公正な賃金が支払われ、少しでも貧困の解決につながるだろう。 	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>フェアトレードでは、マサイ族の方たちに公正な賃金が支払われた。また、エコラップ作りとトートバック作りでは、作り方や材料を学ぶことにより、エシカルにつながる消費や生活について深く学べた。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>エコラップ作りは初めてだったため、蜜蝋を溶かすのに苦勞し、時間がかかってしまった。アイロンの長時間使用により節電ができなかった。今度はエネルギー問題も考慮したい。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>プラスチックが原因で死んでしまう魚や鳥がたくさんいることを知った。その他、アマゾンの森林火災の進展など、様々な環境問題も学べた。フェアトレード商品の購入が簡単に行えることだとわかり、もっと簡単にできることが、自分にもあるのではないかと思った。</p>	


関連SDGs

- 1 貧困をなくそう 
- 2 飢餓をゼロに 
- 3 すべての人に健康と福祉を 
- 4 質の高い教育をみんなに 
- 5 ジェンダー平等を實現しよう 
- 6 安全な水とトイレを世界中に 
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 
- 8 働きがいも経済成長も 
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 
- 10 人や国の不平等をなくそう 
- 11 住み続けられるまちづくりを 
- 12 つくる責任 つかう責任 
- 13 気候変動に具体的な対策を 
- 14 海の豊かさを守ろう 
- 15 陸の豊かさを守ろう 
- 16 平和と公正をすべての人に 
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう 

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 質の高い教育をみんなに
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させる
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	近藤杏南		実施メンバー：個人
社会問題 & アクション	<p>渋谷駅で、センター試験を狙って痴漢する人が増えるということで、痴漢から受験生を守るために、私たちの痴漢に対する思いを標語にして、黄色のコスチュームをつけて訴える活動に参加した。</p> <p>期間：2019年1月18日</p>		
アクションの種類	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>		
数値成果	3,735人が情報にコメント		
なぜこの問題&アクションなのか	<p>痴漢はどんな日でも決して起きてはいけないもの。ましてやセンター試験日に、受験生が試験に遅れてはいけないうるために抵抗できないという卑劣な考えで犯行に及ぶことは、受験生にとっての未来の選択肢をゆるがす、安全を脅かすものでもある。このアクションは個人で痴漢を否定するのではなく、団体に連帯感を持って、共通した黄色を通して訴えることで、痴漢をはたらく者へ、皆見張っていると表すことができる。</p>		
工夫したこと/達成したこと	<p>連帯感を生むため黄色いものを身につけた。また、標語をなるべく短く、わかりやすく表現した。寒い中、自分の思いを世間に表現できたと思う。新聞記事などを通して、大人ばかりの中、高校生は1人で記事にも私の思いが記載されていた。</p>		
困難だったこと/次回に向けて	<p>標語をどう表せば、痴漢をはたらく者へ伝わるかということに悩んだ。</p>		
学びメッセージ	<p>団体の強み。個人で騒ぎ立てても、それを世間に訴えることはなかなか難しい。私はこのようなアクションに参加することで、より力強く社会問題に取り組めると感じた。</p>		


<p>報告者</p>	<p>市原中央高等学校 インターアクト部 実施メンバー：計20人 平間みゆう、プロミニツ林慶南、高澤悠奈、高山蒼生、大塚麻衣子</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども服を全校から回収、難民キャンプへ寄付 ・子ども服回収時に出た紙袋はスケッチブックに加工 ・使わなくなったクレヨンを回収、マーブルクレヨンに加工、スケッチブックと共に孤児院に寄付 ・ハーブを校内栽培、文化祭で販売、売上は熊本地震復興へ募金 ・ポリオワクチン調達のためのペットボトルキャップ回収 <p>期間：2018年4月～現在</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>7,359円（ミャンマー募金） 1708枚（服） 100本（クレヨン） 約210枚（スケッチブック） 約70,000個（ペットボトルキャップ）</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紛争地域には必要な服が手に入らない子どもがたくさんいる。 ・短くなったクレヨンマーブルクレヨンに、紙袋をスケッチブックに作り替えることで、ごみの削減にもつながり、孤児院で暮らす子どもたちに笑顔を届けられる。 ・教育を受けられないことは生活の質の悪化に通じる。 ・募金をすることで、被災地の復興に繋がる。 ・ポリオワクチンで救える命が増え、プラスチックごみ削減、資源有効活用にもなる。 	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・服の回収時、服を入れるための紙袋が大量に余り、使い道に困ったが、紙袋の紐を通し紐にしてスケッチブックに作り替えるというアイデアでごみを極力減らした。 ・ハーブ班、キャンプ班とグループを分け、効率よく活動している。多くの募金やクレヨンが集まるなど、全校生徒を巻き込めたことに達成感を感じた。 ・学校通信のメールを使い、先生や保護者にもキャップ回収活動を知らせた。 	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クレヨンを作る際、明るい色に偏りがちになってしまい、暗い色が余ってしまった。 ・活動を続けていく中で、意見の違いなどで仲間とぶつかり合うこともあったが、思い切って自分の意見をはっきりと伝えることで思いが通じ合い丸く収まった。これからはより活発にコミュニケーションを取り合い、互いに行なっている活動を理解しあうようにしたい。 	
<p>学びメッセージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアと聞くと大きなものをイメージしがちだが、本当にちょっとしたことが支援になるのだと思いました。また、私が支援をすることで支援先でどのようなことが起きるのか、ただ募金をしてお金を送ることだけが支援ではないのだと学びました。 ・地道な作業の繰り返しによって多くの子どもたちの命が救われていることを知るととてもうれしいです。作業が終わったあとはとても達成感があります。また、活動を通じ、友達との友情が深まるだけでなく、世界の現状や問題を解決することについて友達と想いや考えを共有しあえると思う。 	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

- 関連SDGs
- 1 貧困をなくそう
 - 2 飢餓をゼロに
 - 3 持続可能な開発目標を
 - 4 質の高い教育をみんなに
 - 5 ジェンダー平等を実現しよう
 - 6 安全な水とトイレを世界中に
 - 7 再生可能エネルギーを拡大しよう
 - 8 働きがいも経済成長も
 - 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
 - 10 人や国の不平等をなくそう
 - 11 住み続けられるまちづくりを
 - 12 つくる責任つかう責任
 - 13 気候変動に具体的な対策を
 - 14 海の豊かさを守ろう
 - 15 陸の豊かさを守ろう
 - 16 平和と公正をすべての人に
 - 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	高橋沙也加、高橋景子、賤機楓花、福岡早紀、寺澤実紗、水野佑美、伊藤心優		実施メンバー：計10人
社会問題 & アクション	カリフォルニア州立大学サンディエゴ校にて、13カ国の留学生へ、日本に関するプレゼンテーションを実施。 自国にもたれがちな偏見、固定概念を聞いたり、調べたりして、日本全般の紹介と共に、なぜそのようなイメージがあるのか、地理的な面や文化的面、歴史的面などから辿り、説明した。また、それらはあくまで固定概念であってその国の全ての人に当てはまらないことも伝えた。		
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス		
数値成果	約80人にプレゼン		
なぜこの問題 & アクションなのか	グローバル化が進む中で様々な人と関わる機会が増えた今、相手を知ることから人とのつながりが始まる。海外の人と接する時はその国に対する偏見やステレオタイプをもちがちである。気をつけていても無意識に行動に表れてしまったり、相手を判断してしまうことも多々ある。また、その固定概念によって相手を見ては、本当のその人自身を知ることができません。その人のバックグラウンドを知り、その上で相手と関わることでより良い関係を築くことができるのではないかと考えました。		
工夫したこと / 達成したこと	なし		
困難だったこと / 次回に向けて	自分たちでは気づかない自国に持たれている[br]偏見や固定概念、イメージを見つけることに苦労したが人に聞くことで客観的な意見を取り入れられた。		
学びメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に対するイメージを改めて知ることができたこと ・自国の文化や伝統、歴史を学び直せたこと ・固定観念に当てはめて人をみないこと ・意識だけの変化であっても人と人のつながりに大きな影響を与えること 		

<p>報告者</p>	<p>桃山学院中学校高等学校 School By School 実施メンバー：計9人 吉本悠菜、深野莉菜、西美咲、田畑桃香、藤丸孝太郎、高木心平、戸田龍斗、神原由弥、首藤崇志（教員）</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>募金活動をおこなって資金を集め、WEと協力してフィリピンやインドに学校の校舎を建設した。</p> <p>期間：2001年4月1日～2020年2月29日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>480万円</p>	
<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>2001年にクレイグ氏の講演を聞いて、世界の成人のおよそ6人に1人が読み書きできないという現状を知った。途上国における教育の機会均等を実現するために学校を建設する活動を起こした。</p>	
<p>工夫したこと / 達成したこと</p>	<p>校内だけでなく、街頭募金などを2ヶ月に1回のペースでおこなってきた。また、お金だけでなく、全校生徒から本や鉛筆を集めて途上国に届けるなど、様々な取り組みをおこなった。</p>	
<p>困難だったこと / 次回に向けて</p>	<p>学校や校舎を建設したらそれで終わりではなく、その後も現地の学校が持続して運営されていくためには、地域全体の住民の協力や経済力向上が必要だと感じた。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>日本に住む自分たちがいかに恵まれているかを知ることができた。毎日、感謝の気持ちを持ちながら大切に生きていこうと思った。まだまだ地球に住む人類には、解決すべき問題があることを知ることができた。</p>	


関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な開発目標を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させる
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>ノートルダム女学院高等学校 高校生動物愛護グループ・ペッティーズ 遠藤古都</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計3人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>学校の授業の一環で、様々な問題に目を向け、自分たちで実際に解決するために行動するという活動をしています。私達はその中でも、動物愛護に目を向けて取り組んでいます。私達の地元である京都四条河原町の街頭で募金を募りました。集まった寄付金は広島にある犬猫みなしご救援隊の方に、動物のワクチン代として募金しました。</p> <p>期間：2019年5月16日～2020年1月20日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>17,393円</p>	
<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>犬や猫は人間と同じように感情を持っていますし、痛みも感じます。動物にも生きる権利、幸せになる権利があります。人間にはその権利を奪う権利はありません。私が今回行ったアクションは虐待を受けた動物、様々な事情で飼い主が飼えなくなってしまった動物を保護し世話をしている民間の団体の方に街頭募金で集めた募金を寄付し、その団体にいる犬猫たちのワクチン代となります。この活動で犬猫たちの次の飼い主さんに出会うまでの間の健康状態を良く保つことができます。</p>	
<p>工夫したこと / 達成したこと</p>	<p>私が所属するチームは知名度が低く私達だけで募金活動をするのが怪しまれてしまう恐れがあると思い、テレビでも紹介されている有名な団体の方々に協力をお願いし、一人でも多くの方が安心して募金できるようにしました。また、ただ立っているだけではなく、自ら声をかけに行ったり、声を出して募金を呼びかけました。また、問題となっていることや、寄付先の団体の紹介が掲載されたパンフレットも配ったことで、現状を知らない人に問題を知らせることができました。</p>	
<p>困難だったこと / 次回に向けて</p>	<p>皆募金活動の経験がなかったので、声を出したり声掛けをしたりするのが恥ずかしいと感じていました。しかし、時間が経つにつれ、みんなで声を出すことで恥ずかしい気持ちも消え、積極的に活動ができるようになりました。また今回は3人という少数で活動をしたので、次回からは四人以上での街頭募金を行い、さらに多くの寄付金が集まるようにしたいです。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>今回の街頭募金を行うための情報収集として、動物愛護センターに訪問したり、電話で団体の方にお話を聞いたりしたことで、自身の地元である京都の殺処分やペットの譲渡の仕組みや現状を知ることができ、まず私自身の知識が豊富になったと思います。団体の方々は常に私達のサポートを求めていることが学びました。</p>	

<p>報告者</p>	<p>長岡楓月、金子晴香、井上夏希</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計3人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>紛争や人権侵害を理由に日本に逃れてきた難民が、社会で受け入れられていないことや、難民の方々が、人として当たり前の生活を送ることができていない問題を知りました。そこで、要らなくなった本やCDを友達や親戚から集め、難民支援協会へ寄付しました。</p> <p>期間：2019年11月21日～2020年1月30日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>CD20枚、本45冊</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>社会に受け入れてもらえないがために、苦しんでいる難民の方々を救うきっかけになる。人は皆、幸せになる権利が平等にあると思うから、これは問題であると思う。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>身近で誰でも始められそうなことにしよう！と言うことでこの活動を選びました。沢山の友達や親戚に声をかけて、沢山のCDを集めることができました。声をかける際、「こういった活動で難民を救うことができるんだよ」と説明することで、「すごい！」「知らなかった！」と言ってもらえて、活動の宣伝をする事にもつながったのかなと思います。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>次回するときも、幅広く声をかけて活動を更に広めていきたいです。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>今までは、学校などで難民についての問題を調べたり学んだりするだけでした。しかし、アクションを通して、私達にも出来る事が沢山あると言うことを知りました。これからも、色々な小さいことでも色々なアクションを起こしてみたい、難民の方々の力になりたいと思いました。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

実施メンバー：個人

報告者

山内翔太

社会問題
&
アクションStartup Weekend（学生向け起業
フォーラム）への参加

期間：2019年4月8日～2019年9月18日

アクション
の種類資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

約3,300人

なぜこの
問題&
アクション
なのか

鳥取県では若者が進学等をきっかけで都市部への流出が激しく、人口減少が問題となっている。経済活動の中心となる若者を少しでも流出させない為に若者が好むコンテンツを用いる事で人口流出を抑える事が可能である。

工夫した
こと
/達成した
こと

自分だけの感覚で判断しない為に、フィールドワークに加え、アンケート調査を徹底することを工夫した。調査等のデータを""見える化""する事でお客様のニーズに合わせたものを提供することができた。

困難
だったこと
/次回に
向けて

お金関係の段取りに知識が無く、壁となった。その為、自分でどうにかするのではなく、銀行員として働いている方に相談することで乗り越えることができた。次回からはよりスムーズに活動を行う為に、少しでも知識を身につけるべきだと感じた。

学び
メッセージ

相手側の立場からも想像をするという事を学んだ。自分が行ってきた活動は非常に多くの人々に影響を与えることなので、自分がやりたいことだけではなく、相手側だったらどういうことをして欲しいのか、何を求めているのかを想像するという事を改めて学ぶきっかけになった。

<p>報告者</p>	<p>鳥取ブルーバース 実施メンバー：複数 小林美優、山内翔太、山本萌々華</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>鳥取初の3人制プロバスケットボールチームの広報担当として、Twitter運用から、イベントの司会、動画制作をしました。8月に鳥取駅風紋広場で行われた公式戦では、物販、広告制作、TwitterでのLIVE配信を中心にしました。</p> <p>期間：2019年4月20日～2019年8月20日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>200万円(クラウドファンディング) 300人(公式戦来場者)</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>人口減少は活力の減少と重なると感じます。活力が減少すると、鳥取特有の良さ、伝統等が受け継がれなくなることもあります。私が住んでいる地域も、かなり高齢の方しか、その伝統の作り方を知らないという現状があります。鳥取の良さや、伝統の凄さ、大切さをSNS等を通して知ってもらい、興味を持ってもらうことで、人口増加、活力ある鳥取に繋がると感じます。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>広報担当としてTwitterを使う中で、どのような投稿をしたら周りが注目してくれるか工夫しました。また、見やすいレイアウトなどについても工夫しました。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>学生という枠組みの中で、社会のルール、大人の考え方や理解を深めることにとても苦労しました。対策として、分からないことは聞く、調べる、周りと考えるという3つを徹底しました。また、活動を通す中で礼儀から、チーム内の立ち回りまで、様々な学びを得られることができました。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>鳥取に住んでいる方だけでなく、県外の方も応援してくださっていることに驚きました。鳥取は自発的なことがあまりできないので、自分から進んで行動し、県外の方々の動きや、発言なども学んでいくことが大切だなと感じました。</p>	


関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な開発のための人への健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs



報告者	谷村歩夢、中田航平		実施メンバー：計2人
社会問題 & アクション	鳥取砂丘での海洋漂着ごみ拾い		
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス		
数値成果	ゴミ袋2枚		
なぜこの問題&アクションなのか	海洋プラスチックが増える事で海の生き物にとって害を与えている。自分達が率先してゴミ拾いを行う事でゴミを少しでも減らす事ができるし、それを見た人がゴミを捨てるのは良くないと思ってくれる。		
工夫したこと/達成したこと	観光客の多い観光地でゴミ拾いをして、少しでも多くの人にゴミ捨てる事は良くないと考えてもらうことが出来た。		
困難だったこと/次回に向けて	今回は人数も袋の数も少なかったので、多くの人に協力してもらい、残ったゴミを掃除したい。		
学び メッセージ	過去に何度か砂丘に行く機会があり、海に落ちているゴミを見かけることがあったが、今回行っていると前回見た時よりもはるかに多くの量のゴミが漂流しており、誰かが掃除をしないとゴミの山になってしまいそうだと危機感を覚えた。一人一人が責任を持ってゴミの処理をして欲しいと思った。		

<p>報告者</p>	<p>山西咲和</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：個人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トビタテ留学JAPAN高校生コース5期生として、東アフリカのタンザニアで教育ボランティア ・高校生平和大使として国連欧州本部派遣に参加。メンバーを代表して50名ほどの外交官や国連職員の前で祖母の被爆体験をもとにした、平和を求めるスピーチを行う。 ・他、国内外の学生や児童に平和教育を行ったり、講演会等に複数回登壇 ・LGBTQ+への理解を求める「ながさき愛の映画祭」のイベント会場スタッフ ・西日本豪雨災害、北海道地震等の災害発生時に被災地復興支援募金活動を行う <p>期間：2018年1月1日～2019年12月1日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>募金は約5万円ずつ・軍縮会議日本政府代表部（スイス、ジュネーブ）にて50人の前でスピーチ。タンザニアで45名の子どもがいる施設で教育ボランティア。</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被爆者の高齢化、被爆経験の風化が進んでいる。戦争の恐ろしさ、核兵器の非人道性を知り、多くの人の同意を得ることで核兵器廃絶に近づく。 ・タンザニアは経済成長がここ数年で進み、貧困は改善されつつあるが教育格差が残る。 ・性的マイノリティとして生まれ持ったアイデンティティを否定されることがあってはならない。 	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>多くの人に被爆の実相を伝えることができた。 SNSを通して若者に向けて活動を報告。関心を持ってもらえた。 タンザニアでは子どもたちが飽きずに楽しめる授業を考えて行った。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>タンザニアのボランティアでは、先生方と良い関係を築けていたので良かった一方、その関係を壊したくないと考えて、教育に関する話を深入りできなかった。来夏、楽しい話を挟んでリラックスした状況などで、そうした時間を作りたい。 核兵器廃絶に関しては、やはり複雑で難しい問題ではあるが、微力でも、無力でないと思じて呼びかけ続けたい。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>誰かと協力して物事に取り組むことの大切さを学んだ。社会問題を扱うだけに、自分1人の力だけで解決することは難しいので、多くの人に呼びかけ、仲間を集め、共に活動することで、多くの人に注目してもらえる。また、自他共に成長できる。そして、継続することはとても難しいが、続けていくうちに多くの人に認識されるようになるはずだ。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者 宇都宮短期大学附属高等学校 インターアクトクラブ 実施メンバー：計10人 和泉瑠菜、遠藤冬羽、鈴木愛香 在住：栃木県			
社会問題 & アクション ポリオ撲滅チャリティーコンサートの開催と募金活動。 ポリオに治療法はないが、ワクチンで予防ができるので世界中の児童の予防接種実施に貢献。 期間：2018年～	アクションの種類 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス		
	数値成果 300人		
なぜこの問題 & アクションなのか アフガニスタン、パキスタンでは、政治・社会的な理由から、子どもたちへの予防接種が困難、資金不足でポリオ根絶への動きの足踏み状態が続いている。	工夫したこと/達成したこと SNSやポスター、学校での参加呼びかけや、当日の様子を年次大会等の成果報告会で発表を行った。	困難だったこと/次回に向けて なし	学び・メッセージ なし

報告者 種村咲乃、飯塚梨緒南 実施メンバー：計2人 在住：埼玉県			
社会問題 & アクション ハンガー・フリー・ワールドで伝えるボランティア活動をしている。 G20高校生サミットで、ジェンダー格差問題の議題を他の高校生と議論した。 期間 2019年5月1日～2020年1月20日	アクションの種類 資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス		
	数値成果 50人		
なぜこの問題 & アクションなのか 飢餓は全ての社会問題に繋がる問題だから。ジェンダー格差は、今の日本で非常に大きな問題と言え、これからは女性の活躍なしに、より良い世界は生まれえないから。	工夫したこと/達成したこと 多くの人に影響を与え、同じ意識を持つ若い仲間ができた。	困難だったこと/次回に向けて 学生グループの運営。次は、それぞれのモチベーション確認や日程調整をきちんとして、情熱を持って運営する。	学び・メッセージ 人の輪の大切さ 情熱の大切さ 強い意志を持つ大切さ

報告者	マイケル瑛美			実施メンバー：計4人 在住：埼玉県
社会問題 & アクション	子どもたちの口腔衛生の改善のため、ビディビディ難民居住地で子どもたちに向けた口腔衛生授業を実施	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間 2019年6月16日から2020年2月15	数値成果	300人	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
2次の衛生になる口腔衛生の改善は、1次の支援が優先される難民居住地において後回しにされてしまうが、口腔衛生を清潔に保たなければ、全身の病気につながるから。アクションは、現地の子どもたちの健康状態を改善することにつながり、次世代の口腔衛生に対する意識を変化させる効果につながると考える。	子どもたちにわかりやすいように、かといって簡単すぎないように、専門の歯科医師に監修してもらいながら授業内容を考えたこと。また、授業の実施するにあたって、たくさんの人に活動を知ってもらおう努力をし、ビディビディ難民居住地の現状について知ってもらったこと。	現地の子どもたちと直接コミュニケーションが取れなかったこと。ジェスチャーでコミュニケーションをとって、時間をかけて心を開いてもらった。	私たちの”無関心”が現地の子どもの生活に直結しているということ。	

報告者	大谷来未			実施メンバー：計5人 在住：東京都
社会問題 & アクション	小学生に水の大切さ、手洗いの大切さを伝える講座のお手伝いをして、小学生の子どもたちと一緒にポスターを作った。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間：2019年8月2日～8月4日	数値成果	42人	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
手洗いは当たり前なことだけれど、子ども達が少し面倒と感じていることだから、その大切さや、世界の現状を知って欲しかったから。小学生にも現代社会における問題を伝え、関心を持ってもらう事。また、自分自身が社会問題を学ぶだけでは無く、伝えることも自分自身における大きな一歩である。	これからも関心を持ってもらえるように、学ぶことの楽しさを感じてもらいながら教えた。難しい問題でも、小学生でも分かるような言葉遣いをしながら教えた。	小学生でも色々な個性の子がいるから、色々な友達をまとめることが難しかった。多様な個性をもっと発揮できるようにまとめ方をしたいなと思った。	私が1番印象的だったのは、社会問題を知らなかったことを悔やんで泣いてしまった子がいたこと。小学校でも、世界の現状を学べるような時間があればいいと思った。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 持続可能なエネルギーを
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	森廣優空、森廣優果			実施メンバー：計2人 在住：東京都
社会問題 & アクション	手のひらプロジェクト ("What makes you happy?"と初めて会う人や色々な境遇の人に問いかけ、手にペンで答えを書いてもらう活動)	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	25人	
期間	2012年6月23日～2019年11月25日			
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ	
世界のどこでも、この "What makes you happy?" という問いは通じ、人によって答えが異なったり、共通したりするものがある面白く、自然と国境を超えて打ち解けることができる。この問いについて話し合う中で、自然と偏見も崩れていき、共通していることを見つけると、同じ人間なのだと実感できる。	なし	手に書いてもらう時のペンがウェットティッシュで落ちにくかったので、落ちやすく、かつ色がはっきりしているペンを探す	コミュニケーションを取ることは大切である	

報告者	永野英睦子			実施メンバー：個人 在住：東京都
社会問題 & アクション	障害者施設でのボランティア活動	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	なし	
期間	2019年11月9日			
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ	
障害者施設でボランティアをすることで、まず自分が障害者と触れ、障害者施設の問題点などを知る	施設で実際に働く人のお話を聞いたこと	喋ることができず、相手の意思を汲み取ることが大変だった	障害者施設で働く人の有資格者の少なさや障害者への偏見がまだまだあるという課題を感じた。	

報告者	山田梨音			実施メンバー：個人 在住：東京都
社会問題 & アクション	清潔な水の確保のために、 プロジェクト寄付を行った。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間：2020年1月13日	数値成果	500円	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
生活に欠かせない水が清潔ではない。このアクションにより、清潔な水が飲めたり、生活に使えたりできる。	なし	なし	様々な社会問題があることを知り、私にもできることがたくさんあることを知った。	

報告者	中村伊希			実施メンバー：個人 在住：東京都
社会問題 & アクション	<ul style="list-style-type: none"> 世界一大きな授業の実施 学校のグローバルウィークでの啓発活動 日本財団のソーシャルイノベーションフォーラムでのパネリスト 児童労働に関する論文執筆 	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間：2019年	数値成果	200人にスピーチ	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
少しでもいいから変える意識を持ってもらう。 (自分が買っている服が、実は児童労働で子どもが収穫したコットンからできていないのではなか等)	<ul style="list-style-type: none"> 聴衆の興味関心を引くこと インパクトを残すこと 「もっと知りたい」と言ってくれた子がいたこと 	集客	伝えることに意味がある	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>黒部睦</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：個人 在住：東京都</p>		
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>気候変動について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒や地域のローカルクラブ所属の経営者の方々へプレゼンとワークを実施 ・校内でSDGsチームを設立 ・Friday For Futureに賛同、ロッカーにメッセージボードを貼る活動を拡散 など <p>期間 2019年8月28日～2020年2月29日</p>	<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア</p> <p>自己行動変革・啓発活動・アドボカシー</p> <p>ソーシャルビジネス</p>
<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>気候変動がそのまま進めば、災害や気温上昇、動植物の絶滅など数え切れないほど甚大な規模の被害が出てしまう。そして、貧困や飢餓、戦争にも繋がりがねない。このアクションは、多くの人に気候変動を自分事と思ってもらい、一人一人が行動を変えていくことに繋がる。</p>		
<p>工夫したこと / 達成したこと</p>	<p>気候変動を自分事と思ってもらえるよう、普段の生活と結びつけたワークを取り入れ、具体例も多めに話した。また、思うだけでなく行動に移してもらえるよう、みんなにできるアクションの例を紹介し、それと同時にアクションを起こせる場を用意した。</p>		
<p>困難だったこと / 次回に向けて</p>	<p>長い時は50分もプレゼンをさせてもらう機会をもらえたので、インパクトがあって飽きずに楽しんでもらいながら地球の危機も伝える方法を考えるのは大変だったが、ワークをいくつか取り入れたり質問を投げかけたりと工夫して乗り越えた。次にプレゼンをする際は、話す人間く人の関係ではなく、私もオーディエンスも話す人になって、考えをより深められるようにしたい。</p>		
<p>学びメッセージ</p>	<p>行動に移していないだけで、気候変動やSDGsに興味を持っている人はたくさんいること。興味や関心を持っている人を、どのようにして行動を起こせるようにするかが肝心。</p>		

報告者	今岡華、本間友麻			実施メンバー：複数 在住：東京都
社会問題 & アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア森林火災募金 ・市ヶ谷外濠清掃活動 ・渋谷グリーンボード清掃活動 	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間 2019年8月～2020年2月15日	数値成果	7,000円	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
自分たちが住む地球が どんどん壊れていく原因は 自分たちであり、最終的に 困るのも自分たちだから。 ゴミ拾いは小さいことかも しれないけれど、参加した人 から、プラスチックに対する 考えの変化や地球温暖化に ついて考えるきっかけになる。 環境も綺麗になる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で同じ考えを持つ 友達や先生などと話し、 イベントやボランティア に参加している。 ・なるべく多くの人から 寄付をいただけるよう、 学校で声かけをした 	今回は募金したりゴミを 拾ったりするだけではなく、 それを他の人も巻き込んで 一緒にやる(なるべく大人数 で)。 ポイ捨てを目の前でされたり、 タバコを捨てる人を見たり すると少し残念で心が少し 痛かった。	<ul style="list-style-type: none"> ・人の身勝手な行動が世界の 様々な問題に影響している、 タバコやタバコのゴミが 多いと感じた。タバコの 路上喫煙は全面的に禁止 して欲しいと思う。 ・自分たち次第でその状況を 良くも悪くもできるから、 環境のことについて考える 人をもっと増やしていく ことが大事だと学んだ。 	

報告者	杉田彩華			実施メンバー：個人 在住：東京都
社会問題 & アクション	ストリートチルドレンについて 調べ、現状や自分の意見を含めた スピーチを行った。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間 2020年1月17～2020年2月5日	数値成果	20人に向けてスピーチを行った	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
ストリートチルドレン がいる原因として、 貧困が大きく関わって いるから。今回は個人 アクションだったが、 これを期に興味を 持ってくれた仲間と さらに活動できる。	パワーポイントで画像 なども使い、見やすく 工夫した。	なし	思っていた以上に みんなから反応があり、 自分のスピーチでも人 を動かすことが出来る と知った。	

関連SDGs

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 持続可能なエネルギーを

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさを守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 持続可能なエネルギー
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	加藤美和			実施メンバー：個人
				在住：東京都
社会問題 & アクション	毎週土曜日、日本に住む難民の子どもたちに日本語を教える活動へ参加しています。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	15人くらい	
期間：2018年10月～	なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと/次回に向けて	学び・メッセージ
	日本の難民受け入れ数は非常に低く、日本に来た難民の方々は社会から非難されたり、安心できるコミュニティに入れなかったりして、孤立してしまうことが多いです。この活動を通して、彼らに日本にも居場所はあることを伝え、少しでも安心して生活できる環境を作ることができると思っています。	難民の方々の中でも、日本語の能力は人それぞれです。そのため、その子の日本語能力を、会話などを通じて見極め、それに合った話し方や教え方をするように心掛けています。	今後も、彼らと真剣に向き合い、より柔軟に対応できるようにしたいと思っています。	彼らは前向きで、日本語学習意欲も高いため、彼らのペースに合わせて一つ一つ丁寧に教えると、とても早く日本語を習得してくれることが分かった。

報告者	古谷理彩			実施メンバー：個人
				在住：東京都
社会問題 & アクション	フェアトレードビジネスの現状と課題点を、フェアトレード店への訪問や文献調査などで探り、同じように国際協力を志す高校生達とディスカッションを交わした。その過程を通して得た結論と今後の方策を、クラスでプレゼンした。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	1～3年生20名にプレゼンを行い、同級生10人ほどとこの問題についてディスカッションを実施	
期間	なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと/次回に向けて	学び・メッセージ
2019年3月10日～2019年9月30日	今のODAなどの支援は、国益を見返りに求める、一時的なものが多いように感じている。支援する側とされる側がWIN-WINの関係になれる形をビジネスで作れば、持続的な国際支援へ変わっていくのではないかと。	小規模なプレゼンだったからこそ、自分の成果、考えを相手と対話しつつ丁寧に伝えられたのが良かった。また、現場の意見を取り入れられたことも良かったと思う。	企業として収益をあげつつ社会貢献を行うという、バランスの取り方。真に持続的なものとして、BOPビジネスに活路を見出すことで、この点をクリアにした。	世界の中での地域間格差が問題となり、気候変動などグローバルな課題が増え続ける現代社会では、現実的にどうすれば素早く問題解決が行えるか考えなければならず、そのためには、経済や政治背景を無視せず、経済活動を見直していく必要があることに改めて気付かされた。

報告者	松井実波、仲西ひなた、鈴木梨花			実施メンバー：計3人 在住：東京都
社会問題 & アクション	学校の部活やクラスで書き損じはがきを集めるように呼びかけた。 (WE SHARE CARDS)	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間 2020年2月17日～2020年2月24日	数値成果	767円・55人に呼びかけ・13枚	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
困っている人への資金や、助ける人が足りていないこと。協力する人が増えれば解決できるから。書き損じはがきを集めることで感染症を防ぐワクチンを買うことができる。	クラスや部活のLINEで呼びかけるほかに、仲の良い人に個別にも声をかけた。	ただ集めていることを伝えるのではなく、一緒に社会問題についても詳しく説明していきたい。	期間を一週間設け、呼びかけも何回もしたものの、実際に持ってきてくれた人はとても少なかった。世界の社会問題に対して意識している人は自分が思っているよりも少ないと感じた。そのため、自分をもっと詳しく理解し、伝えていく必要があると思った。	

報告者	加藤優希子			実施メンバー：個人 在住：東京都
社会問題 & アクション	耳の聞こえない人と話せるようになりたかったので、手話で指文字を覚えた。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間 2020年2月1日～3月1日	数値成果	なし	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
耳の聞こえない人とは手話や筆談でしか話せないから。指文字ができるようになったら、災害などが起きた時、耳の聞こえない人へ情報伝達ができる。	本を買って、はやくできるように何度も練習した。	つぎは、単語を覚えていきたい。	ちょっと頑張るだけで誰かが救われることを知った。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 持続可能なエネルギーを
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	中島美海、内田さあや、中島美晴			実施メンバー：計30人 在住：東京都
社会問題 & アクション	ユニクロの子ども服ボランティアに参加し、難民の子どもたちに子ども服を寄付。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間 2019年9月28日～2020年1月5日	数値成果	約5,000枚	
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ	
難民の子どもたちは、移動する際十分な荷物を持つことができないため、服は自分が着ているもののみになってしまう。	ポスターを作成した。	服があまり集まらなかった際、学校にプリントを配布した。	1人の寄付が1人の笑顔につながる。	

報告者	高橋優大			実施メンバー：個人 在住：神奈川県
社会問題 & アクション	Free the Children Japanのボランティアデーに参加。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間：2019年12月25日	数値成果	3時間	
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ	
これにより少しでも団体が社会問題を解決する時間が増えればと思います。	ボランティアデーに行くという行動を起こしたこと。	何から行動すればいいかわからなかったが、そこで諦めなかったこと。	自分にもできることがあるということを知った。	

報告者	多田健人			実施メンバー：個人
				在住：神奈川県
社会問題 & アクション	学校内でフードロスや飢餓のワークショップを行った。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア	自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	15人	
期間：2019年10月21日				
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
フードロスは消費者の私たちの意識の低さが原因だ、このアクションを通して、フードロスを知ってもらうことや、次に大きなアクションをする時のメンバーを少し集めることが出来た。これより多くの人に知ってもらえる機会が増えると思う。	明るく話して、楽しく話し合いをしてもらう。皆終わった後に楽しかった、ワークショップを開いてくれてありがとうなどの言葉を頂けた。	人を集めるのが大変だったので、次回は広報活動に力を入れたいと思う。	色々な人の意見を聞くことで、とても勉強になった。	

報告者	井上芽映、中川優			実施メンバー：計5人
				在住：神奈川県
社会問題 & アクション	学校の近くにある、地域活動支援センターで精神障害のある方と一緒に交流をし、施設のお手伝いをさせていただきました。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア	自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	10人	
期間：2019年12月22日				
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
病気や自分のことを受け入れてくれる仲間が存在が浸透しておらず、未だ差別の対象として見られている点	精神障害を持つ方と関わることで、認識を変えることができたと思います。	打ち解けるのに時間がかかってしまったので、自分からもっと話しかけて、緊張させないようにしたいです。	偏見をなくすための架け橋になれることはないか、改めて考えさせられました。もっと地域で関わり合い、病気やジェンダーなどの差別をなくしたいと思いました。	

関連SDGs



関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	福地彩加			実施メンバー：個人
				在住：神奈川県
社会問題 & アクション	プラスチックゴミの削減に向けて SNSで発信した。動物性食品を控える生活をした。全国ユースSDGsフォーラムに参加した。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	SNSのフォロワー300人に伝えた。気候問題について30人と意見交換した。	
期間	2019年10月22日～2020年1月21日			
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
日本国内でプラスチックゴミのことにあまり重要視されていないから。動物性の食品を控えることで将来の食糧不足が解消される。	自分なりにできることを最大限にできた。プラスチックゴミを減らしていると思う。	ワークショップなどを開き、もっと周りに伝えたい。	日本では環境や食糧不足への意識が低いと思った。これからの将来を担う若者への意識改革が必要だと学んだ。	

報告者	ユキアカンド			実施メンバー：個人
				在住：神奈川県
社会問題 & アクション	世界にはたくさんの貧しい子どもがいます。私が留学していたバングラデッシュには、生まれた子どもを支えられないのでゴミ箱に捨てる親もいました。現地の多くの人たちはこの状況を当たり前のように見ていました。(Save the Children Bangladesh) 期間 2017年8月9日～2018年3月2日	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	50人	
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
自分に関係ないのでいいやという考え方をできるだけなくし、子どもたちのことをもっと考えてくれる人が増えることで、子どもの貧困問題が少なくなる社会に繋がると思います。	SNSでの伝え方	貧困について質問された時答えがしっかりしなかったこと、次はもっと貧困について自分も勉強したいです	最後まであきらめないこと、あきらめたら終わりということ	

報告者	芹澤愛瞳、五十嵐琴音、相澤桃			実施メンバー：計10人 在住：神奈川県
社会問題 & アクション	ミャンマーの子ども達と協力し、プラスチック袋削減に向けたビルマ語のポスター制作・配布、ヤンゴンの店頭・店内への掲示、SNSでの情報発信 期間：2018年11月17日～現在	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	全体で200枚配布	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
ミャンマーでゴミ問題を目の当たりにし、衝撃を受けた。	私たちが英語で現地の子へ、子どもたちからお店の方々にはビルマ語で情報伝達を行った。 SNSでの情報発信は、みんなが一目でテーマがわかり、もっと知りたいと思えるような、楽しい色合いを用いた。	<ul style="list-style-type: none"> 英語がきちんと伝わっているかわりにくかった。 お店の許可取りや、レジ袋を使っていそうな店の見極めにも時間がかかった。 現地滞在中の2泊3日の間で実施したので、結果を実際に確認できていない。 	個人の発信力はとても小さいが、みんなに「知ってもらおう」→「興味を持ってもらおう」→「実際に行動したいと思える様になる」というステップが踏めれば、大きな力になりうることに気が付いた。何かしたい！と思っても行動に移せなかった自分を変えることができた。	

報告者	牟田薫穂、紫安絵理			実施メンバー：計2人 在住：神奈川県
社会問題 & アクション	校内で行われた、英語でプレゼンする会で、自分が現代社会で1年間研究してきたテーマ（児童虐待）とSDGsを関係させたプレゼンを行った。 期間：2020年1月30日	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	約70人	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
今回の発表を通して、私たち若者にも虐待防止や早期発見など、できることがたくさんあることを伝えた。虐待を自分事としてとらえるようになっていく変化につながると考えている。	高校生だけではなく、中学生や、英語科以外の先生方もいらしたので、わかりやすい英語、わかりやすいスライドでプレゼンを行った。聴衆から好反応を得ることができた。	もっと大人数の前で行いたい。	虐待は一見他人事のようにも思われるが、深く考えれば自分事であるし、自分にも起こせるアクションがあるということ。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう



<p>報告者</p>	<p>麗澤高等学校 フェアトレードコーヒー&レモネードスタンド有志活動 高野愛莉、津田尚人、谷崎るり香、森望海、稲田咲耶、本田菜々、川崎梨乃、瀧村尚也(教員)、増井都(教員)</p> <p>実施メンバー：計38人 在住：千葉県</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>・小児がん研究の支援のためのレモネードスタンド実施 ・フェアトレード商品の販売</p> <p>期間：2018年9月～現在</p>	<p>アクションの種類</p> <p>資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス</p> <p>数値成果</p> <p>レモネードスタンド売上 320,355円 フェアトレード取引した豆の金額 150,677円</p>
<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>(レモネードスタンド) 症例数の少ない小児がんは現在、他のがんに比べて研究が進んでいません。そのため、研究への支援が必要です。私たちはレモネードを販売することで集めたお金を寄付し、小児がん研究の支援を行っています。</p> <p>(フェアトレードコーヒー) 現在市販されているフェアトレードでないコーヒーのほとんどは、支払われた代金を中間業者に搾取されています。そのため発展途上国の生産者の方に正当な給与が払われていません。その状態を改善するための方法の一つとして、フェアトレードコーヒーを適正価格で購入し、販売しています。</p>	
<p>工夫したこと / 達成したこと</p>	<p>(レモネードスタンド) より多くの人に興味を持ってもらえるよう、活動についてのパンフレットを作成、配布しました。その結果、2018年9月から11回開催し、合計で約30万円を集め、寄付することができました。</p> <p>(フェアトレードコーヒー) 少しでも楽しんでいただくために、お客様の目の前でハンドドリップで淹れています。2018年11月から10回開催し、出た利益はフェアトレードとレモネード両方の活動資金に充て、順調に活動を進めています。</p>	
<p>困難だったこと / 次回に向けて</p>	<p>生徒主体で運営しているので、勉強や部活が忙しい中で活動していくことがとても難しかったです。また、お金の管理やシフトの作成など初めてのことがばかりだったので、試行錯誤の毎日でした。それでもみんなで助け合い、先生方からもたくさんの助言を頂いて活動することが出来ました。今後は、リーダーだけでなく一人ひとりがより責任を持って活動していけるよう改善したいです。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>これらの活動を通して、中高生でも社会を少しずつ良くできるのだと感じました。私達はお金も権力も大して持っていません。しかし、皆で力を合わせメンバーの募集やパンフレットの作成などたくさんの困難を乗り越え、多くのお金を集められたことは私達の大きな自信に繋がりました。小児がん支援のレモネードスタンドを始めたアメリカの小児がんの女の子、アレックスも「もし人生が酸っぱいレモンをくれるなら、それで甘いレモネードを作ればいいのよ」という言葉をのこしています。この言葉の通り、私達は甘いレモネードを作り出す力を持っているのだと言うことを活動を通して学ぶことが出来ました。これからも、協力することで社会を少しずつ良くしていきたいと思っています。</p>	

報告者	櫻井凜子、佐藤折鶴			実施メンバー：計2人 在住：千葉県
社会問題 & アクション	チラシによるSDGsの広報活動	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間：2020年2月20日～2月29日	数値成果	100人にチラシを配り、掲示	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
現状、SDGsを知らない人が多くいることも事実です。知らなければ行動することは不可能です。そこで、私達現役女子高生だからこそその視点から興味を持ってもらえるようなチラシを作り、行動のきっかけを作れるようにしました。	年頃の私達は幼い頃のように綺麗事では行動ができない人が多くいます。真っ直ぐに社会を見つめることも難しいです。それを踏まえ、同年代だからこそその視点でチラシをつくりました。	同世代の子たちが、綺麗事では動かないと分かっている、そこからどうするべきか見出すことがとても難しかったです。アイドルなど、みんなが好きなどからアプローチしました。	人に興味を持たせる事の難しさを改めて痛感しました。どうしたら手に取ってもらえるか、どうしたら最後まで読んでもらえるのか。もっともっと成長させられると感じました！	

報告者	増淵颯音、沖村健太、池田華恵			実施メンバー：計3人 在住：千葉県
社会問題 & アクション	Sustainable Game主催のSDGs関連イベントに参加。その活動を学校やSNSで拡散。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間：2020年1月1日～年2月14日	数値成果	12人	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
環境問題の解決には個々の意識が重要で、それを高めるには、まず知ることが必要。そのために活動を広めたいと思い行った。	自分達がいかに楽しみながら活動を行っているか伝える事で親近感や好奇心を持たせるようにした。	「意識高い系」で一括りされるため、もっと違いを出したい。WE Dayはその為に最適だと思った。	人1人の力は予想以上	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 持続可能なエネルギーを
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	小川航、塩瀬雅、田原綾乃、岡本あすか			実施メンバー：計4人 在住：千葉県
社会問題 & アクション	まだまだSDGsへの知識が不足していると日々実感しており、まずは知識を増やそうと考え、講演会に参加しました。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	なし	
期間：2020年2月1日				
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ	
今の若者は世界に目を向けられていないと感じている(特に日本)。そんな中、世界はグローバル化している。そこで、若者に世界に目を向けるよう呼びかけた。	「自ら」を大事にした。自分でチャンスをつかんで、自分で行動し、自分で報告する。	やはり1人だということは大変なことが多い、一方で自立、成長といった大きな利点もある。今後はもっと活発に動けるような人材になる。	動いてなんぼ。	

報告者	西島和来			実施メンバー：個人 在住：千葉県
社会問題 & アクション	課題発見dayplusに参加し、その内容や感想(人や国の不平等と、難民支援が足りないこと)をFacebookにシェアした。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	20人	
期間：2020年2月11日				
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ	
母国から、危険を逃れて避難してきたのに、避難先の国で不自由が多く、格差が生じることが問題である。イベントに参加していない人やこの問題を知らなかった人へ発信することで、問題意識をもってもらう。	2つのSDGsの問題を関連づけ、両立できる案を考えられた。オンラインで支援でき、どこでも1人にならないようなサービスを考案した。イベント終了後、その日のうちに文章を考えて、素早くアウトプットに繋がられた。	なし	SDGsは、どれか1つではなく、すべて達成させてこそのものであるということ。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	鈴木真菜			実施メンバー：計5人 在住：千葉県
社会問題 & アクション	幼老複合施設に行って、施設の方のお話を聞いた。そして、学校の文化祭で、幼老複合施設についてプレゼンを行った。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間 2019年5月中旬～2020年3月11日	数値成果	50人	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと/次回に向けて	学び・メッセージ	
高齢者がより気持ちよく毎日を過ごせるようになる。大人がより安心して子どもを育てられるようになる。	問題を知らない人にも分かってもらえるようにした。	一度発表した際にあがった指摘を素直に受けとめ、施設を実際に訪問してもう一度考え直すことで、よりよく伝わるプレゼンを目指した。	自分はまだまだ何も知らないということを学んだ。だからこそ、謙虚な姿勢でさまざまな活動に挑戦し続けたい。	

報告者	牧野奈那子			実施メンバー：計11人 在住：愛知県
社会問題 & アクション	気候危機、気候正義を訴えるために、Fridays for Future名古屋のメンバーとして、マーチを準備・実行しました。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間 2019年11月5日～2019年11月29日	数値成果	なし	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと/次回に向けて	学び・メッセージ	
気候危機は急激に加速はしないかもしれませんが、残念ながら行動を起こす人が少ないです。そこで、私たちFFFがマーチを行い、気候危機を訴えることで、より強く意識させ、行動まで変化が現れるように努めています。	SNSや広告を使って拡散しました。	認知度があまり上がらず、参加者が少なかった。イベントやミーティングを増やし、参加者を増やしていきたい。	実際にアクションに起こすことの大切さ	

関連SDGs



報告者 西山愛莉		実施メンバー：計4人 在住：滋賀県（カナダ留学中）	
社会問題 & アクション	留学先のクラブ活動の一環として ・付箋に自分の好きな所を一つ書き出して模造紙に貼る ・日本の禅の部屋を作り、現地生徒に自分を見つめ直す機会を設ける ・自分を大切にすることの大切さに関するゲスト講演会実施 ・プレスレットを学校と、学外のカフェなどで販売する募金運動をしました。 期間：2019年11月4日～11月8日	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	300C\$(カナダドル) (期間中のレート：約82円/C\$) 500人
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ
私たちは自死の原因を、心が健康でないためと考えました。「あなた一人ではない」ということと、自分の大切さを学生達に改めて気づいてもらうことができました。	1日限りにすると、すぐ忘れられてしまう可能性があるので1週間、毎日違う活動を行うことで重大さに気付いてもらえる様に心掛けました。	ゲスト講演依頼に苦勞しました。粘り強く、活動の意義・目的を伝え、ゲストの方にもご理解いただき、ご講演いただくことができました。	活動の意義・目的をしっかりとグループ全員で共有し、それを外に発信して活動することの大切さです。四人で始まった活動は、校外までも巻き込むことができ、speak upの大切さを学びました。

報告者 井上和奏		実施メンバー：個人 在住：三重県	
社会問題 & アクション	コンビニなどで買い物をした時のお釣りの一部を募金する。 期間：2019年5月31日～2020年2月13日	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	約2,000円
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ
私たちが住む地球で起きている事なのに、テレビで豪州森林火災があまり取り上げられなかった。小さなアクションだが、環境問題に興味を持ち、未来を考えるきっかけになった。	ただ募金箱が置いてあるからお金を入れるのではなく、その募金は何に使われるのか、なぜ必要なのかを考え、募金した。	募金をするだけで、自分は何も行動を起こせていないので、実際に行動に移したい。	今起きている環境問題を知ることが、環境問題を解決する第一歩だと思った。

<p>報告者</p>	<p>大阪府立成城高等学校 定時制課程 森屋 翔太郎 (教員)</p>		<p>実施メンバー：計21人 在住：大阪府</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>1年を通して、SDGsの17の目標を全て勉強し、それぞれのゴールで、どういった考えや行動ができるか生徒それぞれが考えた。ゴール13を学んだ際、捨てられたうちわを再利用し、オリジナルのうちわを作成した。</p> <p>期間：2019年4月1日～2020年1月31日</p>		<p>アクションの種類</p> <p>資金支援・物資支援・ボランティア</p> <p>自己行動変革・啓発活動・アドボカシー</p> <p>ソーシャルビジネス</p>	
	<p>なぜこの問題 &アクションなのか</p>	<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>学び・メッセージ</p>
	<p>年々各地で気温が上昇している。小さなことかもしれないが、エアコンの温度の設定を考え、猛暑日が続く日は熱中症対策にもなる。</p>	<p>捨てられていたものを再利用し、自分用のうちわを作ることで、生徒達も積極的に活動を行った。</p>	<p>使用時期が限られる物だったので、次回はより幅広く活用できる物を考えたい。また、今年度は初めての活動だったので、次年度はさらに多くの生徒と、教員と協力して活動したいと思う。</p>	<p>先進国である日本にいてるだけでは、途上国の問題を親身になって考えることは簡単ではなかった。教員の私にはなかった発想が生徒から生まれるなど、生徒の理解にもつながった。</p>

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう 
- 2 飢餓をゼロに 
- 3 すべての人に健康と福祉を 
- 4 質の高い教育をみんなに 
- 5 ジェンダー平等を実現しよう 
- 6 安全な水とトイレを世界中に 
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 
- 8 働きがいも経済成長も 
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 
- 10 人や国の不平等をなくそう 
- 11 住み続けられるまちづくりを 
- 12 つくる責任 つかう責任 
- 13 気候変動に具体的な対策を 
- 14 海の豊かさを守ろう 
- 15 陸の豊かさを守ろう 
- 16 平和と公正をすべての人に 
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう 

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を推進しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>市川侑奈</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計2人 在住：三重県</p>		
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>「カカオ豆からグローバル」をテーマにNPO「INAANZA MIE」を設立、以下の活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の小学生を対象に、カカオ豆からチョコレートを作るワークショップの実施（カカオ豆生産国（ウガンダ）の子どもたちへネット配信） ・地域のスイーツ店と協力し、カカオ豆と地元の食材を合わせたチョコレート商品を開発 <p>期間：2019年6月～</p>	<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア</p> <p>自己行動変革・啓発活動・アドボカシー</p> <p style="text-align: center;">ソーシャルビジネス</p>
<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>国際協力について＝かわいそうだから支援するという考え方は、支援国との間に相互的なパートナーシップを作ることにつながらない。今ある問題をどうすれば解決できるか、支援する国と支援を受ける国がお互い考えていくことで持続可能な国際協力につながる。地域の活性化＝地元だけでなく国際的な視野を持った商品の開発が、地域の活性化だけではなく、ひいては多様性を受け入れる社会形成につながる。</p>		
<p>工夫したこと / 達成したこと</p>	<p>高校生ができる支援とは何か考えたこと。</p> <p>チョコレートワークショップを行うために、何回もチョコレートの試作を行ったこと。</p> <p>カカオ豆生産国の一つであるウガンダ共和国でカカオ豆農園経営者に現地の様子を教えてもらったこと。</p> <p>活動資金を集めるためにクラウドファンディングを行ったこと。</p> <p>目標金額30,000円に対し90,000円の支援をもらえたこと。</p> <p>※事務局補足：上記調達金額は、これに三重県からの支援金15,000円を合算しています。</p>		
<p>困難だったこと / 次回に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・機械を使わずカカオ豆をすりつぶす作業が大変で、何時間もかかったこと。 ・カカオ豆生産国（ウガンダ共和国）へ高校生が行くための調整。（現在ウガンダ共和国のカカオ豆農園の方や大使館と連絡を取って交渉中） ・地域の小学生に行うチョコレートワークショップの取り組みを全国的に広めるにはどうしたらよいかを考えていきたい。 		
<p>学びメッセージ</p>	<p>国際協力は難しい！重たすぎる課題だ！高校生にできるのか？といった不安を吹き飛ばし、まずは何かを始めてみる。そうすることでいろんな人とつながっていく。高校生だからこそできることがたくさんあるのだということ。地域社会とつながっていくこと、遠いと思っていたカカオ豆生産国のウガンダ共和国は実は遠くないこと。色々な人とつながることで国際協力がぐっと身近に感じられたこと。</p>		

報告者	中尾光希、大櫃摩尋、浅見悠河			実施メンバー：計3人 在住：鳥取県
社会問題 & アクション	鳥取砂丘から海にかけて落ちて いるゴミを拾い、海洋ごみの増加 を防いだ。 期間：2019年4月14日～4月21日	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	ゴミ30kg	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
ゴミを間違えて食べた魚や、それを食べる鳥や人間などの影響が問題視されている。小さな行動で、これらを少しでも防げると考える。	1人10キロを目標として、鳥などの口に入る位の大きさのゴミを拾うよう心がけた。	砂に埋まった小さなゴミを探すことが大変だったが、大きなゴミの近くによく落ちていることに気づき、砂に埋まっているゴミも拾うことができた。また、3人で同じ所を探していたため、次回はばらけてゴミを探そうと思う。また人員も増やしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・少しの力でも、終わってみたら達成感があり、国内でもこうした活動を広めていけば環境問題に大きく貢献できると思った。 ・身近にも環境汚染が及んでいることを改めて感じた。そして、環境汚染対策がまだまだ不十分であり、私達若い世代が働きかけることが大切だと思った。 	

報告者	大川藍			実施メンバー：計6人 在住：鳥取県
社会問題 & アクション	『NHK ディレクソン in鳥取』に参加し、優勝しました。番組制作にも携わり、実際に全国でも放送されました。 期間：2019年6月15日～7月21日	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	イベント参加者50人 不特定多数の視聴者	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
人口が減ると、税収が減り、今住んでいる人達や、これから住む人達が住みにくい環境になってしまう。住めない土地になると、そこにあった文化や伝統も同時に失われてしまう。	関心をもってもらいやすいように、「取鳥じゃないで！」(とるとりじゃないで)と、鳥取の名前ネタをタイトルにつけました。	なし	なし	

関連SDGs

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を實現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 持続可能なエネルギーを



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を推進しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者 山本卯多		実施メンバー：計13人 在住：鳥取県	
社会問題 & アクション	使われなくなった保育園の利活用検討委員会に所属しています。どうしたら自分の地域を活性化することができるのか考え、若者ならではの意見を出しています。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	なし
期間：2019年7月28日～現在			
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ
私の住んでいる地域は少子高齢化が進み、このままでは村がなくなってしまう。このアクションで地域に人を呼ぶことや、地域に住んでいる住人にとっても自分の住んでいる地域を魅力的と思ってもらえるような変化に繋がると思います。	新しい発想やアイデアを出すことをしました。	私は委員のなかでも最年少なので、話を聞いていて分からないことが多かったり、アイデアを上手く伝えたりすることが難しかったです。アイデアを伝えるために資料を使って説明するなどをして、きちんとコミュニケーションをとっていきたいです。	新しいことをするのは大変ですが、何かを変えたいと思ったら自分から動くしかないということに気づきました。私はもともと消極的な性格だったのですが、活動していくうちに積極的に動けるようになりました。私はこの活動を通して自分から動くことの大切さを学びました。

報告者 竹森奏視		実施メンバー：計4人 在住：鳥取県	
社会問題 & アクション	水を必要としている地域の人々に、きれいな水を持続的に使える環境を提供するボランティアをしたいと考え、一人が一生暮らすために必要な水を確保するのに必要な資金2,500円を寄付した。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	2,500円
期間：2019年12月20日			
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ
水不足で私達と同じ年代の子どもたちが亡くなってしまっている現状があるから、この問題に取り組んだ。私達がこのような活動を行うことで、より多くの人々が問題を認知し、考える機会を増やすことに繋がる。	ただお金を寄付するだけではなく、その目的まで知ること。	周囲に協力を得る為にWE Dayについて知ってもらい、共に活動し始めることに苦労したが、仲間が集まった。次回からはもっとグループメンバーを増やして活動の幅を広げたい。	水不足の問題に関する知識を深めていきたい。

報告者	中谷翔馬、安田風志、奈羅尾悠里			実施メンバー：計7人 在住：鳥取県
社会問題 & アクション	世界の貧困や社会問題について 学び、授業内で発表した。 期間：2019年10月1日～12月19日	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	40人にスピーチを行った	
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
貧困のため、一部の 子ども達は教育を満足 に受けられず、大人に なっても自立が難しく なってしまう。	今回アクションを 起こしたことで、 自分達の、貧困に 対する意識と考え方が 変わった。	クラスみんなに 伝わりやすく、かつ 問題を身近に感じて もらえるよう、発表を 工夫すること	世界の貧困は思って いたよりも近くで 起こっていた。私達と 同年代の子ども達が、 学校に通えず、満足に 教育を受けられて いない現状があること を学んだ。	

関連SDGs



関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	高本千咲			実施メンバー：計3人
				在住：鳥取県
社会問題 & アクション	令和元年度鳥取県高校生英語弁論大会に出場し、地球環境問題に対する、日本の政治の取り組み方について訴えました。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間：2019年8月10日～9月28日	数値成果	100人	
なぜこの問題&アクションなのか	政治は国を大きく動かすことができます。しかし、政治家が地球環境問題ときちんと向き合って対策をしなければ一向に解決することはありません。私たちが地道に省エネな生活をするだけでは抑えられないスピードで環境破壊、それに伴う地球温暖化は進んでいます。私のアクションを通して、1人でも多くの方が投票するようになり、また若者が今地球に起こっていることを把握しようと考えられる機会になれば良いなど考え、この英語弁論大会に参加しました。			
工夫したこと/達成したこと	どういった表現の仕方をすれば、皆さんの心に内容が響くのかを常に考えて練習していました。ジェスチャー、声の抑揚の付け方などをとても意識しました。大会が終わったあとは、他校のALTの方々に「聞いていて心が奮い立たせられた」と褒めていただきました。			
困難だったこと/次回に向けて	長い弁論内容を覚えることに苦勞しました。			
学びメッセージ	もっと沢山のの人に地球環境問題について考えて欲しいとより強く思うきっかけになりました。			

報告者	大澤天海、七尾凜奈、別所綱			実施メンバー：計5人 在住：埼玉県
社会問題 & アクション	カナダに行った際、WE (フリー・ザ・チルドレン本部) の事務所に行き、世界の貧困など についてインタビューをした	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間：2018年10月～2019年3月	数値成果	10人にインタビュー	

報告者	松原琉凱、濱口健大			実施メンバー：計2人 在住：埼玉県
社会問題 & アクション	レジ袋を断る	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間：2019年7月20日～2020年2月22日	数値成果	2人	

報告者	永井利旺			実施メンバー：計2人 在住：山梨県
社会問題 & アクション	小学生向けに英語講座を行った。	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間：2019年8月3日～2020年1月	数値成果	30人	

報告者	BE Frontier 久保田啓斗、畑中駿之介、双佐空、伊集院美侑			実施メンバー：計4人 在住：東京都
社会問題 & アクション	BE Frontierという団体を設立し、 高校生がお互いの「好き」に ついて自由に語り合い理解を 深め合う、あるいは新しい価値観 に触れる場をイベントを通して 提供した	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
	期間 2019年9月1日～2020年2月10日	数値成果	30人	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 持続可能なエネルギーを
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	都立国際高等学校 国際協力ボランティア同好会 鈴木りゆか、須田麻瑚、瀬在和佳、林聖夏		実施メンバー：計100人 在住：東京都
社会問題 & アクション	レモネードスタンド実施、フェアトレード商品の販売、古本募金への協力、幅広い分野のNGO・NPO法人の方々を学校にお招きして、校内での講演会を開催、JICA地球ひろばを定期的に訪問し国際協力への理解を深める、赤十字主催の老人ホームでのボランティア、福祉障害施設で開催された祭の手伝い、高校生ボランティアアワード出場 など	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2016～2019年	数値成果	高校生ボランティアアワードで全国10位を獲得 300人以上に活動成果を発表
報告者	村木玲菜		実施メンバー：計5人 在住：東京都
社会問題 & アクション	年賀状の時期に間違えてしまったハガキを捨てずに郵便局に提出しました。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年12月27日～2020年1月6日	数値成果	葉書30枚
報告者	齋藤紅里		実施メンバー：計41人 在住：東京都
社会問題 & アクション	フェアトレード商品開発 バナナペーパー推進活動 タンザニアの教育支援	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年7月24日～現在	数値成果	
報告者	河原睦起		実施メンバー：個人 在住：東京都
社会問題 & アクション	バンコク、チェンライ、ベトナムの孤児院で、建築や日本語教育、英語学習、畑仕事の手伝いなどのボランティアを行った。帰国後も日本のラーメンや便利グッズを送った。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年7月～2020年1月10日	数値成果	5,000円、60人

報告者	ジェーナ羽見、五嶋美優		実施メンバー：計2人 在住：東京都
社会問題 & アクション	FTCJメルマガ登録	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2020年1月5日	数値成果	
報告者	穂葉らな		実施メンバー：個人 在住：東京都
社会問題 & アクション	環境問題を取り上げ、日常生活ですぐ実践できるアクション交流会の実施。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年7月～12月	数値成果	77人
報告者	梅原七心		実施メンバー：複数 在住：東京都
社会問題 & アクション	募金、グリーンバード（ゴミ拾い）	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年2月5日～2月15日	数値成果	100円
報告者	青木新		実施メンバー：計15人 在住：東京都
社会問題 & アクション	滋賀県で葦狩りボランティア、WWFの活動に参加	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年6月～現在	数値成果	1,354円

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	中川優		実施メンバー：複数 在住：神奈川県
社会問題 & アクション	障害者施設でパフォーマンスをしたり、一緒に工作などをしてしたりした。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年12月17日～12月18日	数値成果	45人とワークショップを実施

報告者	中村瑞葵、谷田陽香		実施メンバー：計2人 在住：神奈川県
社会問題 & アクション	論文作成 セーブ・ザ・チルドレン・ ジャパンへのインタビュー 女性の人権に関する発表	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間 2018年2月15日～2019年1月28日	数値成果	300人の前で発表

報告者	柳澤杏佳		実施メンバー：計4人 在住：神奈川県
社会問題 & アクション	家庭内でのペットボトルキャップ回収	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年1月1日～2月29日	数値成果	5kg

報告者	高木優里、北原七海		実施メンバー：計4人 在住：神奈川県
社会問題 & アクション	募金を高校生に根付かせる取り組みを考え、フードロス問題についても取り組み、校内で発表した。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間 2019年6月8日～2020年2月22日	数値成果	中3（後輩）にスピーチ

報告者	高橋由衣	実施メンバー：計4人 在住：神奈川県	
社会問題 & アクション	学校内での古本、CDなどを回収、 難民支援協会へ寄付 期間：2019年1月21日～22日	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	5,672円

報告者	市川高等学校 有志グループ 小野田美陽、佐藤翔、西原凜、森田輝、村井陽香、鈴木花緒、瀧美羽、浮津有紗	実施メンバー：複数 在住：千葉県	
社会問題 & アクション	学校で不要な体操服や靴を回収、 モンゴルとタンザニアへ寄付 (送料も書き損じ葉書で調達) 文化祭でフェアトレード商品販売 (ポスターによる活動報告も実施) 千葉大学次世代スキップアップ プログラムで活動報告 自作募金箱を購買や学園ショップに 設置、おつりの募金を募った FTCJチョコレートプログラムに参加 (小野田、村井、東中) 期間：2018年12月～2019年9月	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	調達総額：116,895円 回収した体操服・靴：約200kg

報告者	池成彩華	実施メンバー：個人 在住：鳥取県	
社会問題 & アクション	TOTTORI START UP CAMPで、 鳥取県内の地域課題を解決する 事業プランを考え、ブラッシュ アップした。 期間：2019年10月5日～10月6日	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	なし

報告者	吉里柚波	実施メンバー：個人 在住：島根	
社会問題 & アクション	Toshiba Youth Club Asiaに 参加し、SDGsについてASEAN 諸国の高校生と一緒に考えた。 期間：2019年12月22日～12月29日	アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	なし

関連SDGs




関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	田中里奈			実施メンバー：個人
				在住：福岡県
社会問題 & アクション	中学当時からマイクロプラスチックゴミについて探求。高校に入り、拓殖大学のSDGsに関する作文コンクールで奨励賞受賞&学生団体に加入。2020年春にマイクロプラスチック問題に関するワークショップを主催する準備を進めている。 期間：2017年～	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	60人程度	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させる
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者 (大学生)</p>	<p>実施メンバー：計12人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>貧困からくる食料不足が飢餓を招き、逆に豊かな地域で生じる無駄なフードロスという社会問題。</p> <p>NPO団体ハンガーフリーワールドさんの青少年支部（Youth Ending Hunger）として、小学生から大学生を対象に、世界の飢餓の現状についての啓発活動を行った。飢餓について知ることで、普段食に恵まれている日本人が感じないであろう食のありがたさ・大事さをワークショップを通じて伝える。</p> <p>期間：2018年10月31日～2019年11月17日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>70人に啓発活動</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>9人に1人が飢餓という状況であるが、食料が足りていないわけではない。生産されている食料の3分の1は捨てられている。また、食べ物を廃棄することによってコストがかかるだけでなくCO2排出という環境問題にも影響を及ぼしている。だからこそこの現実を知り、無駄なフードロスを個人が減らす意識をもつことで少しでも改善され、食の問題だけでなく環境問題の解決に繋がる。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>啓発活動を行う対象の年齢によってワークショップの内容や、言葉遣いを変える工夫をした。いかにわかりやすく、しかし問題の深刻さを伝えるためにどうしたらよいか考えていた。また、飢餓について興味がある人は少なく、どうしたら惹きつけることができるかを工夫した。展示の場合は写真を多用することで視覚的イメージをつかみやすくした。ワークショップでは理解の補助として動画を用いたことにより小学生からも理解を得ることができた。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>		
<p>学びメッセージ</p>	<p>人がどう問題について思っているのか、考えているのかというのは実際に話してみないと何もわからないということ。そして、たくさんの人から意見を聞くことで意外にも多くの人が問題について考えているとわかること。これらはとにかく人と関わり合うことで知れることなので、私は多くの出会いと関わりが大事だとアクションを通じて学んだ。</p>	

<p>報告者 (大学生)</p>	<p>藤田 怜奈</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計12人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>貧困から生まれる食に対する知識の欠如、食糧不足</p> <p>インドネシアの現地のフードバンクのボランティア活動に参加して、インドネシアのスラム街に赴いて貧しい人々にお弁当を作って配布。 離島に住む島民に向けた栄養教育。 小中学校で栄養教育と衛生教育。</p> <p>期間：2019年8月1日～2019年8月31日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>20kgのお弁当を配布</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>栄養に対する十分な知識がなければ、栄養不足につながりかねず大病を起す可能性が高まり結果的には死につながるため、命を落とすまでの大きな問題になりうる。新しい栄養に関する知識を得ることで、それを機に栄養に対して興味を少しずつ持つようになる。そして知り、実際に行動におこしていくことで他の人々を巻き込むことができる。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>インドネシアの人の食生活を調べた上で、何処の部分が課題か、それをどのように改善出来るように教育できるか構想を考えたこと。 ボランティア活動ではお弁当を配るだけでなく実際家事のお手伝いをしたりその人と話して向き合い一人ひとりにアドバイスをできるように心がけたこと。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>スラム街だったので、匂いがやはり少しストレスになった。マスクをするなどして乗り越えた。現地の人々がインドネシア語から英語へ翻訳してくれたのだが、うまく訳しきれずコミュニケーションがなかなかスムーズに行かなかった。ボディランゲージなどを使ってなるべく負担にならないようにした。インドネシア語の学習も必要。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>スラム街の概念が変わった。いままではせいこつすることもままならず、そうした生活環境であることから心にゆとりもないとおもった。でも実際現地の人と話してみて、彼らは彼らなりに努力して今の現状を打破しようとしていること、生計もそれなりにきちんと成り立っていること、人を思いやる気持ちを常に持って熱心に直向きに生きていたこと。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任つかう責任


13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさを守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者 (大学生)</p>	<p>明治大学商学部 小林尚朗ゼミナール 上野謙太郎、小川拓真、イムユンテク</p> <p>実施メンバー：計27人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困問題 ・日本のフェアトレード認知度の低さ <p>⇒フェアトレード・スポーツ教室の開催</p> <p>期間：2019年12月8日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>小学生と保護者とスタッフの約120人に講義 そのうち約60人の子供にサッカー教室を開催</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>不当な賃金労働や児童労働によって、生産者が十分な生活を送ることができていないから。このアクションは、楽しみながら世界の現状を知ってもらい、少しでもフェアトレードというものを知ってもらい、消費者行動を変えるきっかけを与えることができた。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>ただの講義にするだけでなく、サッカー教室を催することで楽しんでもらえるように工夫した。フェアトレードというものを広めることができた。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>子供にもわかりやすく噛み砕いて説明することが難しかった。身近な有名サッカー選手も昔はとても貧しかったなどの話題を入れることで理解してもらえた。ボールがもらえなくて泣き出した子がいたので、次回行うとしたら、協賛を募りできるだけフェアトレードのお菓子などのプレゼントを増やす。全員が何かもらえるようにするなど。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>あれだけの人数の大人がいたにもかかわらず、フェアトレードの知名度はかなり低かった。しかし、学んだ後ではかなり興味を示していただけだったので、ますますこのような活動を増やすことで、認知度を高め、消費者行動を変えることができると思った。</p>	

<p>報告者 (大学生)</p>	<p>Youth Volunteer Center Japan 伊藤清音</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計11人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>飢餓の撲滅のために活動 国連WFPへオリジナルボールペンを作成して寄贈。文化祭にて国連WFPブースを設け広報を行い、飢餓撲滅についての広報も行った。また、毎年3月に高校生や中学生対象にワークショップや講演会を行っている。</p> <p>期間：2015年～現在</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>148,453円の寄付、500人への講演</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>飢餓は人の生活を尊重する上で最もあってはならないことであり、飢餓は社会の治安や人の心を病む原因となる。私たちが行っているアクションは、飢餓人口を減らし人々の生活を豊かにすることにつながる。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>若い人たちに飢餓について知ってもらうため、中学生を対象としたワークショップを積極的に開催した。毎年180人ほどの中学生に飢餓について考えてもらい、知ってもらうことができている。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>学生だけの活動を柱とし、大人による介入が少なかったため活動の継続が困難な時期があったが、大学生メンバーが高校生メンバーと積極的に連絡を取り合うことにより継続できている。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>学生団体として活動することの難しさと楽しさ、また小さなアクションを起こし続けることで大きなアクションが成果として目に見える形、見えない形で返ってくることを。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

関連SDGs

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を實現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさを守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナリシップで目標を達成しよう

<p>報告者 (大学生)</p>	<p>小林真哉</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計7人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生状況の改善 ・村人間での問題「コミュニティツール」不足 ・所得向上 <p>大学の授業の一環でフィリピンを訪ねました。そこでは、生活インフラの整備が不十分と思われる村の住民と対話を重ねることで、村人の潜在的なニーズを引き出し、それに応えるアイデアを生み出し提案するというもの。</p> <p>期間：2019年8月24日～2019年9月4日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p></p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>村人の生活改善の余地は十分にあるのにその可能性に気付いてなく、成長の可能性を閉ざしてしまっていること。そこにアプローチすることで、村人自身の考え方や行動に幅が出て、NGOなどの国際団体が介入せずして、更なる経済発展や生活水準向上に働きかけることができるようになる。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>こちらの主観で物事を判断せず、村人(当事者)の視点に立って考察すること。またインタビューで工夫した点は、表面的なニーズを引き出すのに有効なwhyやhowは使用しない聞き方に注力を注いだこと。遠回りさせることで相手にも気づきを与え、潜在的なニーズを引き出した。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>潜在的なニーズを仮定し、それを一つのアイデアとして形にすること。アイデアを模索する過程が、ニーズと一致せずに頭を抱えることが多かった。その際は、目標を明確化し、その過程をモデリングすることで、解決に繋がった。</p>	
<p>学び メッセージ</p>	<p>このアクションによって、私の固定観念や知識が無意味であることを痛感した。私の一番の大きな誤りは、勝手に私の生活と村人の生活を比較し、村人は十分に幸せでないだろうと判断してしまったこと。「あなたの今の幸せ度を1~10点で評価すると何点ですか。」と質問したところ、約9割の人が10点と解答した。この結果には非常に驚かされ、かつ、何も知らないよそ者の私が、不幸せであると判断したことに申し訳なさやらさなさを感じた。入国前までは、貧困に対してマイナスイメージしか持っていなかったが、この根本的な定義ミスを知った。この大きな認識の誤りによって、私自身が、村人から吸収するものを大きくした。幸せとは何かと言われると明確な答えはないが、例えば水や電気がなくても幸せは誰にでも訪れる当たり前感情であること。不幸せだと感じてしまうのは、自分がないものを得ようとするからである。今あること、今できることを精一杯やり遂げることが村人だけでなく人々の幸せを感じる根源であるのではと悟られた。</p>	

<p>報告者 (社会人)</p>	<p>飯塚俊幸</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：個人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人への偏見や理解がなかなか進まないことへの問題 ・自分の弱みを発信しにくい社会 ・個人が能力やみかけで判断されてしまい、個性、強みを生かしにくい社会 <p>人を本に見立てて、その人の話から感じたことを共有、学びにするイベント「にげん図書館」というイベントを主催しました。障害者のある自分を題材（本）として、個人のストーリーを通して、参加者の交流の場、障害に対する自分の悩みを発信する場を作りました。</p> <p>期間：2019年3月2日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>20人に対するスピーチやワークショップ</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>障害があるからという理由で、無意識に差別されてしまったり、個人のやりたいことができなくなってしまっている現状があると思うためです。このアクションを通して、「障害とは？」を考えることをきっかけにお互いにお互いが尊重し、弱さを支え合えるような環境づくりに繋がっていきたいと思っています。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>工夫したことは、初のイベント主催にあたっては、自分だけではなく、自分を受け入れてくれる周囲の人の協力を得たことです。また、自分がただ発信するのではなく、参加者が自らで考え、思ったこと、感じたことを発信しやすい雰囲気をつくることも心がけました。達成できたことは参加者のみなさんの間で交流、学び合いの場が生まれ、参加したことで、なにか（障害への理解以外でも）を持ち帰ってくれたのではないかと感じています。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>限られた時間で本である自分のことを発信することが難しかったです。参加者の皆様が登場を盛り上げてくださったので、乗り越えることができました。次回開催に向けては色々改善事項はありますが、まずはプレゼンテーションの練習を日々していきたいと思えます。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>一番は自分自身が障害のことを気にしてしまっており、もっと自分を受け入れてもよいと学びました。障害に対する理解は少しずつでも進んできていると思うので、障害の当事者からの発信も大切になると学びました。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な開発目標
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な人・社会と健康を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを拡大しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者 (大学生)	川下彩夏		実施メンバー：計10人
社会問題 & アクション	海の環境問題 <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県石巻市のウミガメの保護と海洋での観察 ・ウミガメの寄付金募集 ・プラスチック問題の対策 		
	期間：2019年9月15日～2020年3月31日		
アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス		
数値成果			
なぜこの問題&アクションなのか	現在、海の環境が変わり生息場所も変化している。また、ゴミの問題などもあり異物を食べたウミガメが問題になっている。		
工夫したこと/達成したこと	出来るだけ多くの人に寄付金を募る。		
困難だったこと/次回に向けて	ウミガメの保護のためにGPSを付ける際、痛がるウミガメに申し訳なくなりながらきつとウミガメのためになると自分に言い聞かせて抑えました。		
学び メッセージ	ウミガメの生態の研究が保護や絶滅の阻止に繋がること。		

<p>報告者 (大学生)</p>	<p>安村凜</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計20人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>気候変動、地球蘇生、環境保護</p> <p>気象非常事態宣言の請願への同意署名活動、地球蘇生の為のブース、非核化・原発廃止の請願への同意署名活動など</p> <p>期間：2019年11月29日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p></p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>今の地球は昔に比べて資源が減ってきている。しかし、現代社会はその限られた資源をある分だけ使い放題にしてしまい、その資源から作られたものが日常生活にある事が当たり前になってしまっている。この活動でもっと情報と現状を発信していくことで、限られた資源を使うだけではなく、補っていくことも同時に行っていく社会を作ることに繋がると思う。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>道を歩いているだけの人にも、積極的に環境問題やその保護についてどう思うかを尋ねて歩いた。また、その時に強制的に気候変動や環境問題について考えることを勧めるのではなく、自主的に気づいたことから始めてもらえるような声かけをした。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>周りの参加者の方々から指示を頂いてから行動する事しか出来なかったため、次回からは自主的に動いていきたい。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>大人の方の方がこの活動や何が問題なのかをよく分かっていて、自分の知識と経験がまだまだ未熟だと思った。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な開発目標を達成しよう
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を達成しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 持続可能なエネルギーを
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者 (大学生) 田尾ゆふ、川崎沙月		実施メンバー：計2人 在住：東京都	
社会問題 & アクション	「ふれあい満点市場」で、フィリピンの水質汚染問題の改善のための寄付付き商品の販売ボランティアを行った。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2020年2月8日	数値成果	18,050円の売り上げ・寄付
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと/次回に向けて	学び・メッセージ
フィリピンでは水質汚染の影響できれいな水を十分得ることができず、汚染された水を飲むということは健康被害につながってしまう。そこで、「寄付付きのお菓子」を販売し売り上げの一部を寄付することで、新たな井戸の設置などが実現できることのできるきれいな水を飲むことができるようになる。	「寄付付き商品」を販売するにあたって、お客様に一目で分かってもらえるようにフリップ作りをしたり、説明書きを足したりなど工夫したことで、足を止めてくださる方が増えた。	人通りが多い時と少ない時があり、少ないときは、場所を数カ所に増やして販売する範囲を広げるなどして、多くの方の目に止まるようにした。次回はフリップに加え声かけもして少しでも注目していただけるようにしたい。	私は大学生ですが、ボランティアには中学生から大人の方まで年齢を問わず集まっていました。私がこと活動を通して学んだことは、国境関係なくより良い社会をつくりたいという思いは年齢関係なく同じであるということ、そして私たちのような若い世代のがもっと声をあげることで、世界で苦しんでいる人を少しでも減らせると感じました。私はこれから先も支援活動を続けていきます！

報告者 (大学生) 伊藤さくら		実施メンバー：個人 在住：東京都	
社会問題 & アクション	ろう者の方々の情報収集における不平等の問題に向け、ろう者の方が毎週末に授業を受ける際、手話通訳をしたり、ノートテイクをしたりして情報保障をしている。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年5月25日～10月19日	数値成果	4人のろう者の情報保障
なぜこの問題 & アクションなのか	情報化やグローバル化が進んでいる現代において、人々が平等に情報へアクセスする機会が叶えられていない現状がある。中でも、聴覚障害や視覚障害など、身体的なハンデを背負っているために生じる不平等は、情報獲得のために第三者のサポートを要する場合が多く、より周囲が関心を寄せていく必要がある問題である。授業を始めとして、全員が学びの機会を均等に獲得していくためにも、ろう者の方々への情報保障というものは非常に重要になってくる。このアクションは、比較的身近に生じている不平等を認識して、それらを改善していくことの重要性や使命感、そして自分の知らない苦しみと戦っている方々に敬意を持って関わるができるきっかけとなると考える。		

<p>工夫したこと /達成したこと</p>	<p>工夫としては、自身の手話表現の幅を広げるため、普段から手話を用いて会話をしたり、ろう者の方に対して敬意を持って情報保障に臨むことで、授業内容を伝えるだけでなく、より豊かなコミュニケーションをとれるようになった。達成できたこととしては、情報保障はもちろん、ろう者の方のコミュニケーション相手となれたことで、ろう者の方のストレスコーピングを手助けすることができた。</p>
<p>困難 だったこと /次回に 向けて</p>	<p>初めのうちは、ろう者の方が普段使っている手話のスピードに圧倒されてしまい、手話を読み取ること、手話通訳をすることに集中するあまり、コミュニケーションが全く取れていなかった。しかし、より有意義に授業を受けていただくにはどのように工夫することが必要かを考察していく中で、自身の手話能力の向上、ろう者の方に敬意を持って接することの重要性を痛感し、前述した工夫を用いて徐々に状況を改善していくことができた。</p>
<p>学び メッセージ</p>	<p>このアクションを通して、自分の身近なところでも学びの機会や情報の収集に対する平等が叶えられていない現実を目の当たりにして、改めて互いができることで手を取り合って助け合い、共に不平等を改善していくことの重要性を学んだ。また、どんなハンデを抱えている人に対しても、偏見や差別的意識を持たずにただ一人の人間として尊重していく過程で、人間的な温かい関心が寄せられ、互いに理解しあうきっかけになることを学んだ。</p>

<p>報告者 (大学生)</p>	<p>木暮里咲</p>	<p>実施メンバー：個人 住：神奈川県</p>
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>日本における地方創生の問題・寄付やボランティアに対する偏見の問題</p> <p>私は高校生の時にまちづくりに関わる活動や地域活性化を促すためのイベントなどを行ってきた。それを踏まえて大学生になってからは様々な形でその経験を生かしてきた。まず一つは外部に出て自分のこれまでの活動とビジョンを語るということ。9月の日本ファンドレイジング大会と11月にソーシャルイノベーションフォーラムにて若者の思う社会のこれから、社会の課題解決に関わるということについて話した。もう一つは寄付という文化をより多くの人に知ってもらうためにイベントを実施したり自分のSNSでの発信を行った。FTCJに関連するイベントではグレートサンタランにパフォーマーとして参加し、イベントを盛り上げるという役割を果たした。他の人を誘って参加すること自体初めてであり、難病の子供たちであったり小児科の子供たちに対する関心を上げることができた。</p> <p>期間：2019年8月～2020年1月</p>	
<p>アクション の種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス</p>	<p>数値成果</p> <p>登壇先のオーディエンスの人数 9月：500人 11月：200人</p>

関連SDGs

- 1 貧乏をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な消費と生産
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

<p>なぜこの問題 & アクションなのか</p>	<p>まずは若者が社会に対して思うことがある、何か変化を起こすことができるということに登壇することで知ってもらうことができる。私のアクションは若者のエンパワーメントに繋がってのではないかと考える。また、寄付の啓発は必要な人のところに必要な助けが届くようになって感じている。</p>
<p>工夫したこと / 達成したこと</p>	<p>自分の経験や実績があることで自分の言葉の信頼性が上がると感じている。だからこそ自分のこれまでの活動は決して大きくはないもののそれを発信することを恐れないようにした。</p>
<p>困難だったこと / 次回に向けて</p>	<p>自分の話をするのがあまり得意ではなくずっと自信がなかった。しかし経験していく内に共感してくださる方やもっと知りたいと言ってくれる方の言葉で自分もまた頑張ろうと思えたり、新たな考えに繋がっていったため、自信を持っていこうと思うことができた。</p>
<p>学びメッセージ</p>	<p>人に発信をするということが一つのアクションであるということを実感した。新しいコネクションの場になったり、何かを感じてくれる人がいること。自分は高校生の時の方が活発に動いていて何もしてないように思っていたがこれも一つの方法であると思うことができた。</p>

<p>報告者 (大学生)</p>	<p>横浜市立大学 TEHs (テフズ) 実施メンバー：計12人 宍戸明日香、稲葉かれん、竹中萌、南亜伽音、 松下真菜、井上明香里、藤澤菜由 在住：神奈川県</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>毎週月曜日、水曜日にミーティングを開催し、大学にSDGsを広める為には何をすべきか、ということの日々議論し、SDGsの最近の取り組みなどについて情報共有しています。トゥルーコストに対しては低賃金労働問題、行き過ぎた資本主義、それに伴う環境問題に対して議論を深めました。SDGsの議論は主に日本と世界全体の問題に関して議論しました。</p> <p>講義で世界で起きていることに対して何か行動を起こさないといけないと思った有志の生徒たちで大学内でSDGsを広める目的でTEHs (テフズ) という学生団体を設立しました。トゥルーコストという映画の団体での上映、それに対してのディスカッションをしました。またSGDsをもっと知らなければならないということでメンバー同士でSDGsの発表をし、それに関する近年の動きを共有しました。またそれに対してメンバーと同士でディスカッションを行いました。</p> <p>期間：2019年9月～2020年1月</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス</p>	<p>数値成果</p>

なぜこの問題 & アクションなのか	大学生のSDGsのアクションがなく、どのように取り組めばいいかわかっていない。さらに世界で起きていることについて理解していない。その為この団体でSDGsを広め、活動を推進することでSDGsの達成に一步でも近づくことができる。ファストファッションについては行き過ぎた資本主義により苦しんでいる労働者、その子供たちがいる。その周辺の地域も環境問題が悪化している。私たちにできることを議論することでその消費者が変わることで生産者も変化することができる。考えることができる。
工夫したこと / 達成したこと	SDGsの発表はただ発表するだけでなく、近年の日本国内や世界での動きを共有することで理解を深めた。議論するときは一人一人違う側面からの意見の内容を知ることができてとても勉強になった。
困難だったこと / 次回に向けて	新しくできた団体であった為、全てが新しいことで進めることが大変なことが多かった。しかしミーティングを繰り返し行うことで少しの期間で企画を少し進めることができた。
学びメッセージ	SDGsに対しても知らないことがたくさんあり、途上国だけでなく、先進国が取り組まないといけないことが多くある。大学生でも取り組めるアクションは多くある。

報告者 (大学生)	緒方杏樹	実施メンバー：計5人 在住：東京都
社会問題 & アクション	環境・LGBTQ+・通信制・定時制に通う高校生の進路支援・女性の活躍支援	資金支援・物資支援・ボランティア
	社会貢献をしている企業を調べ、身近な企業(コココーラ、花王、ヴィヴィアンウエストウッド・アリベイ)の取り組みから知らない人が多いであろうNPO法人のターゲットを絞った取り組み(認定NPO法人D×P)まで、SDGsに関する幅広い活動をクラスの皆に知ってもらえるようにプレゼンテーションを行った。 期間：2020年1月21日	自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	数値成果	35人に向けてプレゼンテーション

報告者 (社会人)	菅原佳奈子	実施メンバー：個人 在住：東京都
社会問題 & アクション	エシカルファッション	資金支援・物資支援・ボランティア
	使わなくなった洋服をリメイクしてバッグを作りました。	自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	数値成果	
	期間：2020年2月8日	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者 (大学生)	小原大輔	実施メンバー：個人 在住：神奈川県	
社会問題 & アクション	主に環境問題に取り組みました。貧困地域に訪問し、インフラの未整備やゴミが町中に散乱している現状を目の当たりにして、この課題に対してどのような支援や、取り組みが必要なのかなどを考えました。ミャンマーで行われたスタディツアーに参加しました。このスタディツアーでは、ミャンマーの現状と課題に対してどうアプローチをしていけば良いのかをフィールドワークやワークショップなどを通して学びました。 期間：2019年9月5日～2019年9月13日	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
		数値成果	


ACTION REPORTS

-団体の部-

ME TO WE

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>BTM 坂上大斗</p>	<p>実施メンバー：計10人</p>
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>国内：教育格差/都内の貧困による教育問題/日本人のペットボトルの使用量/日本の食品廃棄量/性別に対する考え方</p> <p>国外：世界の地域別による貧困/先進国と発展途上国の生活レベルの格差/世界各国の温室効果ガスの排出量とそれによる環境被害/世界の紛争</p> <p>オフラインで現在の国内外の社会問題(主にSDGsについて)を提示してそれについて議論をする。議論した内容を各自のSNS機能を用いて周りの中高生に発信をしている。</p> <p>期間：2019年9月16日～現在</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>3,000人に情報共有</p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>		
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>個人でSNSに発信するだけでなく、オフラインで会議を通す事によって様々な意見や間違いのないまとまりのある内容を発信してきている。発信用のアカウントを作るのではなく個人のアカウントで発信する事で、より多くかつ、これまでに問題意識の無かった人に呼びかけることができた。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>より多くの人に見てもらえるよう、メンバーを増やしたり、発信方法、発信場所を増やしていきたい。</p>	
<p>学び メッセージ</p>	<p>想像以上に中高生の社会もんだある(SDGs)に対しての問題意識が低いと感じた。しかし、この活動をやって行くうちに確実に中高生の社会問題に対する問題意識が高くなってきた事がわかった。これからも続けていきたい。</p>	

<p>報告者</p>	<p>フリー・ザ・チルドレン・ジャパン フィリピンクラウドファンディングチーム 庄山桃子、菌部夢有人、後藤瑞穂</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計17人</p>
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>日本では全国で十分な教育を受けられますが、ミンダナオ島の先住民族の村では教育制度が充実していません。学校の状態も教育に関係してきます。 そこで、2019年の8月15日から9月30日まで、小学校修繕のための資金をクラウドファンディングで集めました。目標金額であった190万円を超える216.6万円を集める事ができました。今回集めた資金で子供たちが満足して学べる環境が出来れば嬉しく思います。</p> <p>期間：2019年8月15日～2019年9月30日</p>
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>
<p>数値成果</p>	<p>211.5万円の寄付（88人が協力）</p>
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>いくら勉強に必要な材料がそろっていても、学ぶ建物の屋根から雨漏れしていたら勉強できる環境とは言えません。発展途上国の学校校舎は、特に老朽化が進んでいる事が問題になっています。その環境で、子どもたちは集中して楽しく学べないと思います。今回のアクションは、多くの日本人に世界の教育問題を知ってもらうきっかけになったと思います。それを知る事で、他の学校修繕に募金をしたり、何かしらの支援をしたりと、考えの変化に繋がると思います。</p>
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>早く資金を調達するために、メンバー数人で、現地の状態を説明する動画を撮影してクラウドファンディングのホームページに載せました。また、以前フィリピンに行ったメンバーが、その時の状況を文に書いて詳細を知らせたり、フィリピン人の先生から応援メッセージを貰うなどして、人々に募金をアピールしました。結果、目標の190万円を達成できました。</p>
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>今回はメンバーが多かったので、どうしても情報共有がスムーズにいきませんでした。メンバー同士がよく知り合えていなかったことが原因だと思うので、次回プロジェクトをする時はもっとメンバー間のコミュニケーションを活発化させたいです。頻繁にミーティングをしたり、情報の内容ごとにファイルを分けるなどして、メンバー全員が把握できるようにしたいと思います。途中、支援が伸びず、焦ったが何度も呼びかけ新着情報を更新することにより達成し、ネクストゴールにも挑戦することが出来ました。</p>
<p>学びメッセージ</p>	<p>このアクションを通じて、発展途上国の教育問題は日本であまり知られていないことを学びました。この活動をきっかけに、これからも周りに現地の状況を広めていきたいです。 また、行動力が身に付きました。他のクラウドファンディングの例を見たり、知人や自身のSNSで何度も知らせるなど、皆が自分から動かなくては達成できないプロジェクトだったと思います。</p>



関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

実施メンバー：計18人

報告者

International Student Conference (ISC)

社会問題
&
アクション

International Student Conference is Japan-based organization, aiming to connect students around the world and raise their awareness on contemporary global issues. Established in 1945, this year marks the 66th times the conference being held. At this year's conference, we strive to come up with solutions towards 6 issues related to the Sustainable Development Goals (proposed below) through conducting academic research and discussion, along with formulating proposals. These proposals will then be submitted to the concerned organizations or governmental offices.

We are still in the process of researching the background and analyzing the causes of each issue. A complete presentation on the issue will be presented publicly on August 23rd in Osaka. In addition, we are expected to have a collaboration workshop with Humans Right Watch Tokyo, on May 23rd and 24th, 2020. The workshop's main topic is about "Killer Robots".

期間：Oct. 1st, 2019 - Aug. 24th, 2020



アクションの種類

資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス

数値成果

なぜこの問題&アクションなのか

We believe that each issue proposed above affects various sides of human's life and might bring about negative consequences to the global society if not considered in time. For example, the topic "Surveillance Capitalism: Impacts on Commercial, Social and Political future" focuses on how our personal information on social media platform being harvested and used in certain cases without user's consent. As a person's personal data holds the information to identify one, it has become valuable resources. Yet, the fact that these information being handled without permission is very dangerous. If prolonged, this can lead to privacy violation issues, with us being under no protection. Our conference's main purpose is to raise people, especially youths' awareness of these kinds of societal issues. We believe that the first step in dealing with any issue, is recognition. Once acknowledge that an issue is happening and affecting our lives, then it will drive us to coming up with solutions to the problem.

工夫したこと/達成したこと

As one of our main objectives is to raise awareness of these issues, we are doing a proposal that composed of a persuasive academic research, accompanied with possible solutions from the perspective of students.

困難だったこと/次回に向けて

学びメッセージ


関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 持続可能な開発のための人権
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 持続可能なエネルギーをみんなに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

<p>報告者</p>	<p>富士宮高校会議所 伊東竜輝</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計21人</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>観光業が発展し、地方にも観光客が訪れている。町も地元企業も発展している一方、観光公害として様々な問題が発生している。私たちはこのような問題の特に特産物であるニジマスに焦点を当てて活動してきました。特産物から発生する産業廃棄物を利用して新たな特産物を作る。そこから地方創生を行う。SDGsや様々な問題を解決し、地域の発展をする。</p> <p>ニジマスの残渣（産業廃棄物）を大幅に削減。堆肥として形を変えて商品化。商標登録済。富士宮市役所の肥料カタログに掲載予定。</p> <p>期間：2019年4月1日～2020年3月31日</p>	
<p>アクションの種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p></p>	
<p>なぜこの問題&アクションなのか</p>	<p>特産物として販売をしてもその裏にあるマイナスな面は、観光業が発展すれば発展するほど悪化するものがあると思うから。</p>	
<p>工夫したこと/達成したこと</p>	<p>市長や新聞社に協力をいただいて、情報発信や援助をしていただいた。[br]多くの人を巻き込んで大きいことができた。</p>	
<p>困難だったこと/次回に向けて</p>	<p>高校生の力だけでは成し遂げられないことも、地元企業や市役所の力をお借りして成し遂げることができた。</p>	
<p>学びメッセージ</p>	<p>高校生でもできることはたくさんあり、大切なのはまず第一歩を踏み出すこと。</p>	

- 関連SDGs
- 1 貧困をなくそう
 - 2 飢餓をゼロに
 - 3 すべての人に健康と福祉を
 - 4 質の高い教育をみんなに
 - 5 ジェンダー平等を実現しよう
 - 6 安全な水とトイレを世界中に
 - 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
 - 8 働きがいも経済成長も
 - 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
 - 10 人や国の不平等をなくそう
 - 11 住み続けられるまちづくりを
 - 12 つくる責任 つかう責任
 - 13 気候変動に具体的な対策を
 - 14 海の豊かさを守ろう
 - 15 陸の豊かさを守ろう
 - 16 平和と公正をすべての人に
 - 17 パートナーシップで目標を達成しよう

- 関連SDGs
- 1 貧困をなくそう
 - 2 飢餓をゼロに
 - 3 質の高い人権・性別と健康を
 - 4 質の高い教育をみんなに
 - 5 ジェンダー平等を
 - 6 安全な水とトイレを世界中に
 - 7 再生可能エネルギーを
 - 8 働きがいも経済成長も
 - 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
 - 10 人や国の不平等をなくそう
 - 11 住み続けられるまちづくりを
 - 12 つくる責任 つかう責任
 - 13 気候変動に具体的な対策を
 - 14 海の豊かさを守ろう
 - 15 陸の豊かさを守ろう
 - 16 平和と公正をすべての人に
 - 17 パートナリシップで目標を達成しよう

報告者	<p>どえりゃあwings 日永侑利、山崎響、鈴木希授</p> <p style="text-align: right;">実施メンバー：計54人</p>	
社会問題 & アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・移住地域による教育格差の削減 ⇒街頭募金を行い、ネパールの南部の孤児院へ寄付 ・労働者と消費者が対等な商売 ⇒企業の方と共同開発し、フェアトレードコーヒーの販売し全額現地へ寄付 ・地球温暖化 ⇒WWFのアースアワーサポーターとして参加 <p>期間： 2019年3月30日～2020年2月14日</p>	
アクションの種類	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
数値成果	<p>フェアトレード商品販売による売り上げ：14,290円（約70杯） 街頭募金：412,000円</p>	
なぜこの問題 & アクションなのか	<p>同世代である子供たちが、教育を受けられないと、自分達が世界を引っ張る世代になったとき、「誰も取り残さない」ための討論や会議ができず、世界や国が改善されず何も変化を起こせなくなってしまう。それを防ぐことで、世界がより良いものになる。</p>	
工夫したこと / 達成したこと	<p>メンバーが高校関係なく、愛知県中の人たちが集まっているので、それぞれが自分の高校に呼び掛けることによって多くの人を巻き込み、協力してもらった</p>	
困難だったこと / 次回に向けて	<p>募金や出店の時になかなか人が集まらなかったことが多かったので、FacebookやTwitterなどのSNSで紹介をして、より多くの人目に触れてもらうようにした。</p>	
学びメッセージ	<p>何もきっかけがなく、行動していない人が多いけれど、その分自分たちがきっかけになれば世界をよりよくしていこうとする人が多いということ。</p>	

<p>報告者</p>	<p>Free The Children Japan 熊本 実施メンバー：計18人</p> <p>東山奈穂、住本唯、久保田千尋、松永美和、福田佳乃子、柳田彩圭、松永真依、村上玲奈、工藤優奈、工藤すみれ、三城かえ、北野綾菜、西村姫乃、廣瀬実結、鳶田トリシャ、平川愛菜、本多明日香、岩坂省吾</p>	
<p>社会問題 & アクション</p>	<p>mini We Day Kumamoto 2nd-夢- 見つめよう夢、私達そしてみんなのための日 スピーチ、ワークショップ、音楽を通して 児童労働問題や子どもの権利について学ぶ イベントの開催を計画。開催に向けて、① 国際ボランティアワークキャンプinASOに 実行委員として参加。子どもの権利や児童 労働の分科会を立ち上げ実施。②くまもと 高校生フェスティバルに参加しフェア トレード商品の代理販売、ステージでは児童 労働と子どもの権利についてプレゼン③フ リーマーケットに参加しPREDA基金支援 のための販売を行う。その他地元のテレビ 番組に出演しFTCJのPRを行った。</p> <p>期間：2019年2月1日～2020年3月29日</p>	
<p>アクション の種類</p>	<p>資金支援・物資支援・ボランティア・自己行動変革・啓発活動・アドボカシー・ソーシャルビジネス</p>	
<p>数値成果</p>	<p>ワークショップを約60人の高校生に対し実施。ステージで約20人のお客さんの前でプレゼン。フェアトレード商品販売による売り上げ11,900円。</p>	
<p>なぜこの 問題& アクション なのか</p>	<p>児童労働問題では子どもの権利がはく奪され強制的に働かされ成長が脅かされている子ども達がいる事を知り、伝えることが重要ととらえた。また障害を持った子ども達も子どもの権利が順守されていない状況にもあることを知り大人を中心に社会に働きかけ、子ども達のより健全に育つことのできる社会へ変えていきたい。</p>	
<p>工夫した こと /達成した こと</p>	<p>子どもの権利を知り障害をもった子どもたちに対する関わり方を学んでもらえた。児童労働問題は具体的データを提示しどの様な問題が起きて居るのか疑似体験し理解してもらえた。</p>	
<p>困難 だったこと /次回に 向けて</p>	<p>スケジュール管理を確りで行いメンバー同士同じ足並みで活動を行っていく必要がある。</p>	
<p>学び メッセージ</p>	<p>漠然としか知らなかった子ども問題に関して専門的な学習の入口に立つ事が出来た。これからのみんなの進路選択において貴重な学びとなった。</p>	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

報告者	ガールスカウト東京都第166団 小学生23人・中学生4人・高校生1人・指導者5人		実施メンバー：計33人 在住：東京都	
社会問題 & アクション	フードマイレージ・フードロスについて年代ごとに異なるアプローチで学ぶ	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	25人	
期間：2019年4月1日～2020年3月31日				
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ	
食べられない子供が世界にいること。日本国内で消費する食物がどのくらいの輸送費を使っているかを知ること。なるべく地産地消が望ましいこと。キャンプでなるべくごみを出さない方法を知ること。そのようなことを知り、家族に伝えることにより小さなアクションが大きくなることを体験する。	1年間をかけて学ぶことで、SDGsの全てのゴールの達成する重要性を理解することに繋げていきたい。			

報告者	プランインターナショナル Youth Advisory Panel 佐々木優子、東方彩野		実施メンバー：計20人 在住：東京都	
社会問題 & アクション	高校生のジェンダー問題に対し、You ワークショップの開催、その報告を行いました。	アクションの種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス	
		数値成果	20人にワークショップを実施	
期間：2019年3月31日～2020年2月29日				
なぜこの問題 & アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと / 次回に向けて	学び・メッセージ	
ジェンダーに関することで苦しむ高校生がいるから	身の回りのユースと一緒になって問題について考えること	新体制でこの組織を運営したこと。組織の目的をこれからしっかり話し合いたい。	ジェンダーに関することで苦しむ人が周りにいることを私自身学びました。	

報告者	NPO法人家庭犬使役犬訓練協会 小川大地		実施メンバー：個人 在住：千葉県	
社会問題 & アクション	動物のさつ処分0を目指して活動 をしています。現在、さつ処分の 現状をしってもらうため不定期で セミナーを開いています。又、飼 えなくなってしまった動物を飼 いたい人にマッチングして捨てられ る動物を減らす活動をしています。		アクション の種類	資金支援・物資支援・ボランティア 自己行動変革・啓発活動・アドボカシー ソーシャルビジネス
	期間：2019年3月～現在		数値成果	セミナー7人 2頭の犬猫に新しい飼い主 FMラジオでの活動紹介1回
なぜこの問題 &アクションなのか	工夫したこと/達成したこと	困難だったこと /次回に向けて	学び・メッセージ	
生まれた命を可愛くない、鳴 き声がうるさい、引っ越すか ら飼えなくなったなどの理由 からさつ処分の施設に收容し にくい現状が見過ごせません でした。正直、社会問題とか 難しいことはわかりませんが、 個人的な考えとしてそうい った現状を変えられたらと思 っています。	千葉県動物愛護センターで、 收容されている動物の引き 取りをできないか相談をし ましたが、譲渡の実績がな いと出来ないことを知り、 飼えなくなってしまった動 物の新しい飼い主探しを始 めました。2頭の犬猫を新し い飼い主に引き渡すことが できた。又、佐倉市のカ フェでセミナーを開き、さ つ処分の現状を伝えられた。	千葉県千葉市にある千葉市中 央公園でさつ処分の現状を 知ってもらうため、また、新 たな飼い主を探している動物 のマッチングのため大きなイ ベントを開催予定でしたが、 野外での開催、台風の影響も あり、中止になってしまい ました。次回は時間をかけて屋 内での実施をしようと準備を しています。	学んだことはたくさんありま すが、特に思うのが思った通 りに進まないことです。壁が たくさんあり、色々な人とぶ つかりましたがさつ処分0が 達成できるま活動を続けよう と思います。	

関連SDGs

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 再生可能エネルギーを普及させる
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

ACTION REPORTS

-その他-

◆東京グレートサンタラン

ランナー（ボランティア：1時間）・スタッフ（ボランティア：6時間）

吉原鈴夏、藤井朱里、角田菜々花、高瀬乃武央、高瀬京子、杉山友太、山口凜、納谷元輔、菅原那奈、菅原郷史、篠崎万葉、吉田慧、木村慶大、木村壮次郎、木村美樹、梅本花音、光田晴裕、田中愛友利、田中純那、田中紀美子、中村仁美、光田晴裕、松島未奈、青木聡華、飴谷彩原、

◆フリー・ザ・チルドレン・ジャパン テイク・アクション・キャンプ

参加者（ボランティア：6時間）・スタッフ（ボランティア：50時間）

アービドソン律貴、雨宮二葉、岡田桜子、梶田桃加、宮地風惟、駒走旬星、黒住咲希、坂口くり果、山本倫子、漆畑とわ、小池りりい、松田和馬、沼上初日、新井暖佳、新田日鞠、石井花怜、川北愛恩、池田楓悠、中村至恩、中里芙紅、長谷田柚月、内田真琉三、白井遼太郎、林夏美子、櫻庭仁葉、眞澤環希、伊藤仁子、吉田真喜、神保州一郎、泉咲也子、大城あずさ、中條敬生、樋口滴、矢尾夏大、柳原琢馬、加藤七帆、大沼彩乃、越野天音、山下朝夏、清水映、山田愛祈子、外山真、檜原成志、岩澤祐一郎、島岡菜々美、立松みどり、長瀬萌、藤原梨穂、中山さくら、石谷小蒔、山根好陽、酒井梨奈、清宮小百合、中村茜、本川優希、芦田遥陽、笹野文香、木村真梨、加藤優弥、高橋優月

◆フリー・ザ・チルドレン・ジャパン スタディツアー（ボランティア：20時間）

伊吹京、梶田桃加、原千尋、荒木いくみ、坂口くり果、小倉涼葉、清宮小百合、大庭怜士、湯本飛鶴、金尾紗良、笹野文香、中村菜織、濱橋雅幸、濱野航、福原立春香、藤原梨穂、竹内一哉、藪部夢有人、杉田康輔、

◆国会議員のための世界一大きな授業（アドボカシー）

志田璃花、大野ひより、鈴木りゆか

◆WE Day Japan ユースアンバサダー（啓発活動/ボランティア）

渡邊夏帆、越野天音、湯本飛鶴、金道熹、小椋風鈴、小坂橋瑛斗、吉良明海里、山田麻心、杉原由梨奈、高松もも花、大沼彩乃、宮本佳歩、大野ことみ、渡沼詩央、斉又鳴、加藤優弥、安藤日為、高橋優月、石谷小蒔、伊藤さくら、西川和、岡本恵実、吉田彩乃、安部瞳、関唯那、河合実卯、今田恭太、本川優希、池邊亮輔、坂口くり果、

WE ACTION CAMPAIGN

-WE アクションキャンペーン-

WE CREATE CHANGE

-10円玉募金活動-

WE SHARE CARDS

-書き損じはがき回収活動-

WE BOOK BETTER WORLD

-募本活動-

WE SCARE HUNGER

-フードドライブ活動-

WE ORIGINAL ACTION

-オリジナルアクション-



WE FREE THE CHILDREN

WE Create Change

小さなチカラも集めれば大きくなる！
10円玉を集めて収入向上の機会を応援しよう！



5,000円



ヤギ1頭



世界では…

- ・開発途上国の6人に1人は、1日1.25ドル以下で暮らしています。
- ・多くの国で、女性は男性の60-75%の給料しか稼げません。



1 貧困をなくそう 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	8 働きがいも経済成長も
-------------------------	-------------------------------	----------------------------

SDGs(持続可能な開発目標)では、2030年までに、あらゆる場所・あらゆる形態の貧困、女の子の差別をなくし、すべての人が人間らしい仕事ができる世界を目指しています。

フリー・ザ・チルドレンは、WE Create Changeキャンペーンを通じ、家族が自立できるよう、女性を中心に生計維持・収入向上を支援します。

家畜の提供、飼育のトレーニング、会計に関する教育の提供、手工芸品の生産、ビジネスのための融資などを実施。ヤギは、ミルクを販売することで収入に繋がる大きな存在！

詳しい「収入向上プロジェクト」については、ウェブサイトでご確認ください。

振込先

集めていただいた10円玉は、数を数えたうえで、事務所に直接お持ちいただくか、以下の口座までお振込みください。
※振込手数料はご負担いただいております。ご協力のほどお願いいたします。

<銀行振込> 三菱東京UFJ銀行 上野支店 普通5360502 (トクヒ) フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
<郵便振替> 00120-5-161532 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

アクションを報告する

- フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに報告してWE Day Japanに参加しよう！ (<https://ftcj.org/wedayjapan/register>)
- SNSで報告⇒ハッシュタグ #WECreateChange を付けてキャンペーンを広めよう！



FREE THE CHILDREN

「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に
認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは1995年に、当時12歳のカナダ人の少年によって貧困から子どもを解放することを目的に設立されたFree The Children(現WE)の日本支部として1999年から活動を始めた団体です。子どもや若者が国内外の問題に取組み、変化を起こすチェンジメーカーになるようにエンパワーしています。



WE FREE THE CHILDREN

眠っているハガキが大きなチカラに！
書き損じはがきを集めて命を守るワクチンを届けよう！

WE Share Cards



190枚
(7,500円分)



ワクチン
1人分



世界では…

・毎年600万人の子ども達が5歳未満で命を落としています。また、その死因のほとんどは、予防（治療）可能な、出産時の合併症、肺炎、下痢、新生児敗血症、マラリアなどです。



SDGs(持続可能な開発目標)では、2030年までに、新生児および5歳未満児の予防可能な死亡を根絶し、また、エイズ、結核、マラリアや熱帯病といった伝染病の根絶と、肝炎、水系感染症などの感染症に対処することを目指しています。

フリー・ザ・チルドレンは、WE Share Cardsキャンペーンを通じ、村の子ども達が健康に成長できるよう、保健プロジェクトを支援します。

詳しい「保健プロジェクト」については、ウェブサイトでご確認ください。

■対象のもの

・未投函のハガキ（書き間違い / 印刷ミス / 買ったけど使っていない / etc）、未使用の切手

注意：以下は集めていません

・宛先不明で返送されたハガキ、切手の貼っていない私製ハガキ、額面部分が読み取れないハガキ

■郵送先

集めていただいたハガキは、切手の値段ごとに分類し、それぞれの枚数を数えたうえで、事務所に直接お持ちいただくか、以下の住所まで郵送お願い致します。（送料はご負担いただいております。ご協力のほどお願いいたします。）

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F フリー・ザ・チルドレン・ジャパン事務局

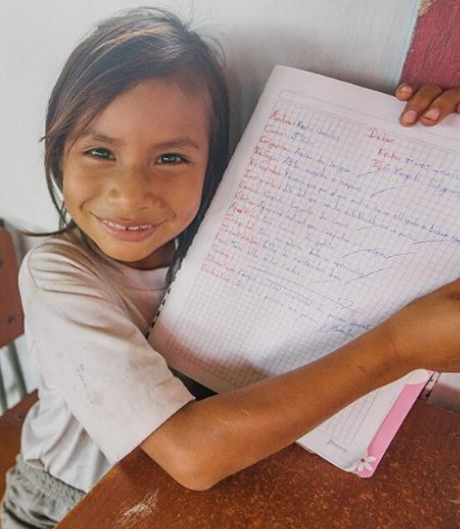
■アクションを報告する

- フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに報告してWE Day Japanに参加しよう！（<https://ftcj.org/wedayjapan/register>）
- SNSで報告⇒ハッシュタグ #WEShareCards を付けてキャンペーンを広めよう！

WE FREE THE CHILDREN 「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に
認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは1995年に、当時12歳のカナダ人の少年によって貧困から子どもを解放することを目的に設立されたFree The Children(現WE)の日本支部として1999年から活動を始めた団体です。子どもや若者が国内外の問題に取組み、変化を起こすチェンジメーカーになるようにエンパワーしています。

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F TEL: 03-6321-8948 EMAIL: info@ftcj.org WEB: www.ftcj.org



WE FREE THE CHILDREN

眠っている本が大きなチカラに！
古本を集めて換金して教育の機会を応援しよう！

WE Book
Better World



3,000円



学用品
1人分



世界では…

- ・約6,000万人の子ども達が小学校に通っていません。
- ・基礎教育を受けられなかった結果、現在も約7億5,000万人の大人が文字の読み書きができません。



4

質の高い教育を
みんなに



SDGs(持続可能な開発目標)では、2030年までに、
すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ有効な学習成果をもたらす、自由かつ公
平で質の高い初等教育および中等教育を修了できるようにすることを目指しています。

フリー・ザ・チルドレンは、WE Book Better Worldキャンペーンを通じ、
子ども達が学校に通い学習を続け自立できるよう、教育プロジェクトをします。

教室や図書室の建設や修繕、教員の宿泊施設の建設、教員育成、課外活動クラブなどを実施。

定期的に必要となる学用品の支援は、途中退学を防ぐ手段のひとつ。

詳しい「教育プロジェクト」については、ウェブサイトでご確認ください。

■活動方法

- ・古本を集めて、古本買い取り業者に買い取ってもらう。(近所のお店へ持ち込み、無料集荷をしているところも多くあります。)
- ・販売して得たお金を事務所に直接お持ちいただくか、以下の口座までお振込みください。

※振込手数料はご負担いただいております。ご協力のほどお願いいたします。

<銀行振込> 三菱東京UFJ銀行 上野支店 普通5360502 (トクヒ) フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

<郵便振替> 00120-5-161532 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

※フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが提携している”本棚お助け隊”の”古本チャリティ募金”を利用すれば、査定後、本の買い取り金額+10%が直接寄付として送ることができます。お金のやり取りを自分でしなくてもよいので、心配いらずです。

■アクションを報告する

- フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに報告してWE Day Japanに参加しよう！ (<https://ftcj.org/wedayjapan/register>)
- SNSで報告⇒ハッシュタグ #WEBookBetterWorld を付けてキャンペーンを広めよう！



FREE THE CHILDREN

「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に
認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは1995年に、当時12歳のカナダ人の少年によって貧困から子どもを解放することを目的に設立されたFree The Children(現WE)の日本支部として1999年から活動を始めた団体です。子どもや若者が国内外の問題に取組み、変化を起こすチェンジメーカーになるようにエンパワーしています。

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F TEL: 03-6321-8948 EMAIL: info@ftcj.org WEB: www.ftcj.org



WE FREE THE CHILDREN

眠っている食品で地域の人のチカラに！

フードドライブで食品を必要としている人に届けよう！

WE Scare Hunger



日本では…

- ・国の生活水準・文化水準を下回る”相対的貧困”の割合が16.7%、子ども全体の7人に1人が貧困状態です。
- ・まだ食べられる食べ物が捨てられる”食品ロス”は、日本だけで年間643万トンあります。



2 飢餓をゼロに



SDGs(持続可能な開発目標)では、2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られること、小売/消費レベルにおいて一人当たりの食料の廃棄を半減させることを目指しています。

フリー・ザ・チルドレンは、WE Scare Hungerキャンペーンを通じ、子ども達が栄養ある食事ができる社会を応援します。

フードロスの10%が正しく必要な人に届いたら、

日本のすべての子どもが、栄養ある食事(昼食)をとることができる！

※2016年の15歳未満人口1,578万人のうち、貧困状態が7人に1人。昼食(学校給食)の一食分は約700gで計算。

■活動方法

- ・地域のフードバンクや行政の窓口を確認し、集めている食品を確認する。

以下が基本的な条件となっています。

- ①未開封であること(包装が破損していない) ②冷凍・冷蔵でないこと ③賞味期限まで指定期間以上あること

集めている食品例：お米・玄米・小麦粉、インスタント・レトルト食品、乾麺(パスタ、そうめん、うどんなど)、海苔など乾物類、味噌・醤油・食用油・砂糖・塩など調味料、缶詰(肉・魚・野菜・果物など)、嗜好品(お菓子類、インスタントコーヒー、紅茶、お茶など)、飲料(お酒は除く)、ベビー食品など

- ・食品を集めて、届ける。(当団体では回収していませんので、ご注意ください。)

■アクションを報告する

- フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに報告してWE Day Japanに参加しよう！(<https://ftcj.org/wedayjapan/register>)
- SNSで報告⇒ハッシュタグ #WEScareHunger を付けてキャンペーンを広めよう！



「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは1995年に、当時12歳のカナダ人の少年によって貧困から子どもを解放することを目的に設立されたFree The Children(現WE)の日本支部として1999年から活動を始めた団体です。子どもや若者が国内外の問題に取組み、変化を起こすチェンジメーカーになるようにエンパワーしています。



自分でオリジナルのアクションを考えてみたい時は、
「WE Original Actionキャンペーンキット」を活用しよう！

◆WE Original Action キャンペーンキットとは
 アクションを起こすための基本的な4つのステップを
 踏みながら、自分なりのアクションを起こすことが出
 来る無料のキットです。



[アクションのステップ]

ステップ1 取り組みたい社会問題を決めよう

SDGsに触れながら、国内外の課題と自分との関係性を見つめ、取り組む課題を見つけます。

ステップ2 目標を決めてアクション計画を立てよう

取り組みたい社会問題の解決に向け、どんなアクションが起こせるのか考え、プランを立てていきます。

ステップ3 TAKE ACTION!アクションを起こそう

2でたてたプランを実行します。注意事項や記録方法、やりきるヒント等紹介します。

ステップ4 アクションを振り返り、報告・お祝いをしよう

プログラムを通じてどんな成果を生み出せたかを振り返り、お祝いしよう！
 アクションの報告をしてWE Dayにも参加しよう！

<キットの無料ダウンロードや、その他アクションキャンペーン詳細はウェブサイトから>
<https://ftcj.org/we-movement/weactioncampaigns>

